

茨城県ヤングケアラー実態調査報告書

令和4年11月

茨城県福祉部福祉政策課

目次

1	中高生の生活実態に関するアンケート調査.....	1
1.1	調査実施概要.....	1
1.1.1	調査目的.....	1
1.1.2	調査対象.....	1
1.1.3	実施時期.....	1
1.1.4	調査方法.....	1
1.1.5	回答状況.....	1
1.2	中高生アンケート調査 調査結果.....	2
1.2.1	基本情報.....	2
1.2.2	ふだんの生活について.....	6
1.2.3	家庭や家族のことについて.....	10
1.2.4	ヤングケアラーについて.....	23
1.3	クロス集計.....	31
1.3.1	家族の世話の有無による家族生活等の状況.....	31
1.3.2	性別による世話の状況の違い.....	36
1.3.3	家族構成による世話の状況の違い.....	42
1.3.4	平日1日あたりの世話に費やす時間による生活状況等について.....	48
1.3.5	世話を必要としている家族による世話の状況等.....	54
1.3.6	世話をすることに感じているきつさによる世話の状況の違い.....	58
1.3.7	ヤングケアラーの自己認識による生活状況、世話の状況の違い.....	63
1.3.8	世話に関しての相談の状況.....	72
2	小学生の生活実態に関するアンケート調査.....	73
2.1	調査実施概要.....	73
2.1.1	調査目的.....	73
2.1.2	調査対象.....	73
2.1.3	実施時期.....	73
2.1.4	調査方法.....	73
2.1.5	回収状況.....	73
2.2	小学生アンケート調査 調査結果.....	74
2.2.1	基本情報.....	74
2.2.2	ふだんの生活について.....	75
2.2.3	家庭や家族のことについて.....	78
2.3	クロス集計.....	88
2.3.1	家族の世話の有無による学校生活などの状況.....	88
2.3.2	性別による世話の状況の違い.....	92

2.3.3	家族構成による世話の状況の違い	99
2.3.4	平日1日あたりの世話に費やす時間による生活状況等	105
2.3.5	世話を必要としている家族による世話の状況	110
2.3.6	世話をすることに感じているきつさによる世話の状況の違い	117
2.3.7	世話に関しての相談の状況	122
3	中学校・中等教育学校・高等学校におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査	123
3.1	中学校・中等教育学校・高等学校アンケート調査の実施概要	123
3.1.1	調査目的	123
3.1.2	実施時期	123
3.1.3	調査方法	123
3.1.4	回答状況	123
3.2	学校調査の結果	124
3.2.1	学校の概要	124
3.2.2	支援が必要だと思われる子どもへの対応	125
3.2.3	ヤングケアラーについて	134
3.2.4	個別の事例	146
3.2.5	ヤングケアラーへの対応に関する取組事例	152
4	小学校におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査	155
4.1	小学校アンケート調査の実施概要	155
4.1.1	調査目的	155
4.1.2	実施時期	155
4.1.3	調査方法	155
4.1.4	回答状況	155
4.2	学校調査の結果	156
4.2.1	学校の概要（回答者の役職）	156
4.2.2	支援が必要だと思われる子どもへの対応	156
4.2.3	ヤングケアラーについて	161
4.2.4	個別の事例	167
5	要保護児童対策地域協議会におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査	172
5.1	要保護児童対策地域協議会アンケート調査の実施概要	172
5.1.1	調査目的	172
5.1.2	実施時期	172
5.1.3	調査方法	172
5.1.4	回答状況	172

5.2	要保護児童対策地域協議会アンケート調査結果.....	173
5.2.1	要保護児童対策地域協議会におけるケース登録件数について.....	173
5.2.2	ヤングケアラーの認識について.....	174
5.2.3	要保護児童対策地域協議会における登録児童について.....	177
5.2.4	要保護（要支援）児童の中にヤングケアラーと思われる子どもがいた場合 の対応.....	178
5.2.5	ヤングケアラーに対する取組について.....	182
5.2.6	ヤングケアラーの早期発見や支援についての課題.....	183
5.2.7	ヤングケアラーと思われる子どもへの対応として関係機関に 期待すること.....	185
5.2.8	厚生労働省『ヤングケアラー』の早期発見のためのアセスメントシート」 の使用の有無.....	187
6	資料編.....	188
6.1	中学生・中等教育学校・高校生向けアンケート票.....	188
6.2	小学生向けアンケート票.....	197
6.3	中学校・中等教育学校・高等学校におけるヤングケアラーへの対応に関する アンケート票.....	209
6.4	小学校におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート票.....	218
6.5	要保護児童対策地域協議会におけるヤングケアラーへの対応に関する アンケート票.....	225

1 中高生の生活実態に関するアンケート調査

1.1 調査実施概要

1.1.1 調査目的

茨城県内の中学生、高校生を対象に、「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態を把握するためにアンケート調査を実施した。

1.1.2 調査対象

茨城県内の中学校・高等学校の全生徒（約 153,000 人）

1.1.3 実施時期

令和4年4月～7月

1.1.4 調査方法

対象の学校へ生徒本人向け・保護者向けの調査概要を郵送し、学校を通じて、生徒本人へ調査回答フォームのQRコード、URLを記載した調査概要を配布。Web上で回答、回収を実施。

※通信制高校では、学校から生徒への調査概要の配布について、メール等による配布を基本とした。

1.1.5 回答状況

各学校種・学年別での回答状況は以下のとおり。

図表－1 回答状況

調査対象区分		調査対象数	有効回答数					回答率
			1年生	2年生	3年生	4年生	合計	
中学生		約 77000	5258	4769	4185	-	14212	18.5%
高校生	全日制高校生	約 76000	5197	5466	4437	-	16116	21.2%
	定時制高校生		258	272	331	41		
	通信制高校生		41	35	33	5		

1.2 中高生アンケート調査 調査結果

1.2.1 基本情報

① 性別

回答者の性別については、以下のとおり。

図表－ 2 性別

(%)

	調査数 (二)	男性	女性	その他	答えたくない	無回答
中学生	14212	46.9	50.2	0.6	2.0	0.3
全日制高校生	15100	47.3	49.1	0.8	2.6	0.1
定時制高校生	902	52.7	39.1	2.1	6.1	0
通信制高校生	114	36.8	53.5	5.3	4.4	0

② 居住地

回答者の居住地については、以下のとおり。

図表－ 3 居住地

(%)

	調査数 (Ⅱ)	中学生	全日制 高校	定時 制高校	通信 制高校		調査数 (Ⅱ)	中学生	全日制 高校	定時 制高校	通信 制高校
水戸市	2533	6.3	10.0	12.9	10.5	坂東市	322	0.8	1.4	0.3	0.9
日立市	1327	3.7	4.6	12.2	4.4	稲敷市	615	2.7	1.5	0.9	0.9
土浦市	1278	3.3	5.0	4.3	4.4	かすみがうら市	391	1.4	1.2	0.9	0.9
古河市	1686	7.9	3.6	2.0	0	桜川市	609	3.0	1.1	1.1	0.9
石岡市	794	3.7	1.7	0.9	0.9	神栖市	900	3.0	3.0	1.3	3.5
結城市	280	0.5	1.3	1.7	0	行方市	394	1.4	1.2	1.0	0.9
龍ヶ崎市	603	0.9	3.1	0.9	1.8	銚田市	369	0.6	1.7	1.8	1.8
下妻市	416	1.2	1.6	0.3	0.9	つくばみらい市	875	4.4	1.5	1.9	0.9
常総市	582	1.5	2.3	2.5	1.8	小美玉市	707	3.3	1.5	1.3	2.6
常陸太田市	390	1.5	1.2	0.6	0	茨城町	567	2.3	1.5	1.3	0
高萩市	160	0.2	0.6	3.7	0	大洗町	118	0.2	0.6	0.3	0.9
北茨城市	212	0.3	1.0	2.9	0.9	城里町	119	0.2	0.6	0.6	0.9
笠間市	734	3.0	1.9	1.4	1.8	東海村	779	3.4	1.8	1.6	3.5
取手市	656	1.7	2.6	0.9	1.8	大子町	98	0.1	0.5	0.6	1.8
牛久市	906	1.5	4.2	5.3	5.3	美浦村	374	1.8	0.7	0.6	0
つくば市	2671	10.4	7.3	8.3	5.3	阿見町	523	0.8	2.6	2.7	0.9
ひたちなか市	1922	6.3	6.3	6.4	7.9	河内町	37	0.0	0.2	0	0
鹿嶋市	807	1.3	3.9	2.8	8.8	八千代町	153	0.3	0.7	0.4	0
潮来市	327	1.4	0.9	0.1	0.9	五霞町	33	0.2	0.0	0.1	0
守谷市	510	1.5	1.9	0.7	0.9	境町	376	1.8	0.7	0.3	0
常陸大宮市	307	0.7	1.3	0.6	0.9	利根町	312	1.9	0.3	0.1	0
那珂市	635	2.2	2.0	3.0	1.8	茨城県外	602	0.9	3.0	1.7	10.5
筑西市	799	2.1	3.1	3.0	0.9	無回答	515	2.2	1.2	2.0	7.0

③ 同居家族

同居家族については、いずれも「母親」の割合が最も高く、次いで「父親」「弟・妹」となっている。定時制高校生は、他に比べ「父親」の割合が低くなっている。

図表－ 4 同居家族

(%)

	調査数 (Ⅱ)	母親	父親	祖母	祖父	兄・姉	弟・妹	その他	無回答
中学生	14212	97.4	86.7	23.2	17.1	43.6	47.0	7.2	0.2
全日制高校生	15100	93.4	80.6	22.2	15.3	37.3	46.5	8.6	0.3
定時制高校生	902	91.0	70.2	22.3	13.2	37.8	44.7	9.0	0.9
通信制高校生	114	89.5	78.1	25.4	14.0	24.6	47.4	8.8	0.9

④ 家族構成

同居家族から推定した家族構成については、以下のとおり。

図表－ 5 家族構成

(%)

	調査数 (Ⅱ)	二世 代世帯	三世 代世帯	ひとり 親家庭	寮・施設 一人暮らし・	その他 の世帯	無回答
中学生	14212	64.9	25.1	8.8	0.1	0.8	0.2
全日制高校生	15100	59.9	23.5	12.4	1.6	2.2	0.3
定時制高校生	902	51.6	22.7	20.3	0.8	3.8	0.9
通信制高校生	114	52.6	27.2	14.9	0.0	4.4	0.9

ひとり親家庭：同居家族が「母親」もしくは「父親」および「きょうだい」などで構成される家庭

⑤ 健康状態

健康状態については、中学生、全日制高校生では「よい」の割合が最も高くなっているが、定時制高校生・通信制高校生では「よくない」の割合が相対的に高くなっている。

図表－ 6 健康状態

(%)

	調査数 (n)	よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない	無回答
中学生	14212	57.9	19.3	18.7	3.3	0.6	0.1
全日制高校生	15100	45.0	20.1	28.7	5.3	0.8	0.1
定時制高校生	902	36.5	17.4	34.3	9.0	2.7	0.2
通信制高校生	114	23.7	17.5	33.3	21.1	4.4	0

1.2.2ふだんの生活について

① 学校への通学状況：出席状況

学校の出席状況については、いずれも「ほとんど欠席しない」の割合が最も高くなっている。定時制高校生および通信制高校生では全日制高校生に比べ「たまに欠席する」「よく欠席する」の割合が高くなっている。

図表－ 7 出席状況

(%)

	調査数 (n)	ほとんど 欠席しない	たまに 欠席する	よく 欠席する	無回答
中学生	14212	80.3	8.3	11.3	0.1
全日制高校生	15100	78.4	9.8	11.7	0.1
定時制高校生	902	61.3	21.3	17.2	0.2
通信制高校生	114	40.4	36.0	21.9	1.8

② 学校への通学状況：遅刻や早退の状況

学校の遅刻や早退の状況については、いずれも「ほとんどしない」の割合が最も高くなっている。定時制高校生および通信制高校生では中学生や全日制高校生に比べ「たまにする」「よくする」の割合が高くなっている。

図表－ 8 遅刻や早退の状況

(%)

	調査数 (n)	ほとんど しない	たまに にする	よく する	無回答
中学生	14212	89.8	8.5	1.6	0.2
全日制高校生	15100	88.7	9.9	1.2	0.1
定時制高校生	902	73.7	21.2	4.8	0.3
通信制高校生	114	69.3	20.2	8.8	1.8

③ 部活動への参加状況

部活動への参加状況については、中学生では「参加している」の割合が9割を超えている。また、定時制高校生・通信制高校生では「参加していない」の割合が全日制高校生に比べ高くなっている。

図表－ 9 部活動への参加状況

(%)

	調査数 (n)	参加 している	参加 していない	無 回答
中学生	14212	92.4	7.3	0.2
全日制高校生	15100	66.2	33.7	0.1
定時制高校生	902	44.0	55.7	0.3
通信制高校生	114	31.6	67.5	0.9

④ ふだんの学校生活等であてはまること

ふだんの学校生活等であてはまることについては、「特にない」の割合が最も高くなっているが、全日制高校生や定時制高校生では「授業中に居眠りすることが多い」の割合がそれぞれ27.7%、24.5%と高くなっており、また、通信制高校生では「学校では一人で過ごすことが多い」が29.8%、「友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない」が22.8%と高くなっている。

図表－ 10 ふだんの学校生活等であてはまること（複数回答）

(%)

	調査数 (n)	授業中に居眠りすることが多い	宿題や課題が できていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	部活動や習い事を休むことが多い	提出しなければいけない書類 などの提出が遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事を 欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校では 一人で過ごすことが多い	友人と遊んだり、おしゃべり したりする時間が少ない	特にない	無 回答
中学生	14212	10.1	12.7	17.2	3.9	14.1	0.6	0.7	5.3	5.8	61.7	2.1
全日制高校生	15100	27.7	13.8	12.9	3.2	12.7	0.9	0.7	6.9	7.5	52.2	1.5
定時制高校生	902	24.5	17.0	15.6	4.2	18.6	3.4	1.1	11.8	10.2	46.5	1.2
通信制高校生	114	13.2	19.3	13.2	3.5	14.0	6.1	5.3	29.8	22.8	39.5	2.6

⑤ 現在の悩みや困りごと

現在の悩みや困りごとについては、中学生では「特にない」の割合が49.3%と最も高いが、高校生では「進路のこと」が最も高くなっている。また、通信制高校生では「家庭の経済状況のこと」「自分と家族との関係のこと」「家族内の人間関係のこと」の割合がいずれも他に比べ高くなっている。

図表－ 11 現在の悩みや困りごと（複数回答）

(%)

	調査数 (n)	友人との関係のこと	学業成績のこと	進路のこと	部活動のこと	学費（授業料）など 学校生活に必要な お金のこと	塾（通信含む） や習い事ができない	家庭の 経済状況のこと
中学生	14212	15.2	28.2	26.4	12.3	2.8	1.3	3.4
全日制高校生	15100	12.9	31.2	41.5	9.4	5.9	0.8	5.4
定時制高校生	902	15.9	23.1	42.2	5.5	7.1	1.3	9.3
通信制高校生	114	19.3	27.2	43.9	4.4	11.4	3.5	13.2

	調査数 (n)	自分と家族との 関係のこと	家族内の人間関係の こと（両親の仲が 良くないなど）	病気や障がい のある家族のこと	自分のために使える 時間が少ない	その他	特にない	無回答
中学生	14212	5.0	3.4	1.3	5.7	3.0	49.3	2.6
全日制高校生	15100	4.3	3.4	1.2	6.9	2.3	38.4	2.0
定時制高校生	902	8.9	5.2	3.1	5.7	3.7	38.5	2.1
通信制高校生	114	18.4	11.4	3.5	3.5	8.8	28.9	3.5

⑥ 悩みや困りごとの相談相手・話を聞いてくれる人の有無

何らかの悩みや困りごとがあると回答した人に、相談相手・話を聞いてくれる人の有無について聞いたところ、いずれも「相談相手や話を聞いてくれる人がいる」の割合が過半数を超え最も高くなっているが、一方で「相談や話はしたくない」が2～3割いる。

図表－ 12 悩みや困りごとの相談相手・話を聞いてくれる人の有無

(%)

	調査数 (n)	相談相手や話を聞いてくれる 人がいる	相談相手や話を聞いてくれる 人がいない	相談や話はしたくない	無回答
中学生	6834	66.6	5.5	26.4	1.5
全日制高校生	9007	69.9	6.2	21.8	2.1
定時制高校生	536	65.7	7.3	25.6	1.5
通信制高校生	77	51.9	15.6	31.2	1.3

1.2.3 家庭や家族のことについて

① 世話をしている家族の有無

世話をしている家族の有無については、定時制高校生や通信制高校生では世話をしている家族が「いる」の割合が高くなっている。

図表－ 13 世話をしている家族の有無

(%)

	調査数 (Ⅱ)	いる	いない	無回答
中学生	14212	4.5	92.3	3.2
全日制高校生	15100	3.6	94.1	2.3
定時制高校生	902	9.4	88.0	2.5
通信制高校生	114	12.3	82.5	5.3

② 世話を必要としている家族

世話を必要としている家族については、いずれも「きょうだい」の割合が最も高く、次いで、「父母」となっている。

図表－ 14 世話を必要としている家族（複数回答）

(%)

	調査数 (Ⅱ)	父母	祖父母	きょうだい	その他	無回答
中学生	640	22.8	14.8	53.1	8.3	13.1
全日制高校生	538	23.8	19.3	42.2	8.4	16.5
定時制高校生	85	29.4	14.1	47.1	10.6	12.9
通信制高校生	14	28.6	7.1	57.1	7.1	7.1

③ 母親の状況、母親への世話の内容

世話を必要としている家族として「母親」と回答した人に、母親の状況を聞いたところ、中学生、全日制高校生、定時制高校生では「精神疾患」の割合が高くなっている。

図表－ 15 母親の状況（複数回答）

(%)

	調査数 (n)	高齢 (65歳以上)	要介護 (介護が必要な状況)	認知症	身体障がい	知的障がい	精神疾患 (疑い含む)	依存症 (疑い含む)	精神疾患、 依存症以外 の病气	その他	無回答
中学生	141	7.1	3.5	0.7	3.5	4.3	7.8	5.7	3.5	29.8	48.2
全日制高校生	101	9.9	8.9	3.0	8.9	5.9	13.9	5.9	11.9	29.7	31.7
定時制高校生	24	4.2	8.3	12.5	4.2	0	12.5	8.3	12.5	8.3	54.2
通信制高校生	3	0	33.3	33.3	0	0	0	0	0	33.3	33.3

世話を必要としている家族として「母親」と回答した人に、世話の内容を聞いたところ、中学生、全日制高校生、定時制高校生では「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」、通信制高校生では「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」の割合が最も高くなっている。

図表－ 16 母親への世話の内容（複数回答）

(%)

	調査数 (n)	家事 (食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護 (入浴やトイレのお世話など)	外出の付き添い (買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート (愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳 (日本語や手話など)	金銭管理	薬の管理	その他	無回答
中学生	141	73.0	24.8	4.3	25.5	10.6	22.0	22.0	5.0	12.8	12.1	4.3	10.6
全日制高校生	101	72.3	15.8	9.9	33.7	10.9	18.8	12.9	9.9	15.8	10.9	3.0	8.9
定時制高校生	24	66.7	12.5	0	29.2	8.3	25.0	29.2	0	12.5	4.2	0	16.7
通信制高校生	3	33.3	66.7	33.3	0	0	33.3	33.3	0	0	0	0	0

④ 父親の状況、父親への世話の内容

世話を必要としている家族として「父親」と回答した人に、父親の状況を聞いたところ、全日制高校生では「高齢（65歳以上）」「身体障がい」の割合が高くなっている。

図表－ 17 父親の状況（複数回答）

(%)

	調査数 (n)	高齢 (65歳以上)	要介護 (介護が必要な状況)	認知症	身体障がい	知的障がい	精神疾患 (疑い含む)	依存症 (疑い含む)	精神疾患、依存症以外の病気	その他	無回答
中学生	74	8.1	5.4	0	4.1	1.4	1.4	5.4	2.7	27.0	54.1
全日制高校生	69	18.8	13.0	5.8	18.8	5.8	7.2	7.2	11.6	20.3	36.2
定時制高校生	7	0	0	0	14.3	0	14.3	0	0	14.3	57.1
通信制高校生	2	0	0	0	0	0	0	50.0	50.0	0	0

世話を必要としている家族として「父親」と回答した人に、世話の内容を聞いたところ、いずれも「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」の割合が最も高くなっている。

図表－ 18 父親への世話の内容（複数回答）

(%)

	調査数 (n)	家事 (食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護 (入浴やトイレのお世話など)	外出の付き添い (買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート (愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳 (日本語や手話など)	金銭管理	薬の管理	その他	無回答
中学生	74	48.6	21.6	5.4	25.7	6.8	14.9	25.7	6.8	13.5	5.4	4.1	18.9
全日制高校生	69	55.1	11.6	10.1	23.2	8.7	17.4	21.7	8.7	13.0	4.3	7.2	15.9
定時制高校生	7	42.9	14.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	57.1
通信制高校生	2	50.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50.0	0

⑤ 祖母の状況、祖母への世話の内容

世話を必要としている家族として「祖母」と回答した人に、祖母の状況を聞いたところ、いずれも「高齢（65歳以上）」の割合が最も高くなっている。

図表－ 19 祖母の状況（複数回答）

(%)

	調査数 (n)	高齢 (65歳以上)	要介護 (介護が必要な状況)	認知症	身体障がい	知的障がい	精神疾患 (疑い含む)	依存症 (疑い含む)	精神疾患、 依存症以外 の病気	その他	無回答
中学生	84	70.2	22.6	21.4	10.7	2.4	4.8	3.6	6.0	9.5	15.5
全日制高校生	85	84.7	22.4	23.5	11.8	3.5	3.5	3.5	11.8	3.5	4.7
定時制高校生	8	50.0	25.0	12.5	0	0	0	0	0	12.5	25.0
通信制高校生	2	50.0	0	0	0	0	0	0	0	0	50.0

世話を必要としている家族として「祖母」と回答した人に、世話の内容を聞いたところ、中学生、全日制高校生、定時制高校生では「見守り」の割合が最も高くなっている。

図表－ 20 祖母への世話の内容（複数回答）

(%)

	調査数 (n)	家事 (食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や保育所等への 送迎など	身体的な介護（入浴やトイレの お世話など）	外出の付き添い (買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート（愚痴を聞く、 話し相手になるなど）	見守り	通訳（日本語や手話など）	金銭管理	薬の管理	その他	無回答
中学生	84	50.0	11.9	19.0	31.0	16.7	26.2	53.6	6.0	11.9	14.3	7.1	6.0
全日制高校生	85	43.5	5.9	17.6	23.5	9.4	24.7	50.6	2.4	3.5	14.1	4.7	7.1
定時制高校生	8	37.5	12.5	12.5	37.5	37.5	12.5	62.5	0	12.5	37.5	25.0	12.5
通信制高校生	2	50.0	0	0	100	50.0	50.0	0	0	0	50.0	0	0

⑥ 祖父の状況、祖父への世話の内容

世話を必要としている家族として「祖父」と回答した人に、祖父の状況を聞いたところ、中学生、全日制高校生、定時制高校生では「高齢（65歳以上）」の割合が最も高くなっている。

図表－ 21 祖父の状況（複数回答）

(%)

	調査数 (n)	高齢 (65歳以上)	要介護 (介護が必要な状況)	認知症	身体障がい	知的障がい	精神疾患 (疑い含む)	依存症 (疑い含む)	精神疾患、依存症以外の病気	その他	無回答
中学生	36	61.1	13.9	8.3	2.8	0	5.6	8.3	13.9	16.7	19.4
全日制高校生	36	80.6	22.2	30.6	19.4	5.6	5.6	5.6	19.4	2.8	5.6
定時制高校生	7	85.7	28.6	14.3	0	0	0	0	14.3	0	14.3
通信制高校生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

世話を必要としている家族として「祖父」と回答した人に、世話の内容を聞いたところ、中学生、全日制高校生では「見守り」、定時制高校生では「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」の割合が最も高くなっている。

図表－ 22 祖父への世話の内容（複数回答）

(%)

	調査数 (n)	家事 (食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいのお世話や保育所等への送迎など	身体的な介護 (入浴やトイレのお世話など)	外出の付き添い (買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート (愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳 (日本語や手話など)	金銭管理	薬の管理	その他	無回答
中学生	36	36.1	16.7	11.1	25.0	13.9	19.4	38.9	5.6	8.3	13.9	11.1	13.9
全日制高校生	36	33.3	8.3	11.1	25.0	19.4	8.3	55.6	5.6	11.1	8.3	5.6	11.1
定時制高校生	7	42.9	14.3	14.3	14.3	28.6	14.3	14.3	0	0	14.3	0	14.3
通信制高校生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑦ きょうだいの状況、きょうだいへの世話の内容

世話を必要としている家族として「きょうだい」と回答した人に、きょうだいの状況を聞いたところ、いずれも「若い」の割合が最も高くなっている。

図表－ 23 きょうだいの状況（複数回答）

(%)

	調査数 (n)	若い	要介護 (介護が必要な状況)	認知症	身体障がい	知的障がい	精神疾患 (疑い含む)	依存症 (疑い含む)	精神疾患、 依存症以外 の病気	その他	無回答
中学生	343	73.5	0.9	0	2.6	7.0	2.0	1.5	1.7	12.5	6.4
全日制高校生	228	75.9	1.3	0.9	4.8	10.1	3.1	1.3	2.2	8.8	4.4
定時制高校生	40	62.5	0	0	5.0	7.5	0	0	5.0	15.0	12.5
通信制高校生	8	37.5	0	0	0	25.0	0	0	0	37.5	0

世話を必要としている家族として「きょうだい」と回答した人に、世話の内容を聞いたところ、中学生、全日制高校生、定時制高校生では「見守り」、通信制高校生では「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」の割合が最も高くなっている。

図表－ 24 きょうだいへの世話の内容（複数回答）

(%)

	調査数 (n)	家事 (食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や 保育所等への送迎など	身体的な介護（入浴やトイレの お世話など）	外出の付き添い (買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート（愚痴を聞く、 話し相手になるなど）	見守り	通訳（日本語や手話など）	金銭管理	薬の管理	その他	無回答
中学生	343	35.0	23.3	19.0	28.6	2.0	17.8	68.5	1.2	2.6	2.0	7.0	3.8
全日制高校生	228	46.9	27.2	18.0	36.4	2.6	16.7	63.2	2.6	3.9	3.5	2.6	3.1
定時制高校生	40	45.0	25.0	10.0	30.0	2.5	17.5	60.0	0	5.0	0	2.5	5.0
通信制高校生	8	50.0	25.0	0	25.0	0	12.5	37.5	0	0	0	12.5	12.5

⑧ 世話を一緒にしている人

世話を一緒にしている人については、いずれも「母親」の割合が最も高くなっている。一方で「自分のみ」は、全日制高校生・定時制高校生では約1割、通信制高校生では約2割となっている。

図表－ 25 世話を一緒にしている人（複数回答）

(%)

	調査数 (三)	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	親戚の人	自分のみ	福祉サービス (ヘルパーなど) を利用	その他	無回答
中学生	640	63.0	42.7	16.6	9.8	34.1	3.9	7.8	3.4	1.1	16.3
全日制高校生	538	53.9	34.4	13.2	5.9	30.7	4.8	10.4	6.3	2.2	18.4
定時制高校生	85	54.1	30.6	7.1	3.5	28.2	4.7	10.6	2.4	0	12.9
通信制高校生	14	64.3	42.9	7.1	0	28.6	7.1	21.4	0	0	7.1

⑨ 世話を始めた年齢

世話を始めた年齢については、中学生では「小学生（高学年）」が33.0%と最も高く、高校生では学校種に関わりなく、「中学生以降」が最も高くなっている。

図表－ 26 世話を始めた年齢

(%)

	調査数 (三)	就学前	小学生 (低学年)	小学生 (高学年)	中学生以降	無回答
中学生	640	10.2	15.9	33.0	7.2	33.8
全日制高校生	538	5.0	7.2	21.0	34.4	32.3
定時制高校生	85	4.7	8.2	25.9	28.2	32.9
通信制高校生	14	0	7.1	14.3	42.9	35.7

⑩ 世話をしている頻度

世話をしている頻度については、いずれも「ほぼ毎日」の割合が最も高くなっている。

図表－ 27 世話をしている頻度

(%)

	調査数 (n)	ほぼ毎日	3週に 5日	1週に 2日	数日 1か月に	無回答
中学生	640	45.6	16.4	14.8	5.6	17.5
全日制高校生	538	43.7	15.4	13.9	6.7	20.3
定時制高校生	85	45.9	12.9	15.3	7.1	18.8
通信制高校生	14	71.4	21.4	0	0	7.1

⑪ 平日1日あたりの世話に費やす時間

世話に費やす時間については、いずれも「3時間未満」の割合が最も高くなっている。一方で「7時間以上」も中学生では8.1%、全日制高校生では5.0%、定時制高校生では8.2%、通信制高校生7.1%と一定の割合がある。

図表－ 28 平日1日あたりの世話に費やす時間

(%)

	調査数 (n)	3時間未満	3時間 未満 3～7時間	7時間以上	無回答
中学生	640	57.0	16.4	8.1	18.4
全日制高校生	538	53.2	18.8	5.0	23.0
定時制高校生	85	48.2	21.2	8.2	22.4
通信制高校生	14	57.1	14.2	7.1	21.4

⑫ 世話をしているために、やりたいけれどできていないこと

世話をしているために「やりたいけれどできていないこと」については、いずれも「特にない」の割合が最も高くなっているが、「宿題をする時間や勉強する時間が取れない」「自分の時間が取れない」なども一定の回答がみられた。

図表－ 29 世話をしているために「やりたいけれどできていないこと」（複数回答）

(%)

	調査数 (n)	学校に行きたくても行けない	どうしても学校を遅刻・早退してしまう	宿題をする時間や勉強する時間が取れない	睡眠が十分に取れない	友人と遊ぶことができない	部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得なかった	進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した	自分の時間が取れない	その他	特にない	無回答
中学生	640	1.1	1.4	9.4	9.4	9.2	1.3	0.9	17.0	0.9	58.0	15.8
全日制高校生	538	3.2	2.4	11.5	11.3	10.4	3.2	3.3	16.4	1.5	48.5	19.0
定時制高校生	85	3.5	2.4	7.1	14.1	8.2	0	3.5	14.1	1.2	55.3	16.5
通信制高校生	14	14.3	14.3	35.7	14.3	14.3	7.1	7.1	28.6	7.1	42.9	7.1

⑬ 世話をすることに感じているきつさ

世話をすることに感じているきつさについては、いずれも「特にきつさは感じていない」の割合が最も高いが、「宿題をする時間や勉強する時間が取れない」「睡眠が十分に取れない」「友人と遊ぶことができない」「自分の時間が取れない」なども一定の回答がみられた。

図表－ 30 世話をすることに感じているきつさ（複数回答）
（％）

	調査数 (n)	身体的 にきつい	精神的 にきつい	時間的 余裕がない	特に きつさは 感じて いない	無 回 答
中学生	640	8.0	11.6	14.2	61.3	15.9
全日制高校生	538	8.4	18.2	16.0	50.4	19.0
定時制高校生	85	12.9	20.0	9.4	57.6	16.5
通信制高校生	14	28.6	35.7	21.4	35.7	7.1

⑭ 世話について相談した経験

世話について相談した経験については「ある」が2～3割、「ない」が5～6割となっている。

図表－ 31 世話について相談した経験

（％）

	調査数 (n)	ある	ない	無 回 答
中学生	640	21.3	65.2	13.6
全日制高校生	538	21.6	61.3	17.1
定時制高校生	85	29.4	56.5	14.1
通信制高校生	14	28.6	64.3	7.1

⑮ 世話についての相談相手

世話についての相談相手については、いずれも「家族」の割合が最も高く、次いで「友人」となっている。

図表－ 32 世話についての相談相手（複数回答）

(%)

	調査数(Ⅱ)	家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)	親戚(おじ、おばなど)	友人	学校の先生 (保健室の先生以外)	保健室の先生	スクールソーシャルワーカー やスクールカウンセラー	医師や看護師、 その他病院の人	福祉サービスの人	ヘルパーやケアマネ、	役所や保健センターの人	近所の人	SNS上での知り合い	その他	無回答
中学生	136	72.1	7.4	40.4	10.3	2.2	5.9	3.7	0.7	0	2.2	0.7	2.2	2.9	
全日制高校生	116	60.3	9.5	42.2	19.8	6.0	10.3	1.7	3.4	4.3	4.3	9.5	2.6	3.4	
定時制高校生	25	48.0	8.0	40.0	16.0	4.0	8.0	8.0	0	0	0	0	12.0	0	
通信制高校生	4	100	25.0	25.0	0	25.0	0	25.0	0	0	25.0	0	0	0	

⑯ 世話について相談したことがない理由

世話について相談した経験が「ない」と回答した人に、その理由について聞いたところ、いずれも「誰かに相談するほどの悩みではない」の割合が最も高く、次いで「相談しても状況が変わるとは思わない」「家族外の人に相談するような悩みではない」の割合が高くなっている。

図表－ 33 世話についての相談したことがない理由（複数回答）

(%)

	調査数 (二)	誰かに相談するほどの 悩みではない	家族外の人に相談する ような悩みではない	誰に相談するのが よいかわからない	相談できる人が 身近にいない	家族のこのため 話にくい	家族のことを 知られたくない	家族に対して 偏見を持たれたくない	相談しても状況が 変わると思わない	その他	無回答
中学生	417	72.2	16.3	6.7	6.0	7.9	5.3	7.0	15.8	8.9	5.0
全日制高校生	330	70.3	12.4	7.0	5.5	8.5	5.8	4.8	17.3	5.2	5.2
定時制高校生	48	64.6	8.3	4.2	4.2	4.2	0	4.2	14.6	6.3	6.3
通信制高校生	9	66.7	22.2	22.2	44.4	33.3	22.2	22.2	44.4	0	11.1

⑰ 世話について話を聞いてくれる人の有無

世話について相談した経験が「ない」と回答した人に、世話について話を聞いてくれる人の有無について聞いたところ、中学生・全日制高校生・定時制高校生は約5～6割が「いる」と回答している。一方で、通信制高校生では「いない」の割合が高くなっている。

表－ 34 世話について話を聞いてくれる人の有無

(%)

	調査数 (二)	いる	いない	無回答
中学生	417	67.4	28.3	4.3
全日制高校生	330	60.9	32.7	6.4
定時制高校生	48	56.3	41.7	2.1
通信制高校生	9	33.3	44.4	22.2

⑱ 学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援

学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援については、いずれも「特にない」の割合が最も高いが、「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」「自由に使える時間がほしい」「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」も一定の回答がみられた。

図表－ 35 学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援（複数回答）

(%)

	調査数 (n)	自分のいまの状況について話を聞いてほしい	家族のお世話について相談ののってほしい	家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい	自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい	自由に使える時間がほしい	進路や就職など将来の相談にのってほしい	学校の勉強や受験勉強など学習のサポート	家庭への経済的な支援	わからない	その他	特にない	無回答
中学生	640	10.5	4.4	2.5	1.6	0.9	12.3	6.7	12.3	4.8	11.1	0.9	53.6	10.5
全日制高校生	538	11.0	3.9	2.0	2.0	2.2	12.3	10.4	10.0	6.7	10.6	0.4	46.5	15.8
定時制高校生	85	9.4	2.4	2.4	1.2	1.2	11.8	9.4	7.1	4.7	7.1	2.4	55.3	12.9
通信制高校生	14	14.3	7.1	14.3	7.1	14.3	14.3	7.1	7.1	21.4	21.4	0	35.7	14.3

1.2.4 ヤングケアラーについて

① ヤングケアラーの自覚

自分がヤングケアラーにあてはまると思うかについて聞いたところ、中学生・全日制高校生・定時制高校生では「あてはまる」が約4%、通信制高校生では8.8%となっている。家族の世話の有無別にみると、中学生・全日制高校生・定時制高校生では「家族の世話をしている」と回答した人のうち、約20%が「自分はヤングケアラーにあてはまる」と回答している一方で、「あてはまらない」と回答しているのが約30～50%となっている。また、通信制高校生では「家族の世話をしている」と回答した人のうち、42.9%が「自分はヤングケアラーにあてはまる」と回答しており、他に比べて高くなっている。

図表－ 36 自分はヤングケアラーにあてはまると思うか

(%)

	調査数 (n)	あてはまる	あてはまらない	わからない	無回答
中学生	14212	3.8	84.9	10.8	0.5
全日制高校生	15100	3.8	82.9	12.6	0.6
定時制高校生	902	4.4	71.4	23.2	1.0
通信制高校生	114	8.8	74.6	13.2	4.4

< 中学生 >

(%)

		調査数 (n)	あてはまる	あてはまらない	わからない	無回答
中学生		14212	3.8	84.9	10.8	0.5
世話をしている家族	いる	640	18.8	48.4	31.7	1.1
	いない	13144	3.0	87.4	9.5	0.2

< 全日制高校 >

(%)

		調査数 (n)	あてはまる	あてはまらない	わからない	無回答
全日制高校		15100	82.9	12.6	0.6	82.9
世話をしている家族	いる	538	22.3	36.4	36.2	5.0
	いない	14240	3.1	85.2	11.6	0.1

< 定時制高校 >

(%)

		調査数 (n)	あてはまる	あてはまらない	わからない	無回答
定時制高校		902	4.4	71.5	23.3	0.8
世話をしている家族	いる	85	18.8	30.6	45.9	4.7
	いない	794	2.9	76.2	20.8	0.1

< 通信制高校 >

(%)

		調査数 (n)	あてはまる	あてはまらない	わからない	無回答
通信制高校		114	8.8	75.4	14.0	1.8
世話をしている家族	いる	14	42.9	21.4	28.6	7.1
	いない	94	2.1	86.2	10.6	1.1

② ヤングケアラーの認知度

ヤングケアラーの認知度については、いずれも「聞いたことはない」の割合が4～6割程度となっている。「聞いたことがあり、内容も知っている」は、中学生・全日制高校生・定時制高校生では2割程度にとどまっているが、通信制高校生では36.0%と他に比べて高くなっている。

図表－ 37 ヤングケアラーの認知度

(%)

	調査数 (n)	聞いたことがあり、 内容も知っている	聞いたことはあるが、 よく知らない	聞いたことはない	無回答
中学生	14212	21.9	19.0	58.6	0.4
全日制高校生	15100	24.1	17.0	58.2	0.7
定時制高校生	902	20.2	15.7	63.0	1.1
通信制高校生	114	36.0	14.0	46.5	3.5

③ ヤングケアラーについて知ったきっかけ

ヤングケアラーについて「聞いたことがあり、内容も知っている」「聞いたことはあるが、よく知らない」と回答した人に知ったきっかけを聞いたところ、いずれも「テレビや新聞、ラジオ」の割合が最も高くなっている。

図表－ 38 ヤングケアラーについて知ったきっかけ（複数回答）

(%)

	調査数 (n)	テレビや新聞、 ラジオ	雑誌や本	インターネット	SNSやインタ ーネット	掲示物	広報やチラシ、 交流会など	イベントや 交流会など	学校	聞いた 友人・知人から	その他	無回答
中学生	5818	71.9	13.5	28.3	7.9	0.9	17.6	4.5	3.8	0.8		
全日制高校生	6205	66.3	8.3	32.6	5.4	0.9	27.6	3.4	2.6	0.6		
定時制高校生	324	53.1	8.6	31.8	7.7	1.5	38.6	6.2	3.1	1.2		
通信制高校生	57	63.2	8.8	35.1	7.0	3.5	8.8	5.3	8.8	1.8		

④ 自由記述 ※回答数多数につき、一部を編集し、記載

実態調査の実施
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本アンケートのような実態調査を定期的に行う。 ・ 今回のようなアンケートの実施を小学校～高校ぐらいに一年ごとぐらいに行う。 ・ このようなアンケートに答える機会をたくさん世代に設ける。 ・ このような調査を定期的にして、ヤングケアラーがどれくらいいるのかを把握して、その人が望んでいることをしてあげるのが、ヤングケアラーへの支援を広げていけないのではないかと思う。支援の幅も広げていくことが大切だと思う。 ・ こまめに家庭状況をアンケートなどで聞いていく。 ・ ヤングケアラーの調査をして心をケアしていくことが必要だと思う。 ・ ヤングケアラーは自分が当てはまっても自分がそうとは思わないケースが多いと聞くので、こうやってアンケートをとったりしてヤングケアラー自身に気づいてもらうことが大切だと思う。ヤングケアラーに該当しているような子供がいるのかを学校でも調査すると思う。 ・ ヤングケアラーを見逃さないために月に一回アンケートなどで調査する。それでも言えない人がいたら声をかけてあげて、第三者が報告する。 ・ 家庭にアンケートを行い、割合の調査をする。 ・ 家庭への聞き込み調査。 ・ 各家庭の子供たちにアンケートをとり、色々な子供と面談して、家庭の状況を聞いた方がいいと思う。そうすることで、苦しんでいる誰かが少しでも楽になれると思う。 ・ 自分がヤングケアラーということはいえないだろうから定期的にアンケートをすればいい。 ・ 実態調査終わったら、専門機関(知識、経験ある機関)と行政で協力し、解決策を試みる。 ・ このようなアンケートを通してヤングケアラーになってしまっている人々に支援をしてあげたりすることが大切だと思う。
カウンセラー・相談窓口
<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談しやすい環境を作る、1人で抱え込む必要がないように地域の支援センターを作る。 ・ 相談できる環境をしっかりと作って欲しい。「秘密は守る」を嘘にしないでほしい。相談しても、「後で」にしないでほしい。 ・ 相談できる場所はどこなのか。どんな支援が受けられるのか。わからないことが多いので教えてほしい。 ・ 多様な相談窓口、カウンセラーの充実。 ・ 大々的に話すといじめに繋がったりしてしまう可能性もあるため、スクールカウンセラーのように相談できる場所を用意したら良いと思う。 ・ 大変かもしれないが1人1人面と向かって話すことで初めて言えることがあるかもしれないから、生徒とカウンセラーの方が面談をする機会を持つこと。 ・ 介護施設の方や、カウンセリングの仕事に就いている方から声をかけたり、ヤングケアラーの方から声をかけやすい環境を作る。 ・ 相談が出来る場所があるだけでも気が楽になると思う。 ・ 相談されても事実上助けることは出来ないから、とにかく話を聞いてあげるだけでもその人の精神安定になると思う。 ・ ホットラインに相談。 ・ 自分がヤングケアラーだと言うことは先生や友達に言いにくいと思うので、気軽に話せる(相談)出来る雰囲気を作る。

教師の理解・学校での支援
<ul style="list-style-type: none"> ・一部の先生たちのヤングケアラーへの関心を深めてほしい。 ・家庭事情を理解してくれる先生。 ・学校で授業中に寝ていたり、成績が悪かったりする人を、先生がその理由を聞かないで注意するのは良くないと思う。注意された本人が、もしヤングケアラーで、夜遅くまで家事をしている人だったら、その人は余計に苦しむと思う。 ・学校の先生が生徒の家庭状況を把握する。学校の先生が良い先生になる。話しやすい、相談しやすい、頼りがいのある先生であってほしい。先生が一番身近な存在だから。 ・学校の先生が理解して協力してくれればいいと思う。 ・学校の先生が話を聞き取り、ボランティアなどを通じて子供達が頼れる体制を作って欲しい。 ・学校の先生は子供の様子をよく見られると思うので、先生たちに協力してもらおうと良いと思う。 ・自分がヤングケアラーだという認識がない場合が多いと思う。また声をあげにくい、言い出しにくい環境が多いのではないかと。毎日行く学校だからこそ先生に声をかけてもらったりするとよいのではないかと。また授業で詳しく説明があると認知されるのではないかと。 ・周りに話せない子とかが多いと思うので大人たちも気づききっかけがないのではないかと。先生達ももっと一人一人の生徒に寄り添いお互いの信頼関係を築きあげ何でも相談できるような相手になれば少しでも気が軽くなるのではないかと。 ・周りの大人がサポートすること。学校の先生は生徒がヤングケアラーだった場合そのことを認識すること。 ・先生、生徒、家族のコミュニケーションが重要だと思う。今の中学の先生は、やらなすぎ。相手の気持ちを理解しないで、自分の考えを押し付けている。心のある教育をもった先生の育成を求める。 ・先生が一人一人の生徒について考えること。 ・先生たちが、生徒一人一人をしっかりと観察しておく。 ・先生に気軽に相談できるような環境を全ての学校で作った方がいいと思う。
学習面での支援
<ul style="list-style-type: none"> ・ヤングケアラーには、家で十分に学習する時間が取れなかったり、睡眠時間を削ってまで勉強したりしている子が多いとニュースで言っていたので、学校でできる限り勉強時間を確保してあげたり、課題を早めに出して猶予期間を長くしてあげたり、支援をする事が必要だと思う。カウンセラーに相談することはかなりハードルが高く感じられるので、ヤングケアラー本人が気にならない、気づかないくらいの配慮をすると少しだけでも楽になるのではないかと。 ・ヤングケアラーの人が暮らしやすいようなお金の寄付や授業の違う受け方、カウンセラーをしたりするなどの対策が必要だと思った。 ・学校では課題の提出などをあまり厳しくせず、カウンセリングを実施することが重要だと思う。自治体や国としては生活保護制度の拡大を目指してヤングケアラーの負担を少しでも減らすべきかと。何より重要なのはクラスメートが本人にやさしく接することだと思う。 ・先生方の理解（課題等がこのような理由でやむを得ず提出できなくても一方的に否定しないなど）。 ・全日制に所属している人は、欠席や遅刻したとしても先生が出す課題を期限までにできれば該当授業を欠席として扱わないこととした方がいいのではないかと。 ・ヤングケアラーの子どもたちが学校を遅刻欠席早退しても内申に影響が出ないようにする。 ・実際にヤングケアラーの子供たちは家庭の経済面なども心配だと思うのでそのような子供たちには授業料無料・教科書無料配布などをもっと積極的にするべきだと思う。

ケアの代替
<ul style="list-style-type: none"> ・ ヤングケアラー以外の人で、ボランティア活動をして、ヤングケアラーのゆっくりする時間をとる。 ・ お手伝いの方を一人でもつけて、少しでも子供達の自由を与えられるようにするのが良い。 ・ かかりつけ介護士みたいな、お金で代わりにやってくれる人が必要だと思う。 ・ ヤングケアラーの家庭には家政婦を無料で雇うことができるサービス。 ・ 「介護を必要とする」と判断されたとき、ヤングケアラーにならなければならない(強制的な)状況を作らないように、その施設との連携をとる。すでにヤングケアラーである人に対し、学校での2者面談やアンケートから、相談可能な状況が必要。 ・ アンケートなどを行い、支援が必要という人には、家事の負担を減らす支援をすることが大切。 ・ しっかり調査し、人を派遣する。 ・ ヤングケアラーについての実態を調べて、その人達が少しでも楽になればいいようにしたほうが良いと思う。また介護士などを要請した家庭に無償または少しお金をとって、その家庭が困っていることをお手伝いしたり、困っていても言いにくくて、言うことができない家庭に、カウンセラーが訪問して聞いていくといいと思う。 ・ 介護施設や、福祉施設を充実させる。一人で抱え込まないよう、無料でカウンセラーなどに相談できる場を作る。 ・ アンケートによってヤングケアラーであることに気づいて、ケアされる側への支援を行う。
周知広報・認知度の向上・授業での取り上げ
<ul style="list-style-type: none"> ・ ヤングケアラーの子供たちが、自分はヤングケアラーであると認識するための、セミナー・講義等を行う。 ・ ヤングケアラーへの関心を持ってもらえるよう、学校への講演会を開き、そのような生徒や、学校に来ていない子が、そのような状況で休んでいないかを調べる。 ・ インターネットや新聞、テレビ等で、そういう子供たちへの支援を呼びかけることをしたらいいと思う。また、コンビニなどの目立つところに、募金箱や支援を求めるポスターを作成して掲示したら、人々の関心を集められると思う。 ・ ヤングケアラーについての説明会などを開催する。 ・ SNSでの啓発。広告やニュースなどネットに情報を載せる。
ケアラー同士のコミュニティ形成
<ul style="list-style-type: none"> ・ インターネットでヤングケアラーの方たちを集めて、同じ心情の人同士でのお話会を行う。 ・ 専門家とか、カウンセラーの人から、話を聞いてもらえるのはとてもありがたいが、具体的なアドバイスを教えていただける機会が少ないというのが不満。なので私は、家族の介護や世話などで悩みを抱える人が交流したり、相談しあったりできる居場所が身近にあるべきだと思う。今、私は自分の進路に悩んでいる。今、家を出たら、今お世話をしている母が病んでしまうのではないかと考えて、自分の小さい頃の夢を叶えていいのかわからない(母には反対されている)。 ・ ヤングケアラーの心のケアが出来るイベント(L I N E、電話、カウンセラーなど)を今まで以上に実施する。ヤングケアラーの子供達がやって欲しいこと、今後どうしたらいいか相談、解決できるように話し合いをする場面を作る。 ・ 各学校の専属カウンセラーをつくる。障害者や病気の方が集まれる施設をつくる。その子供の集まれる場所もつくる。 ・ 経験者が集まって気持ちや体験を共有するピアサポートの場への補助。

<ul style="list-style-type: none"> ・交流会や、コロナ禍で開催できない場合には、特設サイトを作ることで、支援になるのではないかとと思う。 ・若者がよく使用するSNSでヤングケアラーの1日の様子や、悩みなどを投稿するアカウントを作り、同世代の人へ実態を知ってもらえるような環境作りが必要だと思う。
<p>ケアラー自身のケア</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ヤングケアラーの実態調査。ヤングケアラーのメンタルケア。 ・ヤングケアラーの調査をして心をケアしていくことが必要だと思う。 ・「ヤングケアラー」に少しでもあてはまる人がいたら、助けてあげる。 ・あまり無理をせず、好きなことをする時間をもうけたりなどをしたほうがいい。 ・ボランティアや支援会員のような感じのを作る。ギャンブル中毒の親などは、子供が望んでいたら、保護する。 ・ちょっとした事でも何かあったらすぐに先生方や（大人やお友達）にその悩みを打ち明けたりなどをすることでその困っている子が少しでも減ってくれたら私も嬉しい。自分も困っている子がいたらどんな子であろうと話をきちんと受け止めて、相手の気持ちの重さが少しでも軽くなってくれたらと思う。
<p>相互扶助</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・募金活動をして、ヤングケアラーで困っている方々に必要な量の給付金を供給する。 ・ボランティアを全国から集めて、必要な食材や衣服を無償で提供する。 ・様々な人に「ヤングケアラー」について知ってもらい、みんなで、ヤングケアラーを支援する。 ・SNSなどでヤングケアラーに対する呼びかけ。募金活動などをクラウドファンディングを通じて行う。 ・1人1人が助け合う。 ・お互いに支え合うが必要だと思う。 ・お互い気づいてあげられるのは友だち同士だと思うので、少しでも気になったことは話を聞いたり相談にのってあげたり（のってもらったり）助け合って行きたいと思う。 ・ケアをしてもらっている人はそのケアをしてくれる子供たちに常に感謝を持ち、ヤングケアラーの子供達が家族やケアをしていることで悩んだり、好きなことが出来なくなったりしてしまわないように何か支援をしてあげるべきだと思う。募金などなら私達学生でもその子たちの力になるかもしれない。 ・このような子供たちを守るために募金活動や介護士をもっと増やしてくれると、このような子供たちが減ると思う。 ・コンビニや公共施設にヤングケアラーへの募金支援の協力を呼びかけることが必要。 ・たくさんの人と人が助け合って協力していけば不安を抱えている方に寄り添えるのではないかとと思う。 ・困っているところにボランティアの人を送って援助する。 ・ボランティアで家事を代行してくれる人などを募集する。

その他

- ・ 家庭に助成金を給付する。
- ・ ヤングケアラーに対する補助金などの支援。
- ・ 学費の減額または免除。
- ・ 経済的支援があれば家庭全体に余裕ができると思う。
- ・ 私は高校の探求学習で、テーマを発達障害とヤングケアラーに設定して調べていた。ヤングケアラーが広まってない現状を知り、もっと認知されることが大切だと強く思っている。学校とかで先生方が大丈夫？などと聞くよりかは、学校側が生徒全体に対してヤングケアラーや、その支援について講演会などを行えば、本人たちも自然に情報が得られると思う。また、ヤングケアラーという名前をつけて対象者をひとまとめにするのは良くないと思っている。個人個人の状況は絶対に違うので、ヤングケアラーだから…という考え方や言い方は本人の前ではあまりしないようにするのが大切だと思う。家族のために一生懸命な本人たちも、その家族のせいでレッテルを貼られると感じるのは辛いと思う。そして、ホットラインのような相談センターについてのアンケートも行ったが、「相談して、もう相談したくないと思った」という回答も多くあった。そのような経験があると、心を閉ざしてもう相談さえしなくなってしまふ。アプローチの仕方も慎重に行っていくことが必要だと思う。自分の考えが多くあるので、1つの意見として見ていただけると幸いである。ヤングケアラーやその家族の状況が良くなるような支援を心から期待している。
- ・ 小さい時から兄弟が多くて、自分が幼かった頃は、なんで弟妹の面倒を自分が見なくちゃいけないのだろうってずっと辛かったし、誰にも言えなかった(両親は仕事、学校の先生や友達には話づらかったため)のを思い出した。家事を色々やっていたのが習慣になって、今は特に問題は無いが、当時は何も言えない環境だったので、そういうことがないように、学生だったら学校で、社会人だったら職場で、誰か一人でも話を聞いてくれる人がいるだけで救われると思う。
- ・ どこまで支援してもらえるのか、どこに相談していいのかがわかれば、僕のような子どもでも支援してもらえるように、声にできるのではないか。

1.3 クロス集計

1.3.1 家族の世話の有無による家族生活等の状況

① 家族の世話の有無×世帯分類

世帯分類については、世話をしている家族が「いる」場合、「いない」場合に比べ、「ひとり親家庭」「三世代世帯」の割合が高くなっている。

図表－ 39 家族の世話の有無×世帯分類

(%)

		調査数 (ニ)	二世代世帯	三世代世帯	ひとり親家庭	施設 一人暮らし・寮・	その他の世帯	無回答
世話をしている家族	いる	1283	54.1	27.5	14.0	0.9	2.7	0.7
	いない	28246	62.4	24.0	10.9	0.9	1.5	0.3

② 家族の世話の有無×健康状態

健康状態については、世話をしている家族が「いる」場合、「いない」場合に比べ、健康状態が「よい」の割合が低く、「よくない」「あまりよくない」の割合が高くなっている。

図表－ 40 家族の世話の有無×健康状態

(%)

		調査数 (ニ)	よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない	無回答
世話をしている家族	いる	1283	42.6	20.2	26.3	8.7	1.9	0.2
	いない	28246	51.0	19.6	24.1	4.4	0.7	0.1

③ 家族の世話の有無×出席状況

出席状況については、世話をしている家族が「いる」場合、「いない」場合に比べ、「よく欠席する」「たまに欠席する」の割合が高くなっている。

図表－ 41 家族の世話の有無×出席状況

(%)

		調査数 (ニ)	ほとんど 欠席しない	たまに 欠席する	よく 欠席する	無回答
世話をしている家族	いる	1283	69.5	15.0	15.1	0.4
	いない	28246	79.1	9.3	11.5	0.1

④ 家族の世話の有無×遅刻や早退の状況

遅刻や早退の状況については、世話をしている家族が「いる」場合、「いない」場合に比べ、遅刻や早退を「よくする」「たまにする」の割合が高くなっている。

図表－ 42 家族の世話の有無×遅刻や早退の状況

(%)

		調査数 (ニ)	ほとんど しない	たまにする	よくする	無回答
世話をしている家族	いる	1283	80.9	14.9	3.8	0.4
	いない	28246	89.1	9.4	1.4	0.1

⑤ 家族の世話の有無×ふだんの学校生活等であてはまること

ふだんの学校生活等であてはまることについては、世話をしている家族が「いる」場合、「いない」場合に比べ、「持ち物の忘れ物が多い」「提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い」などの割合が高くなっている。

図表－ 43 家族の世話の有無×ふだんの学校生活等であてはまること（複数回答）

(%)

		調査数 (n)	授業中に居眠りすることが多い	宿題や課題ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	部活動や習い事を休むことが多い	提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校では一人で過ごすことが多い	友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特にない	無回答
世話をしている家族	いる	1283	23.8	17.8	21.4	6.8	18.4	1.2	1.9	11.0	10.9	43.2	2.0
	いない	28246	19.2	13.1	14.5	3.4	13.2	0.9	0.7	6.2	6.7	57.2	1.7

⑥ 家族の世話の有無×現在の悩みや困りごと

現在の悩みや困りごとについては、世話をしている家族が「いる」場合、「いない」場合に比べ、「友人との関係のこと」「家庭の経済状況のこと」「自分と家族との関係のこと」などの割合が高くなっている。

図表－ 44 家族の世話の有無×現在の悩みや困りごと（複数回答）

(%)

		調査数 (n)	友人との関係のこと	学業成績のこと	進路のこと	部活動のこと	学費（授業料）など 学校生活に必要な お金のこと	塾（通信含む） や習い事ができない	家庭の 経済状況のこと
世話をして いる家族	いる	1283	20.9	33.0	40.3	14.1	10.1	2.7	12.0
	いない	28246	13.8	29.3	34.2	10.4	4.3	1.0	4.3

		調査数 (n)	自分と家族との 関係のこと	家族内の人間関係の こと（両親の仲が 良くないなど）	病気や障がい のある家族のこと	自分のために使える 時間が少ない	その他	特 に な い	無 回 答
世話をして いる家族	いる	1283	12.8	7.0	6.3	10.7	3.7	31.7	2.2
	いない	28246	4.5	3.4	1.1	6.1	2.6	44.2	2

⑦ 家族の世話の有無×悩みや困りごとの相談相手・話を聞いてくれる人の有無

悩みや困りごとの相談相手・話を聞いてくれる人の有無については、世話をしている家族が「いる」場合、悩みや困りごとについて「相談相手や話を聞いてくれる人がいる」の割合は、世話をしている家族が「いない」場合に比べ低くなっている。

図表－ 45 家族の世話の有無×悩みや困りごとの相談相手・話を聞いてくれる人の有無
(%)

		(二) 調査数	相談相手や話を聞いてくれる人がいる	相談相手や話を聞いてくれる人がいない	相談や話したくない	無回答
世話をしている家族	いる	848	64.0	9.8	24.4	1.8
	いない	15162	68.7	5.8	23.9	1.6

1.3.2性別による世話の状況の違い

① 性別×世話をしている家族の有無

世話をしている家族の有無については、性別による大きな差はみられない。

図表－ 46 性別×世話をしている家族の有無
(%)

	調査数 (二)	いる	いない	無回答
男性	14334	3.9	93.1	3.1
女性	14987	4.4	93.2	2.4

※性別の設定に対して「その他」「答えたくない」の回答者はサンプル数が少ないため、性別のクロス集計では掲載していない。以降、同様。

② 性別×世話の内容

世話の内容については、世話を必要としている家族がいずれの場合も、女性の方が「家事」「外出の付き添い」「感情面のサポート」の割合が男性に比べ高くなっている。一方、「金銭管理」については男性の割合が高くなっている。

図表－ 47 性別×父母への世話の内容（複数回答）

	調査数 (二)	家事 (食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や保育所等への 送迎など	身体的な介護（入浴やトイレの お世話など）	外出の付き添い (買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート（愚痴を聞く、 話し相手になるなど）	見守り	通訳（日本語や手話など）	金銭管理	薬の管理	その他
男性	142	76.8	20.4	9.2	28.9	9.9	21.1	22.5	5.6	16.2	9.9	7.0
女性	118	83.1	22.0	5.9	31.4	11.0	24.6	24.6	7.6	11.9	8.5	4.2

図表－ 48 性別×祖父母への世話の内容（複数回答）

(%)

	調査数 (n)	家事 (食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	外出の付き添い (買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	見守り	通訳（日本語や手話など）	金銭管理	薬の管理	その他
男性	95	45.3	11.6	16.8	24.2	16.8	22.1	53.7	4.2	8.4	11.6	5.3
女性	99	50.5	6.1	17.2	35.4	14.1	25.3	58.6	0	4.0	17.2	8.1

図表－ 49 性別×きょうだいへの世話の内容（複数回答）

(%)

	調査数 (n)	家事 (食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	外出の付き添い (買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	見守り	通訳（日本語や手話など）	金銭管理	薬の管理	その他
男性	211	34.6	22.7	19.9	24.2	0.9	13.3	67.8	0.9	2.8	1.9	4.3
女性	355	44.5	25.9	17.5	36.3	2.3	19.4	67.9	1.4	1.4	1.4	5.4

③ 性別×世話を始めた年齢

世話を始めた年齢については、女性では「小学生」の割合が男性に比べ高くなっている。

図表－ 50 性別×世話を始めた年齢

(%)

	(三二) 調査数	就学前	小学生 (低学年)	小学生 (高学年)	中学生以降	無回答
男性	557	14.2	9.7	22.8	24.8	28.5
女性	661	13.2	13.8	31.3	23.9	17.9

④ 性別×世話をしている頻度

世話をしている頻度については、女性では「ほぼ毎日」の割合が男性に比べ高くなっている。

図表－ 51 性別×世話をしている頻度

(%)

	(三三) 調査数	ほぼ毎日	3週に 5日	1週に 2日	数日 1か月に	無回答
男性	557	37.7	16.7	15.4	5.7	24.4
女性	661	50.6	15.1	14.0	6.5	13.7

⑤ 性別×平日1日あたりの世話に費やす時間

平日1日あたりの世話に費やす時間については、女性では「3～7時間未満」「7時間以上」の割合が男性に比べ高くなっている。

図表－ 52 性別×世話に費やす時間（平日1日あたり）

(%)

	(三四) 調査数	3時間未満	3～7時間 未満	7時間以上	無回答
男性	557	57.1	11.2	5.2	26.4
女性	661	54.2	23.0	7.3	15.7

⑥ 性別×世話をしているために、やりたいけれどできていないこと

世話をしているために、やりたいけれどできないことについては、女性の方が男性に比べて、ほぼすべての項目で高くなっているが、特に「宿題をする時間や勉強する時間が取れない」「睡眠が十分に取れない」「友人と遊ぶことができない」「自分の時間が取れない」の割合が男性に比べ高くなっている。

図表－ 53 性別×世話をしているために、やりたいけれどできていないこと（複数回答）

(%)

	調査数 (n)	学校に行きたくても行けない	どうしても学校を遅刻・早退してしまう	宿題をする時間や勉強する時間が取れない	睡眠が十分に取れない	友人と遊ぶことができない	部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得なかった	進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した	自分の時間が取れない	その他	特になし	無回答
男性	557	2.0	0.4	4.7	5.2	5.0	1.8	1.8	9.0	0.7	57.6	22.4
女性	661	2.0	2.9	14.7	13.3	13.0	2.0	2.4	21.3	1.5	52.0	12.7

⑦ 性別×世話をすることに感じているきつさ

世話をすることに感じているきつさについては、女性では「精神的にきつい」「時間的余裕がない」の割合が男性に比べ高くなっている。

図表－ 54 性別×世話をすることに感じているきつさ（複数回答）

(%)

	調査数 (n)	身体的にきつい	精神的にきつい	時間的余裕がない	特にきつさは感じていない	無回答
男性	557	7.2	9.7	8.6	57.8	23.0
女性	661	8.9	18.9	18.4	55.9	12.2

⑧ 性別×世話について相談した経験

世話について相談した経験については、男性では「ある」の割合が女性に比べ低くなっている。

図表－ 55 性別×世話について相談した経験
(%)

	調査数 (ニ)	ある	ない	無回答
男性	557	17.4	63.7	18.9
女性	661	26.2	62.0	11.8

⑨ 性別×世話についての相談相手

世話について相談した経験が「ある」と回答した人の相談相手については、男女ともに「家族」の割合が最も高くなっているが、女性では「友人」「保健室の先生」「スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー」などの割合が男性に比べ高くなっている。

図表－ 56 性別×世話についての相談相手（複数回答）

	調査数 (ニ)	家族 (父、母、祖父、 祖母、きょうだい)	親戚 (おじ、おばなど)	友人	学校の先生 (保健室の先生以外)	保健室の先生	スクールソーシャルワーカー やスクールカウンセラー	医師や看護師、 その他病院の人	ヘルパーやケアマネ、 福祉サービスの人	役所や保健センターの人	近所の人	SNS上での知り合い	その他	無回答
男性	97	66.0	8.2	28.9	12.4	0	3.1	0	1.0	1.0	3.1	2.1	1.0	7.2
女性	173	66.5	9.2	46.8	13.9	6.4	10.4	5.2	1.7	1.7	2.9	4.0	3.5	1.2

⑩ 性別×学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援

学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援については、女性では男性に比べ全体的に回答割合が高くなっているが、特に「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」「自由に使える時間がほしい」「進路や就職など将来の相談にのってほしい」「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」「家庭への経済的な支援」の割合が高くなっている。

図表－ 57 性別×学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援（複数回答）

(%)

	調査数 (ニ)	自分のいまの状況について話を聞いてほしい	家族のお世話について相談にのってほしい	家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい	自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい	自由に使える時間がほしい	進路や就職など将来の相談にのってほしい	学校の勉強や受験勉強など学習のサポート	家庭への経済的な支援	わからない	その他	特にない	無回答
男性	557	7.2	3.1	1.6	1.1	1.1	6.1	5.2	6.5	3.2	9.3	0.4	53.1	17.4
女性	661	12.4	4.2	2.7	2.0	1.5	16.0	10.4	13.8	7.3	11.8	0.8	49.9	8.9

1.3.3 家族構成による世話の状況の違い

① 家族構成×お世話を必要としている家族

お世話を必要としている家族については、二世帯世帯、ひとり親家庭では「きょうだい」の割合が最も高く、三世帯世帯では「祖母」の割合が最も高くなっている。

図表－ 58 家族構成×世話を必要としている家族（複数回答）

(%)

	調査数 (三二)	母親	父親	祖母	祖父	きょう だい	その他	無回答
二世帯世帯	694	19.7	13.5	3.7	1.2	57.5	6.6	17.1
三世帯世帯	353	19.5	9.3	35.7	15.9	33.1	10.8	9.6
ひとり親家庭	180	26.7	6.7	7.2	3.9	51.1	7.8	10.6
一人暮らし・寮・施設	12	16.7	25.0	0.0	0.0	8.3	25.0	50.0
その他の世帯	35	14.3	5.7	31.4	14.3	20.0	25.7	11.4

② 家族構成×世話の内容

世話の内容については、父母への世話の内容では、二世帯世帯、三世帯世帯、ひとり親家庭のいずれも「家事」が最も高いが、二世帯世帯で「見守り」が他に比べ高くなっている。祖父母への世話の内容では、三世帯世帯で「見守り」が他に比べ高く、ひとり親家庭で「感情面のサポート」が高くなっている。きょうだいへの世話の内容では、ひとり親家庭で「家事」が他に比べ高くなっている。

図表－ 59 家族構成×父母への世話の内容（複数回答）

(%)

	調査数 (三二)	家事 (食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や保育所 等への送迎など	身体的な介護（入浴やトイレ のお世話など）	外出の付き添い (買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート（愚痴を 聞く、話し相手になるなど）	見守り	通訳（日本語や手話など）	金銭管理	薬の管理	その他
二世帯世帯	140	80.0	18.6	7.9	26.4	7.9	23.6	30.7	8.6	13.6	10.7	6.4
三世帯世帯	71	73.2	25.4	8.5	38.0	16.9	23.9	19.7	4.2	12.7	9.9	9.9
ひとり親家庭	55	83.6	18.2	5.5	36.4	10.9	23.6	14.5	3.6	16.4	5.5	1.8
一人暮らし・寮・施設	2	50.0	50.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

図表－ 60 家族構成×祖父母への世話の内容（複数回答）

(%)

	調査数 (ニ)	家事 (食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や保育所等への 送迎など	身体的な介護（入浴やトイレの お世話など）	外出の付き添い (買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート（愚痴を聞く、 話し相手になるなど）	見守り	通訳（日本語や手話など）	金銭管理	薬の管理	その他
二世帯世帯	25	44.0	0	24.0	16.0	20.0	24.0	40.0	0	12.0	16.0	12.0
三世帯世帯	146	46.6	8.9	17.1	30.1	13.0	22.6	63.0	2.7	3.4	13.0	5.5
ひとり親家庭	17	47.1	23.5	5.9	35.3	35.3	41.2	41.2	0	23.5	17.6	5.9

図表－ 61 家族構成×きょうだいへの世話の内容（複数回答）

(%)

	調査数 (ニ)	家事 (食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や保育所等への 送迎など	身体的な介護（入浴やトイレの お世話など）	外出の付き添い (買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート（愚痴を聞く、 話し相手になるなど）	見守り	通訳（日本語や手話など）	金銭管理	薬の管理	その他
二世帯世帯	399	38.6	23.3	17.3	30.6	1.0	16.0	66.9	1.0	2.5	2.0	4.5
三世帯世帯	117	35.0	24.8	16.2	29.9	3.4	15.4	65.8	1.7	3.4	1.7	6.0
ひとり親家庭	92	52.2	27.2	18.5	34.8	2.2	19.6	60.9	1.1	2.2	2.2	4.3

③ 家族構成×世話を一緒にしている人

世話を一緒にしている人については、ひとり親家庭では、世話をする人が「自分のみ」の割合が他に比べ高くなっている。また、三世帯世帯では「祖母」「祖父」「福祉サービスを利用」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 62 家族構成×世話を一緒にしている人（複数回答）

(%)

	調査数 (n)	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	親戚の人	自分のみ	福祉サービス (ヘルパーなど) を利用	その他	無回答
二世帯世帯	694	62.0	47.6	7.1	4.8	33.4	2.4	8.4	2.3	1.3	18.6
三世帯世帯	353	62.6	39.9	30.9	14.4	35.7	7.6	6.5	9.6	2.0	11.6
ひとり親家庭	180	48.3	7.8	10.6	6.1	24.4	3.9	16.1	2.8	0.6	14.4
一人暮らし・寮・施設	12	16.7	8.3	0	8.3	0	0	0	0	0	75.0
その他の世帯	35	22.9	17.1	20.0	8.6	22.9	14.3	25.7	8.6	5.7	11.4

④ 家族構成×世話をしている頻度

世話をしている頻度については、ひとり親家庭では「ほぼ毎日」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 63 家族構成×世話をしている頻度

(%)

	調査数 (n)	ほぼ毎日	3週に 5日	1週に 2日	数日 1か月に	無回答
二世帯世帯	694	44.5	14.7	13.4	6.5	20.9
三世帯世帯	353	44.8	17.6	19.3	5.4	13.0
ひとり親家庭	180	51.7	17.8	10.6	3.9	16.1
一人暮らし・寮・施設	12	8.3	0	0	16.7	75.0
その他の世帯	35	45.7	17.1	11.4	14.3	11.4

⑤ 家族構成×平日1日あたりの世話に費やす時間

平日1日あたりの世話に費やす時間については、ひとり親家庭では「3～7時間未満」「7時間以上」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－64 家族構成×平日1日あたりの世話に費やす時間
(%)

	調査数 (三)	3時間未満	3～7時間未満	7時間以上	無回答
二世帯世帯	694	54.2	16.4	6.7	22.8
三世帯世帯	353	64.0	17.0	4.5	14.4
ひとり親家庭	180	42.8	26.1	12.3	18.9
一人暮らし・寮・施設	12	25.0	0	0	75.0
その他の世帯	35	54.3	20.0	8.6	17.1

⑥ 家族構成×世話をしているために、やりたいけれどできていないこと

世話をしているために、やりたいけれどできないことについては、ひとり親家庭では「宿題をする時間や勉強する時間が取れない」「睡眠が十分に取れない」「友人と遊ぶことができない」「自分の時間が取れない」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－65 家族構成×世話をしているために、やりたいけれどできていないこと(複数回答)

	調査数 (三)	学校に行きたくても行けない	どうしても学校を遅刻・早退してしまう	勉強する時間が取れない	宿題をする時間や勉強する時間が取れない	睡眠が十分に取れない	友人と遊ぶことができない	部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得なかった	進路の変更を考慮するを得ない、もしくは進路を変更した	自分の時間が取れない	その他	特になし	無回答
二世帯世帯	694	1.4	1.3	8.8	7.5	9.1	1.7	0.9	16.0	1.0	54.6	19.3	
三世帯世帯	353	2.3	1.7	8.8	11.6	7.4	2.0	2.8	14.4	1.7	59.8	12.7	
ひとり親家庭	180	5.0	4.4	18.9	18.3	15.6	2.8	5.0	22.2	0.6	43.9	12.8	
一人暮らし・寮・施設	12	8.3	0	0	0	0	0	0	0	0	25.0	66.7	
その他の世帯	35	5.7	11.4	20.0	22.9	17.1	5.7	11.4	25.7	5.7	42.9	8.6	

⑦ 家族構成×世話をすることに感じているきつさ

世話をすることに感じているきつさについては、ひとり親家庭では「時間的余裕がない」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 66 家族構成×世話をすることに感じているきつさ（複数回答）

(%)

	調査数 (ニ)	身体的 にきつい	精神的 にきつい	時間的 余裕がない	特に きつさは 感じて いない	無 回 答
二世代世帯	694	1.6	5.5	8.8	58.6	25.5
三世代世帯	353	3.1	11.0	5.4	60.1	20.4
ひとり親家庭	180	5.0	9.4	11.1	45.0	29.4
一人暮らし・寮・施設	12	8.3	0	0	8.3	83.3
その他の世帯	35	8.6	8.6	2.9	51.4	28.6

⑧ 家族構成×学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援

学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援については、ひとり親家庭では「家庭への経済的な支援」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 67 家族構成×学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援（複数回答）

(%)

	調査数 (n)	自分のいまの状況について話を聞いてほしい	家族のお世話について相談にのってほしい	家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい	自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい	自由に使える時間がほしい	進路や就職など将来の相談にのってほしい	学校の勉強や受験勉強など学習のサポート	家庭への経済的な支援	わからない	その他	特にない	無回答
二世帯世帯	694	9.5	2.4	1.7	1.4	1.4	10.5	7.5	10.1	3.9	11.1	0.7	52.4	13.3
三世帯世帯	353	10.8	4.8	2.5	1.4	1.4	12.5	10.5	11.0	4.8	11.6	0.6	51.3	11.0
ひとり親家庭	180	14.4	8.9	3.9	2.8	2.2	18.3	8.3	13.3	13.9	7.2	1.7	45.6	10.0
一人暮らし・寮・施設	12	8.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33.3	58.3
その他の世帯	35	14.3	5.7	11.4	8.6	5.7	20.0	14.3	20.0	11.4	11.4	2.9	45.7	14.3

1.3.4 平日1日あたりの世話に費やす時間による生活状況等について

① 平日1日あたりの世話に費やす時間×健康状態

健康状態については、平日1日あたりの世話に費やす時間が7時間以上の場合、健康状態が「よくない」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 68 平日1日あたりの世話に費やす時間×健康状態

(%)

		調査数 (≡)	よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない	無回答
世話に 費やす時間	3時間未満	702	44.2	20.2	25.2	9.1	1.3	0
	3～7時間未満	241	32.4	24.5	29.5	11.2	2.1	0.4
	7時間以上	74	32.4	18.9	33.8	8.1	6.8	0

② 平日1日あたりの世話に費やす時間×出席状況

出席状況については、平日1日あたりの世話に費やす時間が7時間以上の場合、「たまに欠席する」「よく欠席する」を合わせた割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 69 平日1日あたりの世話に費やす時間×出席状況

(%)

		調査数 (≡)	ほとんど 欠席しない	たまに 欠席する	よく 欠席する	無回答
世話に 費やす時間	3時間未満	702	72.2	13.7	14.0	0.1
	3～7時間未満	241	66.0	16.6	16.6	0.8
	7時間以上	74	52.7	32.4	14.9	0

③ 平日1日あたりの世話に費やす時間×遅刻や早退の状況

遅刻や早退の状況については、平日1日あたりの世話に費やす時間が7時間以上の場合、遅刻や早退を「たまにする」「よくする」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 70 平日1日あたりの世話に費やす時間×遅刻や早退の状況
(%)

		調査数 (n)	ほとん ど しない	たまに する	よく する	無 回 答
世話に 費やす時間	3時間未満	702	83.5	13.5	2.8	0.1
	3～7時間未満	241	73.4	20.3	6.2	0
	7時間以上	74	64.9	25.7	9.5	0

④ 平日1日あたりの世話に費やす時間×ふだんの学校生活等であてはまること

ふだんの学校生活等であてはまることについては、平日1日あたりの世話に費やす時間が7時間以上の場合、「授業中に居眠りすることが多い」「宿題や課題ができていないことが多い」「持ち物の忘れ物が多い」「提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い」などの割合が他に比べ高くなっている。

特に割合は少ないものの「修学旅行などの宿泊行事を欠席する」の割合は5.4%と、他に比べ高くなっている。

図表－ 71 平日1日あたりの世話に費やす時間×ふだんの学校生活等であてはまること
(複数回答)

		調査数 (n)	授業中に居眠りすることが多い	宿題や課題が できていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	多い 部活動や習い事を休むことが 多い	提出しなければいけない書類 などの提出が遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事を 欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校では 一人で過ごすことが多い	友人と遊んだり、おしゃべり したりする時間が少ない	特 に ない	無 回 答
世話に 費やす時間	3時間未満	702	24.2	17.8	22.8	6.1	18.8	0.6	1.4	11.4	10.8	44.0	1.1
	3～7時間未満	241	24.1	17.0	19.9	9.5	22.4	1.7	3.7	13.7	13.7	39.0	1.2
	7時間以上	74	36.5	28.4	31.1	6.8	29.7	5.4	2.7	10.8	14.9	31.1	1.4

⑤ 平日1日あたりの世話に費やす時間×現在の悩みや困りごと

現在の悩みや困りごとについては、平日1日あたりの世話に費やす時間が7時間以上の場合、「部活動のこと」「学費など学校生活に必要なお金のこと」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 72 平日1日あたりの世話に費やす時間×現在の悩みや困りごと（複数回答）

(%)

		調査数 (n)	友人との関係のこと	学業成績のこと	進路のこと	部活動のこと	学費(授業料)など 学校生活に必要な お金のこと	塾(通信含む) や習い事ができない	家庭の 経済状況のこと
世話に 費やす 時間	3時間未満	702	21.5	36.6	39.7	15.1	10.1	3.0	12.4
	3～7時間未満	241	21.6	33.6	45.2	10.8	12.9	2.1	16.6
	7時間以上	74	27.0	31.1	36.5	23.0	18.9	4.1	17.6

		調査数 (n)	自分と家族との 関係のこと	家族内の人間関係の こと(両親の仲が 良くないなど)	病気や障がい のある家族のこと	自分のために使える 時間が少ない	その他	特 に な い	無 回 答
世話に 費やす 時間	3時間未満	702	13.7	7.8	8.1	11.0	3.4	32.2	0.9
	3～7時間未満	241	15.8	9.5	7.1	12.4	4.6	26.6	3.7
	7時間以上	74	18.9	6.8	4.1	14.9	5.4	29.7	5.4

⑥ 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話をすることに感じているきつさ

世話をすることに感じているきつさについては、平日1日あたりの世話に費やす時間が7時間以上の場合、「身体的にきつい」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 73 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話をすることに感じているきつさ
(複数回答)

(%)

		調査数 (n)	身体的に きつい	精神的に きつい	い時間的 余裕がな	特にきつさは 感じていない	無回答
世話に 費やす時間	3時間未満	702	3.0	8.8	9.4	70.7	8.1
	3～7時間未満	241	3.3	11.2	10.0	58.5	17.0
	7時間以上	74	5.4	6.8	9.5	55.4	23.0

⑦ 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話について相談した経験

世話について相談した経験については、平日1日あたりの世話に費やす時間が3～7時間未満の場合、世話について相談したことがある割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 74 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話について相談した経験

(%)

		調査数 (n)	ある	ない	無回答
世話に 費やす時間	3時間未満	702	24.4	75.4	0.3
	3～7時間未満	241	31.1	68.0	0.8
	7時間以上	74	25.7	74.3	0

⑧ 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話についての相談相手

世話についての相談相手については、平日1日あたりの世話に費やす時間が7時間以上の場合、「親戚」「友人」「学校の先生」「SNS上での知り合い」に相談している割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 75 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話についての相談相手（複数回答）

(%)

		調査数 (n=)	家族 (父、母、祖父、祖母、きょうだい)	親戚 (おじ、おばなど)	友人	学校の先生 (保健室の先生以外)	保健室の先生	スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー	医師や看護師、その他病院の人	ヘルパーやケアマネ、福祉サービスの人	役所や保健センターの人	近所の人	SNS上での知り合い	その他	無回答
世話に 費やす 時間	3時間未満	171	66.1	8.2	39.8	15.8	4.1	8.8	4.1	1.8	2.3	1.8	4.1	2.9	2.9
	3～7時間未満	75	64.0	9.3	40.0	12.0	6.7	8.0	2.7	2.7	1.3	5.3	4.0	5.3	1.3
	7時間以上	19	68.4	15.8	68.4	26.3	0	0	5.3	0	0	5.3	10.5	0	0

⑨ 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話について相談したことがない理由

世話について相談したことがない理由については、平日1日あたりの世話に費やす時間が7時間以上の場合、「家族外の人に相談するような悩みではない」「家族のことを知られたくない」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 76 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話についての相談したことがない理由
(複数回答)

(%)

		調査数 (二)	誰かに相談するほどの 悩みではない	家族外の人に相談する ような悩みではない	誰に相談するのが よいかわからない	相談できる人が 身近にいない	家族のことのため 話しにくい	家族のことを 知られたくない	家族に対して 偏見を持たれたくない	相談しても状況が 変わると思わない	その他	無回答
世話に 費やす時間	3時間未満	529	74.5	14.2	5.5	4.3	6.6	4.5	5.3	13.8	8.5	2.3
	3～7時間未満	164	70.7	14.6	12.2	11.0	13.4	6.7	9.1	25.0	3.0	2.4
	7時間以上	55	70.9	23.6	10.9	12.7	14.5	12.7	10.9	27.3	7.3	1.8

1.3.5 世話を必要としている家族による世話の状況等

① 世話を必要としている家族×回答者の性別

回答者の性別については、世話を必要としている家族がきょうだいの場合、「女性」の割合が他に比べ高くなっている。また、父母の場合、「男性」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 77 世話を必要としている家族×回答者の性別

(%)

	調査数 (Σ)	男性	女性	その他	答えたくない	無回答
父母	304	53.0	41.4	2.3	3.0	0.3
祖父母	215	48.4	47.9	1.4	2.3	0
きょうだい	616	36.2	59.1	1.5	3.2	0
その他	110	29.1	59.1	3.6	7.3	0.9

② 世話を必要としている家族×世話を一緒にしている人

世話を一緒にしている人については、世話を必要としている家族が父母の場合、「自分のみ」の割合が他に比べ高くなっている。一方、祖父母の場合「福祉サービスを利用」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 78 世話を必要としている家族×世話を一緒にしている人（複数回答）

(%)

	調査数 (Σ)	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	親戚の人	自分のみ	福祉サービス (ヘルパーなど) を利用	その他	無回答
父母	304	43.8	27.0	11.2	4.6	23.7	4.6	16.8	3.0	0.7	18.4
祖父母	215	62.3	34.9	20.5	13.5	34.0	12.6	7.4	15.3	3.7	7.4
きょうだい	616	76.0	51.8	18.0	9.9	40.6	2.9	8.3	2.1	0.6	3.6
その他	110	57.3	38.2	20.0	9.1	43.6	7.3	12.7	6.4	4.5	8.2

③ 世話を必要としている家族×世話を始めた年齢

世話を始めた年齢については、世話を必要としている家族が父母、祖父母の場合、「中学生以降」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 79 世話を必要としている家族×世話を始めた年齢（複数回答）

(%)

	(二) 調査数	就学前	小学生 (低学年)	小学生 (高学年)	中学生以降	無回答
父母	304	14.1	6.9	17.4	30.9	30.6
祖父母	215	7.0	7.9	25.6	44.7	14.9
きょうだい	616	19.6	18.3	34.9	18.7	8.4
その他	110	15.5	10.9	33.6	27.3	12.7

④ 世話を必要としている家族×世話をしている頻度

世話をしている頻度については、世話を必要としている家族がきょうだいの場合、「ほぼ毎日」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 80 世話を必要としている家族×世話をしている頻度

(%)

	(二) 調査数	ほぼ毎日	3週に 5日	1週に 2日	数日 1か月に	無回答
父母	304	38.2	14.1	13.8	9.5	24.3
祖父母	215	40.0	19.5	22.8	8.8	8.8
きょうだい	616	58.3	17.5	15.6	4.5	4.1
その他	110	59.1	14.5	12.7	4.5	9.1

⑤ 世話を必要としている家族×世話に費やす時間

世話に費やす時間については、世話を必要としている家族がきょうだいの場合、「3～7時間未満」「7時間以上」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 81 世話を必要としている家族×平日1日あたりの世話に費やす時間
(%)

	調査数 (二)	3時間未満	3～7時間未満	7時間以上	無回答
父母	304	55.0	11.2	5.9	28.0
祖父母	215	65.6	18.2	4.7	11.6
きょうだい	616	60.3	25.1	8.6	6.0
その他	110	62.7	13.6	13.6	10.0

⑥ 世話を必要としている家族×世話をすることに感じているきつさ

世話をすることに感じているきつさについては、世話を必要としている家族が祖父母の場合、「精神的にきつい」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 82 世話を必要としている家族×世話をすることに感じているきつさ（複数回答）
(%)

	調査数 (二)	身体的にきつい	精神的にきつい	い時間的余裕がない	特にきつさは感じていない	無回答
父母	304	6.3	7.2	7.2	47.4	31.9
祖父母	215	3.3	14.0	6.0	56.7	20.0
きょうだい	616	1.5	8.0	9.7	68.3	12.5
その他	110	1.8	6.4	11.8	60.9	19.1

⑦ 世話を必要としている家族×世話に関する相談の経験

世話に関する相談の経験については、世話を必要としている家族が祖父母の場合、「ある」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 83 世話を必要としている家族×世話に関する相談の経験

(%)

	調査数 (Ⅱ)	ある	ない	無回答
父母	304	26.3	56.6	17.1
祖父母	215	31.6	61.9	6.5
きょうだい	616	23.5	73.5	2.9
その他	110	17.3	74.5	8.2

⑧ 世話を必要としている家族×相談していない理由

相談していない理由については、世話を必要としている家族が祖父母、きょうだいの場合、「誰かに相談するほどの悩みではない」の割合が他に比べ高くなっている。また、父母の場合、「誰に相談するのがよいかわからない」「家族のことを知られたくない」「家族に対して偏見を持たれたくない」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 84 世話を必要としている家族×世話について相談したことがない理由(複数回答)

(%)

	調査数 (Ⅱ)	誰かに相談するほどの 悩みではない	家族外の人に相談する ような悩みではない	誰に相談するのが よいかわからない	誰に相談する人が 身近にいない	相談できる人が 話にくい	家族のこのため 知られたくない	家族のことを 偏見を持たれたくない	家族に対して 相談しても状況が 変わると思わない	その他	無回答
父母	172	53.5	11.6	9.9	7.0	11.0	9.9	9.3	19.2	6.4	12.2
祖父母	133	71.4	17.3	5.3	3.8	6.8	3.8	4.5	14.3	3.0	5.3
きょうだい	453	77.5	13.5	6.0	5.5	8.4	4.0	5.7	16.3	8.2	2.0
その他	82	67.1	22.0	8.5	8.5	7.3	4.9	6.1	20.7	12.2	3.7

1.3.6世話をすることに感じているきつさによる世話の状況の違い

① 世話をすることに感じているきつさ×世話対象の状況

世話対象の状況については、世話を必要としている家族が父母の場合、「身体的にきつい」と回答している際の父母の状況は「こころの病気」「身体障がい」の割合が高く、「精神的にきつい」と回答している際は「こころの病気」の割合が高くなっている。世話を必要としている家族が祖父母の場合、いずれの回答でも「高齢」「介護が必要」「認知症」の割合が高くなっている。世話を必要としている家族がきょうだいの場合、いずれの回答でも「幼い」の割合が高いが、「精神的にきつい」と回答している際は「知的障がい」の割合が高くなっている。

図表－ 85 世話をすることに感じているきつさ×父母の状況（複数回答）

(%)

	調査数 (n)	高齢 (65歳以上)	介護が必要	認知症	身体障がい	知的障がい	こころの病気 (疑い含む)	依存症(疑い含む)	こころの病気、 以外の病気、 依存症	その他	わからない
身体的にきつい	43	18.6	20.9	9.3	23.3	11.6	27.9	16.3	14.0	27.9	14.0
精神的にきつい	55	12.7	16.4	9.1	20.0	12.7	34.5	21.8	12.7	25.5	9.1
時間的余裕がない	52	17.3	15.4	5.8	15.4	11.5	23.1	15.4	11.5	26.9	19.2
特にきつさは感じていない	146	10.3	8.2	2.1	9.6	2.1	6.2	4.8	7.5	37.0	30.1

図表－ 86 世話をすることに感じているきつさ×祖父母の状況（複数回答）

(%)

	調査数 (n)	高齢 (65歳以上)	介護が必要	認知症	身体障がい	知的障がい	こころの病気 (疑い含む)	依存症(疑い含む)	こころの病気、 以外の病気、 依存症	その他	わからない
身体的にきつい	23	87.0	56.5	39.1	21.7	13.0	17.4	17.4	26.1	8.7	4.3
精神的にきつい	49	85.7	42.9	30.6	22.4	6.1	12.2	12.2	20.4	4.1	0
時間的余裕がない	28	92.9	39.3	39.3	25.0	10.7	10.7	14.3	21.4	10.7	3.6
特にきつさは感じていない	124	78.2	18.5	23.4	10.5	1.6	0.8	0	6.5	8.1	5.6

図表－ 87 世話をすることに感じているきつさ×きょうだいの状況（複数回答）

(%)

	調査数 (n)	幼い	介護が必要	認知症	身体障がい	知的障がい	こころの病気 (疑い含む)	依存症 (疑い含む)	こころの病気、 以外の病気、 依存症	その他	わからない
身体的にきつい	49	65.3	6.1	4.1	4.1	16.3	10.2	6.1	10.2	20.4	4.1
精神的にきつい	100	64.0	5.0	3.0	7.0	23.0	9.0	5.0	4.0	17.0	3.0
時間的余裕がない	111	74.8	3.6	1.8	4.5	13.5	4.5	3.6	3.6	13.5	4.5
特にきつさは感じていない	423	77.1	0.2	0	3.1	5.4	1.2	0.7	1.9	10.6	3.8

② 世話をすることに感じているきつさ×世話の内容

世話の内容については、父母への世話では、「家事」の割合が全般に高くなっているが、精神的にきついと回答した場合、「感情面のサポート」の割合が他に比べ高くなっている。祖父母への世話では、身体的にきついと回答した場合、「身体的な介護」の割合が他に比べ高くなっている。きょうだいへの世話では、身体的にきついと回答した場合、「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」「感情面のサポート」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 88 世話をすることに感じているきつさ×父母への世話の内容（複数回答）

(%)

	調査数 (n)	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護 (入浴やトイレのお世話など)	外出の付き添い (買い物、散歩など)	通院の付き添い	話し相手になるなど	感情面のサポート（愚痴を聞く、見守り）	通訳（日本語や手話など）	金銭管理	薬の管理	その他	無回答
身体的にきつい	43	72.1	25.6	11.6	30.2	16.3	23.3	20.9	9.3	25.6	11.6	4.7	2.3
精神的にきつい	55	63.6	14.5	12.7	32.7	16.4	45.5	29.1	5.5	23.6	14.5	9.1	1.8
時間的余裕がない	52	75.0	19.2	9.6	32.7	9.6	38.5	25.0	7.7	21.2	9.6	9.6	3.8
特にきつさは感じていない	146	78.1	19.9	8.9	30.8	8.9	18.5	24.7	8.2	8.9	9.6	6.2	4.1

図表－ 89 世話をすることに感じているきつさ×祖父母への世話の内容（複数回答）

(%)

	調査数 (n)	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	外出の付き添い（買い物、散歩など）	通院の付き添い	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	見守り	通訳（日本語や手話など）	金銭管理	薬の管理	その他	無回答
身体的にきつい	23	47.8	21.7	34.8	39.1	30.4	52.2	60.9	17.4	17.4	43.5	21.7	0
精神的にきつい	49	49.0	16.3	20.4	36.7	22.4	36.7	61.2	6.1	10.2	20.4	12.2	0
時間的余裕がない	28	57.1	14.3	25.0	35.7	35.7	57.1	57.1	14.3	14.3	35.7	10.7	0
特にきつさは感じていない	124	41.9	4.8	16.9	27.4	12.9	17.7	55.6	2.4	7.3	14.5	7.3	4.0

図表－ 90 世話をすることに感じているきつさ×きょうだいへの世話の内容（複数回答）

(%)

	調査数 (n)	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	外出の付き添い（買い物、散歩など）	通院の付き添い	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	見守り	通訳（日本語や手話など）	金銭管理	薬の管理	その他	無回答
身体的にきつい	49	51.0	44.9	26.5	38.8	8.2	36.7	79.6	10.2	10.2	8.2	6.1	2.0
精神的にきつい	100	58.0	31.0	23.0	44.0	5.0	28.0	74.0	5.0	9.0	6.0	4.0	1.0
時間的余裕がない	111	56.8	39.6	20.7	42.3	4.5	27.0	68.5	8.1	9.0	6.3	7.2	0
特にきつさは感じていない	423	35.9	22.0	15.6	29.1	1.7	13.7	64.5	0.2	1.9	1.2	5.4	2.4

③ 世話をすることに感じているきつさ×世話による制約

世話による制約については、身体的にきついと回答した場合、「学校に行きたくても行けない」の割合が他に比べ高くなっている。また、時間的余裕がないと回答した場合、「宿題をする時間や勉強する時間が取れない」「自分の時間が取れない」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 91 世話をすることに感じているきつさ×世話による制約（複数回答）

(%)

	調査数 (n)	学校に行きたくても行けない	どうしても学校を遅刻・早退してしまう	宿題をする時間や勉強する時間が取れない	睡眠が十分に取れない	友人と遊ぶことができない	部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得なかった	進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した	自分の時間が取れない	その他	特にない	無回答
身体的にきつい	112	15.2	11.6	33.9	44.6	25.9	8.0	9.8	53.6	4.5	16.1	4.5
精神的にきつい	195	7.7	7.2	30.8	36.4	29.7	8.2	11.3	47.2	5.1	29.2	1.0
時間的余裕がない	188	5.3	8.5	44.1	36.7	30.9	6.4	9.0	57.4	2.1	16.0	2.7
特にきつさは感じていない	719	0.4	0.4	4.5	4.6	6.0	1.0	0.1	8.6	0.7	79.4	2.5

④ 世話をすることに感じているきつさ×世話について相談した経験

世話について相談した経験については、精神的にきついと回答した場合、「ある」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 92 世話をすることに感じているきつさ×世話について相談した経験

(%)

	調査数 (n)	ある	ない	無回答
身体的にきつい	112	42.9	57.1	0
精神的にきつい	195	48.7	50.8	0.5
時間的余裕がない	188	35.6	63.8	0.5
特にきつさは感じていない	719	18.9	80.5	0.6

⑤ 世話をすることに感じているきつさ×世話について相談したことがない理由

世話について相談したことがない理由については、時間的余裕がないと回答した場合、「誰かに相談するほどの悩みではない」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 93 世話をすることに感じているきつさ×世話について相談したことがない理由
(複数回答)

(%)

	調査数 (n)	誰かに相談するほどの 悩みではない	家族外の人に相談する ような悩みではない	誰に相談するのが よいかわからない	相談できる人が 身近にいない	家族のこのため 話しにくい	家族のことを 知られたくない	偏見を持たれたくない	家族に対して	相談しても状況が 変わるとは思わない	その他	無回答
身体的にきつい	64	50.0	21.9	32.8	32.8	31.3	26.6	28.1	43.8	9.4	1.6	
精神的にきつい	99	42.4	19.2	31.3	31.3	33.3	22.2	28.3	48.5	6.1	3.0	
時間的余裕がない	120	58.3	20.8	27.5	26.7	30.0	18.3	23.3	44.2	5.8	1.7	
特にきつさは感じていない	579	77.5	13.3	2.2	1.4	2.8	1.4	1.9	10.2	7.6	3.8	

⑥ 世話をすることに感じているきつさ×世話について話を聞いてくれる人の有無

世話について話を聞いてくれる人の有無については、特にきつさを感じていないと回答した場合に比べ、他の選択肢では「いる」の割合が低くなっている。

図表－ 94 世話をすることに感じているきつさ×世話について話を聞いてくれる人の有無
(%)

	調査数 (n)	いる	いない	無回答
身体的にきつい	64	31.3	62.5	6.3
精神的にきつい	99	32.3	63.6	4.0
時間的余裕がない	120	47.5	50.0	2.5
特にきつさは感じていない	579	70.8	24.5	4.7

1.3.7 ヤングケアラーの自己認識による生活状況、世話の状況の違い

① ヤングケアラーの自己認識×健康状態

健康状態については、ヤングケアラーの自己認識が「あてはまる」「わからない」と回答した場合、「あまりよくない」「よくない」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 95 ヤングケアラーの自己認識×健康状態

(%)

		調査数 (n)	よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない	無回答
ヤングケアラーの自己認識	あてはまる	1162	47.3	19.7	23.2	8.0	1.5	0.2
	あてはまらない	25342	52.1	19.8	23.4	4.1	0.6	0.1
	わからない	3686	42.3	18.9	30.0	6.8	1.8	0.2

② ヤングケアラーの自己認識×出席状況

出席状況については、ヤングケアラーの自己認識が「あてはまる」「わからない」と回答した場合、「たまに欠席する」「よく欠席する」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 96 ヤングケアラーの自己認識×出席状況

(%)

		調査数 (n)	ない ほとんど欠席し	たまに欠席する	よく欠席する	無回答
ヤングケアラーの自己認識	あてはまる	1162	70.1	14.0	15.6	0.3
	あてはまらない	25342	80.4	8.7	10.9	0.1
	わからない	3686	69.3	14.1	16.4	0.2

③ ヤングケアラーの自己認識×遅刻や早退の状況

遅刻や早退の状況については、ヤングケアラーの自己認識が「あてはまる」「わからない」と回答した場合、「たまにする」「よくする」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 97 ヤングケアラーの自己認識×遅刻・早退状況
(%)

		調査数 (ニ)	ほとんどしない	たまにする	よくする	無回答
ヤングケアラーの自己認識	あてはまる	1162	84.3	12.3	3.2	0.2
	あてはまらない	25342	89.9	8.7	1.2	0.1
	わからない	3686	81.7	15.0	3.1	0.2

④ ヤングケアラーの自己認識×学校生活等であてはまること

学校生活等であてはまることについては、ヤングケアラーの自己認識が「あてはまる」「わからない」と回答した場合、「授業中に居眠りすることが多い」「宿題や課題ができていないことが多い」「持ち物の忘れ物が多い」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 98 ヤングケアラーの自己認識×学校生活等であてはまること（複数回答）

		調査数 (ニ)	授業中に居眠りすることが多い	宿題や課題ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	部活動や習い事を休むことが多い	提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い	出席する	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	保健室で過ごすことが多い	一人で過ごすことが多い	学校では友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特にない	無回答
ヤングケアラーの自己認識	あてはまる	1162	24.9	16.9	19.6	6.2	16.3	1.1	2.1	7.7	7.9	48.0	2.3	
	あてはまらない	25342	18.4	12.6	14.2	3.3	12.7	0.8	0.6	6.1	6.6	58.1	1.7	
	わからない	3686	24.1	17.8	19.0	4.8	17.9	1.5	1.5	7.8	8.4	48.3	1.5	

⑤ ヤングケアラーの自己認識×現在の悩みや困りごと

現在の悩みや困りごとについて、ヤングケアラーの自己認識が「あてはまる」と回答した場合、「家庭の経済状況のこと」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 99 ヤングケアラーの自己認識×現在の悩みや困りごと（複数回答）

(%)

		調査数 (n)	友人との関係 のこと	学業成績のこと	進路のこと	部活動のこと	学費（授業料）など 学校生活に必要な お金のこと	塾（通信含む） や習い事ができない	家庭の 経済状況のこと
ヤングケ アラーの 自己認識	あてはまる	1162	18.2	32.4	37.6	12.4	8.5	2.4	10.2
	あてはまらない	25342	13.7	29.8	34.5	10.5	4.1	0.9	4.0
	わからない	3686	15.6	27.0	33.7	10.8	6.2	1.3	7.0

		調査数 (n)	自分と家族との 関係のこと	家族内の人間関係の こと（両親の仲が 良くないなど）	病気や障がい のある家族のこと	自分のために使える 時間が少ない	その他	特 に な い	無 回 答
ヤングケ アラーの 自己認識	あてはまる	1162	10.8	7.8	5.9	9.6	2.7	34.7	3.1
	あてはまらない	25342	4.1	3.1	0.8	6.0	2.6	44.0	2.0
	わからない	3686	8.4	5.2	3.1	7.0	3.4	42.9	2.9

⑥ ヤングケアラーの自己認識×世話を一緒にする人

世話を一緒にする人については、ヤングケアラーの自己認識が「あてはまる」と回答した場合、「きょうだい」「福祉サービスを利用」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 100 ヤングケアラーの自己認識×世話を一緒にしている人（複数回答）

(%)

		調査数 (Ⅱ)	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	親戚の人	自分のみ	福祉サービス (ヘルパーなど)を利用	その他	無回答
ヤングケアラーの 自己認識	あてはまる	262	64.9	41.2	15.3	6.1	38.9	6.5	10.3	8.0	1.5	4.2
	あてはまらない	538	55.9	38.8	13.2	8.2	30.5	2.0	8.2	2.6	1.3	23.0
	わからない	443	60.9	38.4	16.3	8.6	31.6	6.1	10.8	5.0	1.6	12.0

⑦ ヤングケアラーの自己認識×世話をしている頻度

世話をしている頻度については、ヤングケアラーの自己認識が「あてはまる」と回答した場合、「ほぼ毎日」「週に3～5日」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 101 ヤングケアラーの自己認識×世話をしている頻度

(%)

		調査数 (Ⅱ)	ほぼ毎日	週に3～5日	週に1～2日	1ヶ月に数日	無回答
ヤングケアラーの 自己認識	あてはまる	262	54.2	21.0	14.5	5.3	5.0
	あてはまらない	538	40.3	14.1	16.0	6.3	23.2
	わからない	443	48.5	16.0	13.1	6.5	15.8

⑧ ヤングケアラーの自己認識×平日1日あたりの世話に費やす時間

平日1日あたりの世話に費やす時間については、ヤングケアラーの自己認識が「あてはまる」と回答した場合、「3～7時間未満」「7時間以上」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 102 ヤングケアラーの自己認識×平日1日あたりの世話に費やす時間

(%)

		調査数 (n)	3時間未満	3～7時間未満	7時間以上	無回答
ヤングケアラーの自己認識	あてはまる	262	60.7	24.0	8.8	6.5
	あてはまらない	538	53.7	16.5	4.9	24.9
	わからない	443	56.7	17.0	8.3	18.1

⑨ ヤングケアラーの自己認識×世話による制約

世話による制約については、ヤングケアラーの自己認識が「あてはまる」と回答した場合、全般に回答割合が高くなっているが、特に「宿題をする時間や勉強する時間が取れない」「友人と遊ぶことができない」「自分の時間が取れない」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 103 ヤングケアラーの自己認識×世話による制約（複数回答）

(%)

		調査数 (n)	学校に行きたくても行けない	どうしても学校を遅刻・早退してしまう	勉強する時間や宿題をする時間が取れない	睡眠が十分に取れない	友人と遊ぶことができない	部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得なかった	進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した	自分の時間が取れない	その他	特にない	無回答
ヤングケアラーの自己認識	あてはまる	262	5.7	3.8	20.2	15.6	19.1	5.7	5.7	29.4	1.9	42.0	4.6
	あてはまらない	538	1.3	0.7	5.8	5.4	4.6	0.7	0.6	8.7	0.7	61.7	21.6
	わからない	443	1.8	2.9	11.1	14.4	11.1	1.6	2.5	20.1	1.6	54.4	12.9

⑩ ヤングケアラーの自己認識×世話をすることに感じているきつさ

世話をすることに感じているきつさについては、ヤングケアラーの自己認識が「あてはまる」と回答した場合、他に比べ「特にきつさは感じていない」の割合が低く、「身体的にきつい」「精神的にきつい」「時間的余裕がない」のいずれも割合が高くなっている。

図表－ 104 ヤングケアラーの自己認識×世話をすることに感じているきつさ（複数回答）
(%)

		調査数 (≡)	身体的 にきつい	精神的 にきつい	時間的 余裕がない	特に きつさは 感じ て い な い	無 回 答
ヤングケ アラーの 自己認識	あてはまる	262	6.9	14.9	13.7	42.0	22.5
	あてはまらない	538	1.7	4.6	5.4	63.4	24.9
	わからない	443	1.8	7.4	8.1	59.8	22.8

⑪ ヤングケアラーの自己認識×世話について相談した経験

世話について相談した経験については、ヤングケアラーの自己認識が「あてはまる」と回答した場合、「ある」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 105 ヤングケアラーの自己認識×世話について相談した経験
(%)

		調査数 (≡)	あ る	な い	無 回 答
ヤングケ アラーの 自己認識	あてはまる	262	38.5	57.6	3.8
	あてはまらない	538	14.1	66.7	19.1
	わからない	443	23.7	65.9	10.4

⑫ ヤングケアラーの自己認識×世話についての相談相手

世話についての相談相手については、ヤングケアラーの自己認識が「あてはまる」と回答した場合、「親戚」「友人」の割合が他に比べ低くなっている。

図表－ 106 ヤングケアラーの自己認識×世話についての相談相手（複数回答）

(%)

		調査数 (二)	家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)	親戚(おじ、おばなど)	友人	学校の先生 (保健室の先生以外)	保健室の先生	スクールソーシャルワーカー やスクールカウンセラー	医師や看護師、 その他病院の人	ヘルパーやケアマネ、 福祉サービスの人	役所や保健センターの人	近所の人	SNS上での知り合い	その他	無回答
ヤングケアラーの 自己認識	あてはまる	101	62.4	6.9	36.6	16.8	5.9	5.9	3.0	2.0	1.0	2.0	3.0	4.0	3.0
	あてはまらない	76	71.1	9.2	47.4	9.2	1.3	3.9	5.3	1.3	1.3	6.6	5.3	2.6	5.3
	わからない	105	63.8	10.5	41.0	16.2	4.8	12.4	3.8	1.9	2.9	2.9	4.8	2.9	1.9

⑬ ヤングケアラーの自己認識×世話について相談したことがない理由

世話について相談したことがない理由については、ヤングケアラーの自己認識が「あてはまる」と回答した場合、「誰に相談するのがよいかわからない」「家族のこのため話しにくい」「家族のことを知られたくない」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 107 ヤングケアラーの自己認識×世話について相談したことがない理由
(複数回答)

(%)

		調査数 (三)	誰かに相談するほどの 悩みではない	家族外の人に相談する ような悩みではない	誰に相談するのが よいかわからない	相談できる人が 身近にいない	家族のこのため 話しにくい	家族のことを 知られたくない	家族に対して 偏見を持たれたくない	相談しても状況が 変わると思わない	その他	無回答
ヤングケアラーの 自己認識	あてはまる	151	65.6	19.2	14.6	9.3	15.9	11.9	11.9	22.5	4.0	1.3
	あてはまらない	359	76.3	14.5	3.9	3.3	4.7	3.3	3.1	9.5	8.6	5.3
	わからない	292	66.8	11.6	6.8	7.9	8.6	4.5	6.8	22.6	6.8	6.8

⑭ ヤングケアラーの自己認識×世話について話を聞いてくれる人の有無

世話について話を聞いてくれる人の有無については、ヤングケアラーの自己認識が「あてはまる」「わからない」と回答した場合、「あてはまらない」と回答した場合に比べ、世話について話を聞いていくれる人が「いる」の割合が低く、「いない」の割合が高くなっている。

図表－ 108 ヤングケアラーの自己認識×世話について話を聞いてくれる人の有無

(%)

		調査数 (n)	いる	いない
ヤングケアラーの 自己認識	あてはまる	143	65.7	34.3
	あてはまらない	340	73.2	26.8
	わからない	278	60.4	39.6

⑮ ヤングケアラーの自己認識×学校や大人に助けてほしいこと

学校や大人に助けてほしいことについては、ヤングケアラーの自己認識が「あてはまる」と回答した場合、「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」「自由に使える時間がほしい」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 109 ヤングケアラーの自己認識×学校や大人に助けてほしいこと（複数回答）

(%)

		調査数 (≡)	自分のいまの状況について話を聞いてほしい	家族のお世話について相談にのってほしい	家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	代わってくれる人やサービスがほしい	お世話がすべてを自分が行っている	お世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい	自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい	自由に使える時間がほしい	進路や就職などの将来の相談にのってほしい
ヤングケアラーの自己認識	あてはまる	262	18.3	8.8	7.3	5.3	4.2	20.6	11.5			
	あてはまらない	538	6.7	2.0	0.6	0.6	0.6	6.7	6.1			
	わからない	443	11.5	4.1	2.3	1.4	1.6	14.9	10.2			

		調査数 (≡)	学校の勉強や受験の勉強など学習のサポート	家庭への経済的な支援	わからない	その他	特にない	無回答
ヤングケアラーの自己認識	あてはまる	262	14.5	11.8	11.8	0.8	40.5	5.3
	あてはまらない	538	9.9	3.2	8.7	0.6	57.6	14.5
	わからない	443	10.8	5.9	13.1	1.4	51.2	9.5

1.3.8 世話に関しての相談の状況

① 世話について相談した経験×世話をしている頻度

世話をしている頻度については、世話について相談した経験が「ある」場合、「ほぼ毎日」の割合が、「ない」と回答した場合に比べ高くなっている。

図表－ 110 世話について相談した経験×世話をしている頻度
(%)

		調査数 (二)	ほぼ毎日	3週に 5日	1週に 2日	数日 1か月に	無回答
世話について 相談した経験	ある	283	57.2	15.5	19.4	4.9	2.8
	ない	806	51.0	19.6	16.0	7.7	5.7

② 世話について相談した経験×世話による制約

世話による制約については、世話について相談をした経験が「ある」場合、「学校に行きたくても行けない」「友人と遊ぶことができない」「自分の時間が取れない」などの割合が、「ない」と回答した場合に比べ高くなっている。

図表－ 111 世話について相談した経験×世話による制約（複数回答）

		調査数 (二)	学校に行きたくても行けない	どうしても学校を遅刻・早退してしまふ	勉強する時間が取れない	宿題をする時間や	睡眠が十分に取れない	友人と遊ぶことができない	部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得なかった	進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した	自分の時間が取れない	その他	特にない	無回答
世話について 相談した経	ある	283	6.4	4.6	15.5	17.7	18.4	3.9	5.3	26.9	2.1	50.5	3.9	
	ない	806	1.5	1.7	10.9	10.3	8.6	1.9	1.6	16.9	1.2	66.6	3.5	

2 小学生の生活実態に関するアンケート調査

2.1 調査実施概要

2.1.1 調査目的

茨城県内の小学校の6年児童を対象に、「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態を把握するためにアンケート調査を実施した。

2.1.2 調査対象

無作為に選ばれた茨城県内の1市町村1校の小学校の6年児童（約2,400人）

2.1.3 実施時期

令和4年4月～7月

2.1.4 調査方法

対象の学校へ生徒本人向けのアンケート調査票、保護者向けの調査概要を郵送し、学校を通じて、アンケート調査票を配布。学校を通じて回収を実施。

2.1.5 回収状況

図表－ 112 回収状況

調査対象数	有効回答数	回答率
約 2400	1904	79.3%

2.2 小学生アンケート調査 調査結果

2.2.1 基本情報

① 性別

回答者の性別については、以下のとおり。

図表－ 113 性別

(%)

	男性	女性	その他	答えたくない	無回答
調査数 (n=1904)	46.9	49.5	0.0	1.3	0.9

② 同居家族

同居家族については、「母親」の割合が96.8%と最も高くなっており、次いで「父親」が88.2%、「兄・姉」が50.3%、「弟・妹」が48.4%となっている。

図表－ 114 同居家族

(%)

	母親	父親	祖母	祖父	兄・姉	弟・妹	その他	無回答
調査数 (n=1904)	96.8	88.2	20.0	15.5	50.3	48.4	6.6	0.3

③ 健康状態

健康状態については、「よい」の割合が69.2%と最も高くなっている。

図表－ 115 健康状態

(%)

	よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない	無回答
調査数 (n=1904)	69.2	15.2	12.9	1.9	0.2	0.6

2.2.2ふだんの生活について

① 学校への通学状況：出席状況

学校の出席状況については、「ほとんど欠席しない」の割合が 85.0%と最も高くなっている。

図表－ 116 出席状況

(%)

	ほとんど 欠席しない	たまに 欠席する	よく 欠席する	無回答
調査数 (n=1904)	85.0	8.3	11.3	0.1

② 学校への通学状況：遅刻や早退の状況

学校の遅刻や早退の状況については、「ほとんどしない」の割合が 88.8%と最も高くなっている。

図表－ 117 遅刻や早退の状況

(%)

	ほとんど しない	たまに にする	よく する	無回答
調査数 (n=1904)	88.8	9.5	1.2	0.5

③ ふだんの学校生活等であてはまること

ふだんの学校生活等であてはまることについては、「特にない」の割合が 66.7%と最も高くなっており、次いで「持ち物の忘れ物が多い」が 19.4%、「提出物を出すのが遅れることが多い」が 12.2%と高くなっている。

図表－ 118 ふだんの学校生活等であてはまること（複数回答）

(%)

	授業中に寝てしまうことが多い	宿題ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	習い事を休むことが多い	提出物を出すのが遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校では一人で過ごすことが多い	友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特にない	無回答
調査数 (n=1904)	4.7	7.1	19.4	1.4	12.2	0.4	1.3	5.6	4.9	66.7	2.4

④ 現在の悩みや困りごと

現在の悩みや困りごとについては、「特にない」の割合が 69.3%と最も高くなっており、次いで「友達のこと」が 12.2%、「学校の成績のこと」が 10.2%となっている。

図表－ 119 現在の悩みや困りごと（複数回答）

(%)

	友達のこと	学校の成績のこと	習い事のこと	家族のこと	生活や勉強に必要なお金のこと	自分のために使える時間が少ないこと	その他	特にない	無回答
調査数 (n=1904)	12.2	10.2	5.1	5.5	3.7	4.1	3.6	69.3	3.3

⑤ 悩みや困りごとの相談相手・話を聞いてくれる人の有無

何らかの悩みや困りごとがあると回答した人に、悩みや困りごとの相談相手・話を聞いてくれる人の有無について聞いたところ、「いる」の割合が 55.6%と最も高くなっているが、「話はしたくない」も 22.1%となっている。

図表－ 120 悩みや困りごとの相談相手・話を聞いてくれる人の有無
(%)

	いる	いない	ない 話はしたく ない	無回答
調査数 (n=593)	55.6	10.8	22.1	11.5

2.2.3 家庭や家族のことについて

① 世話をしている家族の有無

世話をしている家族の有無については、以下のとおり。

図表－ 121 世話をしている家族の有無

(%)

	いる	いない	無回答
調査数 (n=1904)	9.6	88.6	1.8

② 世話を必要としている家族

世話を必要としている家族については、「きょうだい」の割合が 62.8%と最も高く、次いで「お母さん」が 21.3%となっている。

図表－ 122 世話を必要としている家族（複数回答）

(%)

	お母さん	お父さん	おばあさん	おじいさん	きょうだい	その他	無回答
調査数 (n=183)	21.3	14.8	13.1	9.8	62.8	7.1	6.6

③ 父母の状況

世話を必要としている家族として「お母さん」「お父さん」と回答した人に、父母の状況を聞いたところ、「わからない」の割合が 50.0%と最も高くなっている。

図表－ 123 父母の状況（複数回答）

(%)

	高齢（65歳以上）	介護が必要	認知症	身体障がい	知的障がい	こころの病気（疑い含む）	依存症（疑い含む）	こころの病気、依存症以外の病気	日本語が苦手	その他	わからない	無回答
調査票 (n=46)	4.3	2.2	0.0	0.0	0.0	2.2	0.0	4.3	4.3	19.6	50.0	19.6

④ 祖父母の状況

世話を必要としている家族として「おばあさん」「おじいさん」と回答した人に、祖父母の状況を聞いたところ、「高齢（65歳以上）」の割合が46.7%と最も高くなっている。

図表－ 124 祖父母の状況（複数回答）

(%)

	高齢（65歳以上）	介護が必要	認知症	身体障がい	知的障がい	こころの病気（疑い含む）	依存症（疑い含む）	こころの病気、依存症以外の病気	日本語が苦手	その他	わからない	無回答
調査票（n=30）	46.7	13.3	6.7	16.7	0.0	0.0	3.3	3.3	0.0	6.7	33.3	13.3

⑤ きょうだいの状況

世話を必要としている家族として「きょうだい」と回答した人に、きょうだいの状況を聞いたところ、「幼い」の割合が74.0%と最も高くなっている。

図表－ 125 きょうだいの状況（複数回答）

(%)

	幼い	介護が必要	身体障がい	知的障がい	病気	日本語が苦手	その他	わからない	無回答
調査票（n=100）	74.0	5.0	3.0	3.0	1.0	3.0	13.0	8.0	2.0

⑥ 世話の内容

世話の内容については、「見守り」の割合が 35.0%と最も高くなっており、次いで「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が 26.8%となっている。

図表－ 126 世話の内容（複数回答）

(%)

	家事 (食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいのお世話や送り迎え	入浴やトイレのお世話	買い物や散歩と一緒にいく	病院へ一緒にいく	話を聞く	見守り	通訳（日本語や手話など）	お金の管理	薬の管理	その他	無回答
調査数 (n=183)	26.8	21.3	16.4	14.8	2.2	18.6	35.0	2.7	0.5	0.5	7.1	27.9

⑦ 世話を一緒にしている人

世話を一緒にしている人については、「お母さん」の割合が 59.6%と最も高くなっており、次いで「お父さん」が 44.8%、「きょうだい」が 33.3%となっている。

図表－ 127 世話を一緒にしている人（複数回答）

(%)

	お母さん	お父さん	おばあさん	おじいさん	きょうだい	しんせきの人	自分のみ	福祉サービス (ヘルパーなど)を利用	その他	無回答
調査数 (n=183)	59.6	44.8	15.8	9.8	33.3	4.4	14.2	0.5	1.6	16.4

⑧ 世話を始めた年齢

世話を始めた年齢については、「7～9歳」の割合が32.8%と最も高くなっている。

図表－ 128 世話を始めた年齢

(%)

	5 ～ 6 歳	7 ～ 9 歳	10 ～ 12 歳	13 ～ 15 歳	無 回 答
調査数 (n=183)	15.3	32.8	28.4	23.5	

⑨ 世話をしている頻度

世話をしている頻度については、「ほぼ毎日」の割合が43.2%と最も高くなっている。

図表－ 129 世話をしている頻度

(%)

	ほ ぼ 毎 日	3 週 に 5 日	1 週 に 2 日	数 日 1 か 月 に	そ の 他	無 回 答
調査数 (n=183)	43.2	9.8	19.7	8.2	4.9	14.2

⑩ 平日1日あたりの世話に費やす時間

平日1日あたりの世話に費やす時間については、「3時間未満」の割合が46.4%と最も高くなっている。また、「7時間以上」も9.8%と一定の割合がある。

図表－ 130 平日1日あたりの世話に費やす時間

(%)

	3 時 間 未 満	未 満 3 ～ 7 時 間	7 時 間 以 上	無 回 答
調査数 (n=183)	46.4	21.9	9.8	21.9

⑪ お世話をしているために、経験をしたこと

世話をしているために、経験をしたことについては、「特にない」の割合が64.5%と最も高くなっているが、次いで「自分の時間がとれない」が10.9%、「宿題など勉強する時間がない」が9.8%となっている。

図表－ 131 お世話をしているために、経験をしたこと（複数回答）

(%)

	学校を休んでしまう	遅刻や早退をしてしまう	宿題など勉強する時間がない	眠る時間がたりない	友だちと遊ぶことができない	習い事ができない	自分の時間がとれない	その他	特にない	無回答
調査数 (n=183)	3.3	1.6	9.8	6.0	8.2	2.7	10.9	1.6	64.5	10.9

⑫ 世話をすることに感じているきつさ

世話をすることに感じているきつさについては、「特に大変さは感じていない」の割合が53.6%と最も高くなっているが、次いで「気持ちの面で大変」が21.9%、「時間の余裕がない」が14.8%となっている。

図表－ 132 世話をすることに感じているきつさ（複数回答）

(%)

	体力の面で大変	気持ちの面で大変	時間の余裕がない	特に大変さは感じていない	無回答
調査数 (n=183)	12.0	21.9	14.8	53.6	11.5

⑬ 世話について相談した経験

世話について相談した経験については、「ない」の割合が69.9%となっている。

図表－ 133 世話について相談した経験
(%)

	ある	ない	無回答
調査数 (n=183)	17.5	69.9	12.6

⑭ 世話についての相談相手

世話についての相談相手については、「家族」の割合が75.0%と最も高く、次いで「友人」が31.3%となっている。

図表－ 134 世話についての相談相手（複数回答）

	家族（お父さん、お母さん、おじいさん、おばあさん、きょうだい）	しんせき（おじ、おばなど）	友人	学校の先生（保健室の先生以外）	保健室の先生	スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー	医師・看護師・福祉サービスの人	近所の人	SNS上での知り合い	その他	無回答
調査数 (n=32)	75.0	6.3	31.3	9.4	3.1	6.3	3.1	0.0	9.4	3.1	0.0

⑮ 世話について相談したことがない理由

世話について相談したことが「ない」と回答した人に、その理由について聞いたところ、「相談するほどの悩みではないから」の割合が 64.8%と最も高くなっている。

図表－ 135 世話について相談したことがない理由（複数回答）

(%)

	相談するほどの 悩みではないから	誰に相談するのがよい かわからないから	相談できる人が いないから	家族のことを 話したくないから	相談しても何も 変わらないから	その他	無回答
調査数 (n=128)	64.8	6.3	3.9	10.9	14.8	15.6	1.6

⑯ 世話について話を聞いてくれる人の有無

世話について相談したことが「ない」と回答した人に、世話について話を聞いてくれる人の有無を聞いたところ、「いる」の割合が 68.0%となっている。

図表－ 136 世話について話を聞いてくれる人の有無

(%)

	いる	いない	無回答
調査数 (n=128)	68.0	19.5	12.5

⑰ 学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援

学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援については、「特にない」の割合が47.0%と最も高くなっているが、「自由に使える時間がほしい」「自分のことについて話を聞いてほしい」も他に比べ高くなっている。

図表－ 137 学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援（複数回答）

(%)

	調査数 (n=183)
自分のことについて話を聞いてほしい	13.7
家族のお世話について相談にのってほしい	3.8
家族の病気や障がい、お世話のことなどについてわかりやすく説明してほしい	2.7
自分が行っているお世話のすべてを誰かに代わってほしい	3.8
自分が行っているお世話の一部を誰かに代わってほしい	6.0
自由に使える時間がほしい	15.3
勉強を教えてほしい	10.9
お金の面で支援してほしい	5.5
その他	1.6
特にない	47.0
わからない	12.0
無回答	13.7

⑱ 希望する相談方法

「自分のことについて話を聞いてほしい」「家族のお世話について相談にのってほしい」と回答した人に、希望する相談方法について聞いたところ、「直接会って」の割合が73.1%と最も高く、次いで「SNS」が30.8%となっている。

図表－ 138 希望する相談方法（複数回答）

(%)

	直接会って	電話	SNS	電子メール	その他	無回答
調査数 (n=26)	73.1	19.2	30.8	19.2	3.8	3.8

⑲ 自由記述

家族の世話をしている子どものために必要だと思うことや学校や周りの大人にしてもらいたいことについての自由記述は以下のとおり。

※原文掲載を基本としつつ、一部編集・抜粋の上、掲載。

- ・自分の自由な時間がほしい（複数）。
- ・自分のこと・したいことの話聞いてほしい、先生に話を聞いてもらいたい（複数）。
- ・世話をかわってほしい（複数）。
- ・募金や寄付（複数）。
- ・世話を代わってくれる人を呼んでほしい（複数）。
- ・気にかけてほしい、大人から声をかけてほしい（複数）。
- ・いいんだけど、りかいしてもらえないからいいない。いってほしいことをいってこない。いったことあるけど、その人がおやの考えや自分の考えをゆうせんしてる。
- ・しんせつさがひつよう。
- ・家族の世話のなやみや大変なことを聞いてくれるホームページを作って、少しでも多くの小どものふたんをへらしてほしい。
- ・幼い子がかんたんにあそべるゲーム（1人でもあそべるゲーム）。
- ・つうやくするとき言葉の意味とかおおくしたほうがいい。
- ・むりしすぎると、あとからつかれてしまうので、むりしないでつかれすぎないでいどでやることは必要だと思う。
- ・先生のつごうで、一気に宿題を出す（宿題が多く）ことがないようにする。できれば近所の人を手伝うなど。

- ・高齢の人などは老人ホームなどの施設に行ったほうがいいと思う。無料で子どもに勉強や悩みなどの相談ができる施設が必要だと思う。
- ・家族のお世話をする時、たまに何をしていたか分からなくなって、どうしようもなくなってしまいう時がある。だから、何かそういうことについて書かれているものが必要だと思う。
- ・もっと計画的にやってほしい。
- ・自分よりくるしい人をしえんしたい。
- ・家族といっしょにすごす時間がほしい。
- ・ヘルパーさんを子供でもよべるように、簡たんなでんわばんごうをつくることが必ようだと思う。
- ・PTAをなくす。とうこう班をなくさせる。
- ・学校の登校時間をおそくしてほしい。
- ・近所の大人の助けや国や市、県を通した助けやしえん（お金の配布やこのような内容でなんでも書けるような、アンケートをつくるなど）を行う。無料で家のお手伝いさんのものをやとってくれるボランティアのぼしゅうなど、できることはたくさんあると思う。私はお世話しているような人がいないが、この間だけやらせてもらった。勝手にすみません。どのようなしえんがあった方が良く、考えるのがんばってください！
- ・人にたよれる人がそばにいたら、お世話している子はかなり楽になると思う。
- ・家族のお世話をしている子供のために、休日でもいいから、その子供に自由時間をあげたり、お世話をしてくれたお礼におこづかいをあげたりしたら、いいと思う！！
- ・宿題や勉強にしゅうちゅうできない。
- ・学校のみんなで活動する時間などで、あそんだり、みんなでお話する時間があると、みんな楽しいと思った。
- ・自分でなんでもすすめて家族にめいわくをかけない。
- ・別に、人それぞれ、行動する時は人として勝手にすると思う。
- ・身近な人（家族）が認知症になるとイライラやストレスがたまる。気持ち的によゆうがなくなり困ってしまう。勉強でもっと学びたい（どのように対応したらいいのかとか言葉かけなどを）。
- ・たまには休んだりする（かわってもらったりする）。話を聞いてあげたりする。
- ・時間を決めてお手伝いをしたりする。
- ・一人で話す場所がほしい（小学校の中で）。
- ・直接会わずに相談に乗ってほしい。世話で大変なときに言葉で責めないでほしい。時間（世話）がとれなくてできなかったことを理解してほしい。安いお金で保育園などに行かせるようになりたい。精神的につかれて休みたいときは早たいなどをさせてほしい。たまにお手伝いに来てくれるとうれしい。本当につらいときはよりそってほしい。休みの日には家族で楽しみたい。再こんなど、とつぜんしないでほしい（同居なども事前に言ってほしい）。一方的に責めないでほしい（反論したら態度悪いと言われる）。すいみん不足をゲームなどのせいにしないでほしい。自分の事をたなに上げないでほしい。
- ・そういう子のためにももっとおとなたちが協力してあげてください。

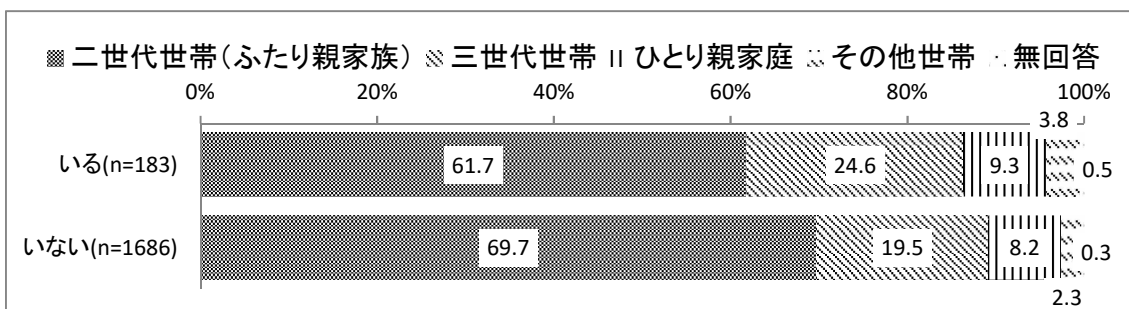
2.3 クロス集計

2.3.1 家族の世話の有無による学校生活などの状況

① 家族の世話の有無×家族構成

家族構成については、世話をしている家族が「いる」場合、「いない」場合に比べ、「二世帯世帯」以外の割合が高くなっている。

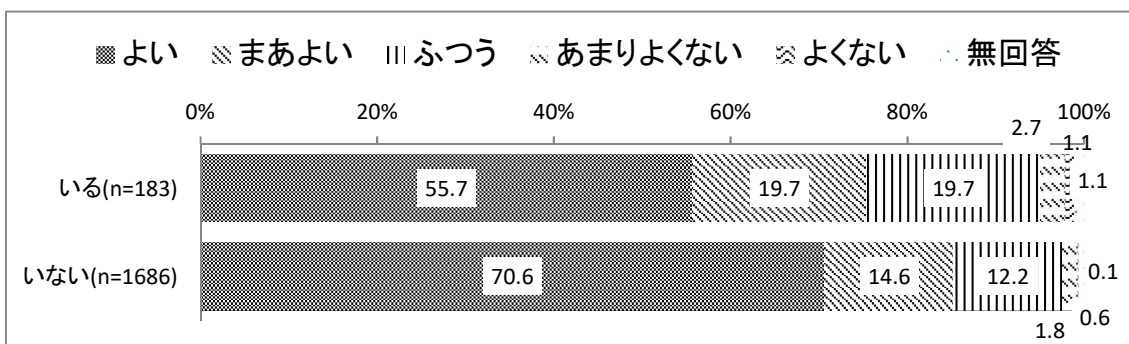
図表－ 139 家族の世話の有無×家族構成



② 家族の世話の有無×健康状態

健康状態については、世話をしている家族が「いる」場合、「いない」場合に比べ、「ふつう」「あまりよくない」の割合が高くなっている。

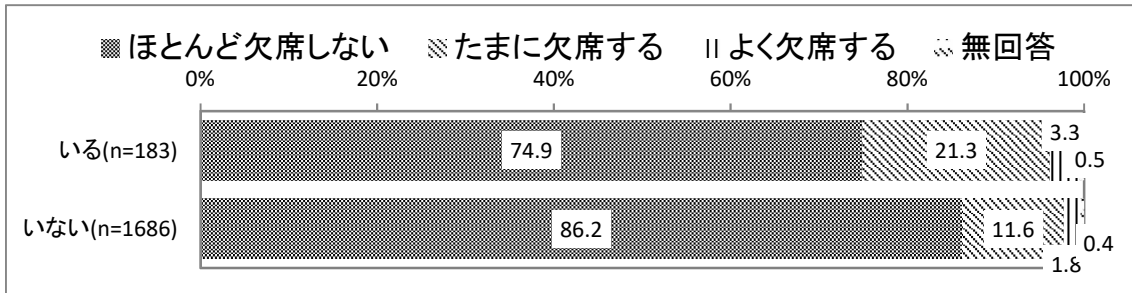
図表－ 140 家族の世話の有無×健康状態



③ 家族の世話の有無×出席状況

出席状況については、世話をしている家族が「いる」場合、「いない」場合に比べ、「たまに欠席する」「よく欠席する」の割合が高くなっている。

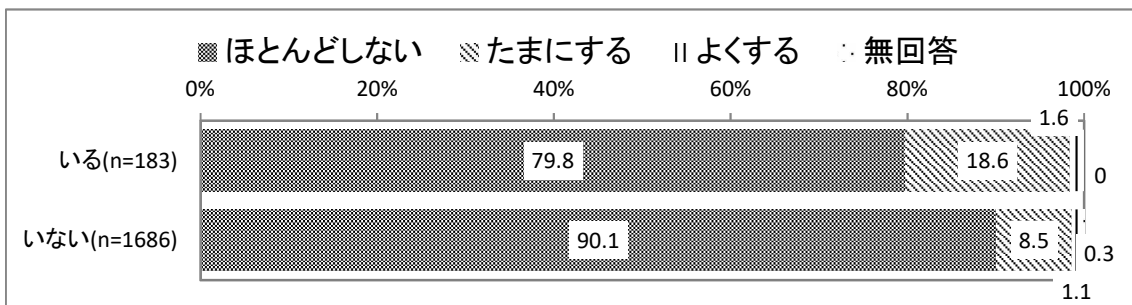
図表－ 141 家族の世話の有無×出席状況



④ 家族の世話の有無×遅刻や早退の状況

遅刻や早退の状況については、世話をしている家族が「いる」場合、「いない」場合に比べ、「たまにする」の割合が高くなっている。

図表－ 142 家族の世話の有無×遅刻や早退の状況



⑤ 家族の世話の有無×学校生活等であてはまること

学校生活等であてはまることについては、世話をしている家族が「いる」場合、「いない」場合に比べ、「宿題が出来ていないことが多い」「持ち物の忘れ物が多い」「提出物を出すのが遅れることが多い」の割合が高くなっている。

図表－ 143 家族の世話の有無×学校生活等であてはまること(複数回答)

(%)

	調査数(二)	授業中に寝てしまうことが多い	宿題ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	習い事を休むことが多い	提出物を出すのが遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校では一人で過ごすことが多い	友達と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特にな	無回答
いる	183	6.0	13.7	34.4	2.7	24.0	1.1	2.7	6.6	8.7	50.8	2.2
いない	1686	4.4	6.3	17.9	1.2	10.9	0.4	1.1	5.6	4.6	68.6	2.1

⑥ 家族の世話の有無×現在の悩みごと

現在の悩みごとについては、世話をしている家族が「いる」場合、「いない」場合に比べ、「学校の成績のこと」「家族のこと」の割合が高くなっている。

図表－ 144 家族の世話の有無×現在の悩みごと(複数回答)

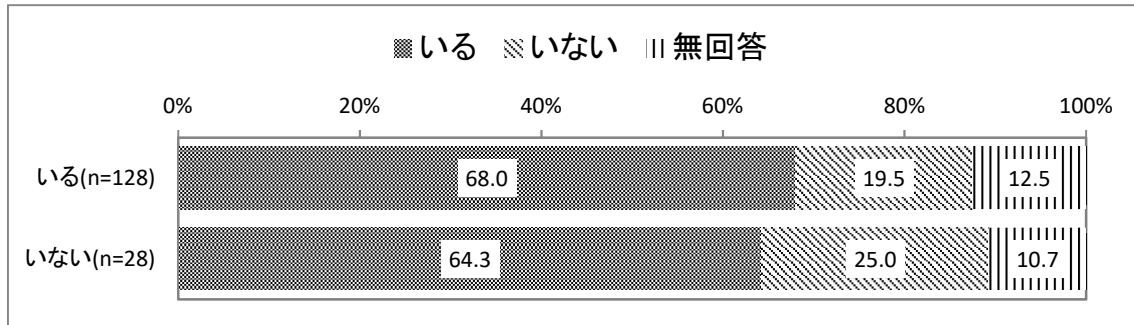
(%)

	調査数(二)	友達の	学校の成績のこと	習い事のこと	家族のこと	生活や勉強に必要なお金の	自分のために使える時間が少ないこと	その他	特にな	無回答
いる	183	14.2	18.6	7.1	14.2	8.7	9.3	7.1	59.0	2.7
いない	1686	12.0	9.3	5.0	4.4	3.2	3.6	3.2	70.7	2.8

⑦ 家族の世話の有無×相談相手の有無

相談相手の有無については、世話をしている家族が「いる」場合、「いない」場合に
比べ、「いる」の割合が高くなっている。

図表－ 145 家族の世話の有無×相談相手の有無

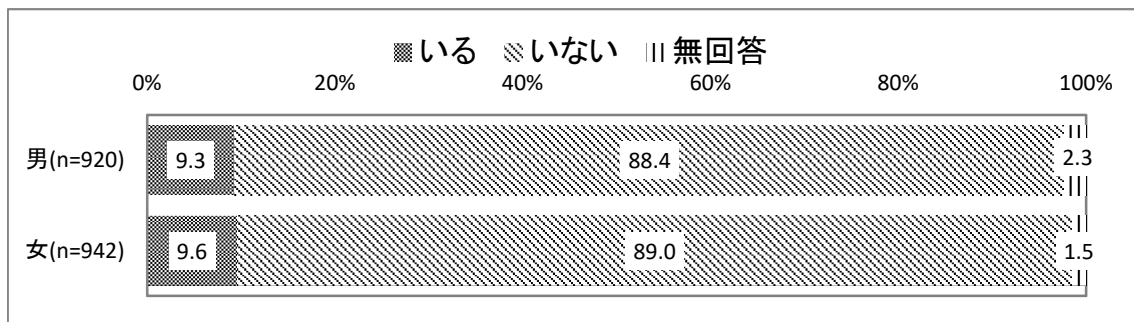


2.3.2性別による世話の状況の違い

① 性別×家族の世話の有無

家族の世話の有無については、性別による大きな差はみられない。

図表－ 146 性別×家族の世話の有無



② 性別×世話を必要としている家族

世話を必要としている家族については、男性では「お母さん」「お父さん」「おばあさん」「おじいさん」の割合が高く、女性では「きょうだい」の割合が高くなっている。

図表－ 147 性別×世話を必要としている家族(複数回答)

(%)

	調査数(コ)	お母さん	お父さん	おばあさん	おじいさん	きょうだい	その他	無回答
男性	86	26.7	18.6	19.8	16.3	55.8	4.7	7.0
女性	90	14.4	8.9	6.7	4.4	70.0	8.9	5.6

③ 性別×世話の内容

世話の内容については、女性では「家事」「買い物や散歩と一緒に行く」「話を聞く」「見守り」の割合が男性に比べ高くなっている。

図表－ 148 性別×世話の内容(複数回答)

(%)

	調査数(コ)	家事(食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいのお世話や送り迎え	お世話 入浴やトイレの	買い物や散歩と一緒に行く	病院へ一緒に行く	話を聞く	見守り	通訳(日本語や手話など)	お金の管理	薬の管理	その他	無回答
男性	86	19.8	18.6	19.8	10.5	3.5	11.6	31.4	3.5	0	1.2	8.1	31.4
女性	90	31.1	25.6	13.3	17.8	1.1	24.4	38.9	2.2	1.1	0	6.7	23.3

④ 性別×世話を一緒にしている人

世話を一緒にしている人については、女性では「自分のみ」の割合が男性に比べ高く、男性では「おばあさん」「おじいさん」の割合が女性に比べ高くなっている。

図表－ 149 性別×世話を一緒にしている人(複数回答)

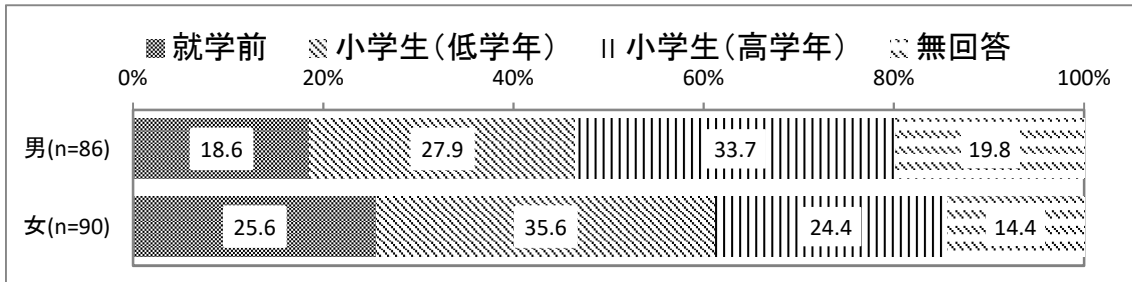
(%)

	調査数(コ)	おかあさん	お父さん	おばあさん	おじいさん	きょうだい	しんせきの人	自分のみ	福祉サービスを利用	その他	無回答
男性	86	62.8	50.0	23.3	12.8	33.7	7.0	9.3	1.2	0	17.4
女性	90	58.9	41.1	8.9	6.7	32.2	2.2	17.8	0	3.3	14.4

⑤ 性別×世話を始めた年齢

世話を始めた年齢については、女性では「就学前」「小学生（低学年）」の割合が男性に比べ高くなっている。

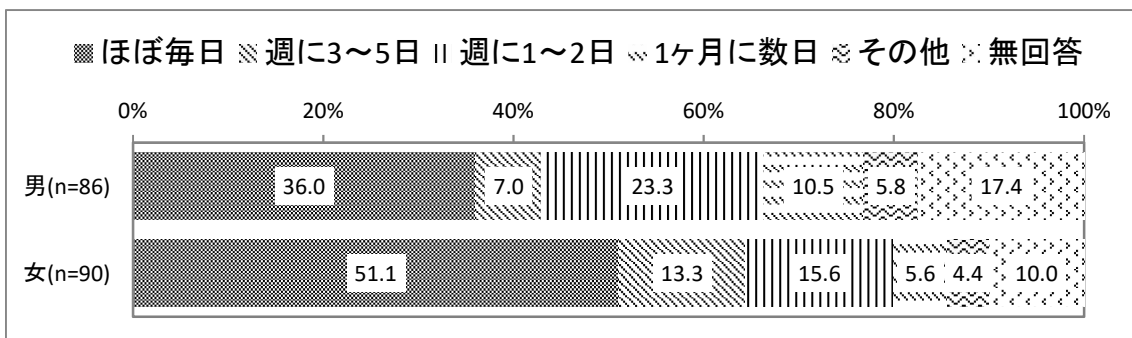
図表－ 150 性別×世話を始めた年齢



⑥ 性別×世話をしている頻度

世話をしている頻度については、女性では「ほぼ毎日」の割合が男性に比べ高くなっている。

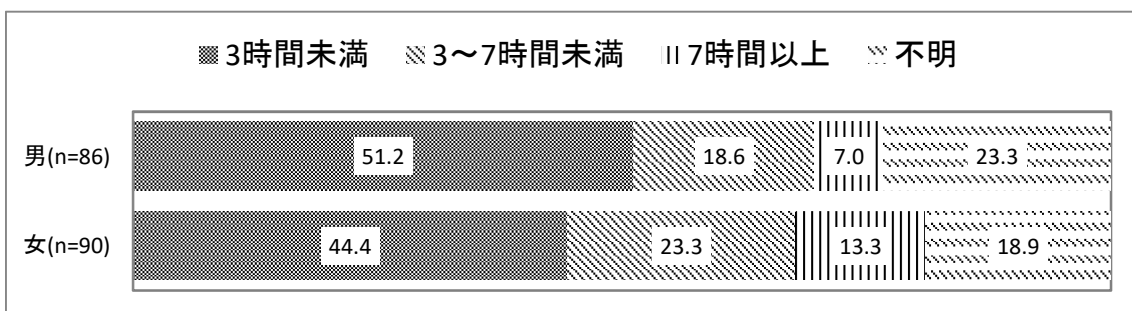
図表－ 151 性別×世話をしている頻度



⑦ 性別×平日1日あたりの世話に費やす時間

平日1日あたりの世話に費やす時間については、女性では「3～7時間未満」「7時間以上」の割合が男性に比べ高くなっている。

図表－ 152 性別×平日1日あたりの世話に費やす時間



⑧ 性別×世話による制約

世話による制約については、女性では「宿題など勉強する時間がない」「眠る時間がたりない」「友だちと遊ぶことができない」の割合が男性に比べ高くなっている。

図表－ 153 性別×世話による制約(複数回答)

(%)

	調査数(ニ)	まう 学校を休んでし まう	遅刻や早退をし てしまう	宿題など勉強す る時間がない	眠る時間がたり ない	友だちと遊ぶこ とができない	い 習い事ができな い	自分の時間がと れない	その他	特 にない	無 回 答
男性	86	3.5	1.2	5.8	3.5	5.8	3.5	9.3	0	67.4	12.8
女性	90	3.3	2.2	12.2	6.7	11.1	1.1	12.2	3.3	63.3	8.9

⑨ 性別×世話をすると感じているきつさ

世話をすると感じているきつさについては、女性の方が男性に比べ、大変さを感じる割合が高くなっている。

図表－ 154 性別×世話をすると感じているきつさ(複数回答)

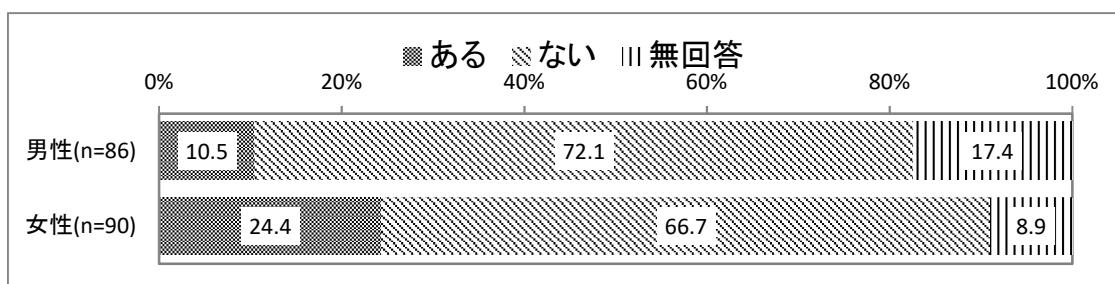
(%)

	調査数(ニ)	体力の面で大変	気持ちの面で大変	時間の余裕がない	特に大変さは 感じていない	無 回 答
男性	86	8.1	17.4	8.1	53.5	15.1
女性	90	15.6	26.7	21.1	53.3	8.9

⑩ 性別×世話について相談した経験

世話について相談した経験については、男性では「ある」の割合が女性に比べ低くなっている。

図表－ 155 性別×世話について相談した経験



⑪ 性別×世話についての相談相手

世話についての相談相手については、男性では「家族」「しんせき」の割合が女性に比べ高く、女性では「友だち」の割合が男性に比べ高くなっている。

図表－ 156 性別×世話についての相談相手(複数回答)

(%)

	調査数(=)	家族(お父さん、お母さん、おじいさん、おばあさん、きょうだい)	しんせき(おじ、おばなど)	友だち	学校の先生 (保健室の先生以外)	保健室の先生	スクールソーシャルワーカー やスクールカウンセラー	病院・医療・福祉サービスの 人	近所の人	SNS上での知り合い	その他	無回答
男性	9	88.9	22.2	11.1	11.1	0	11.1	11.1	0	0	11.1	0
女性	22	72.7	0	40.9	4.5	4.5	0	0	0	9.1	0	0

⑫ 性別×世話について相談したことがない理由

世話について相談したことがない理由については、女性では「家族のことを話たくないから」が男性に比べ高くなっている。

図表－ 157 性別×相談したことがない理由(複数回答)

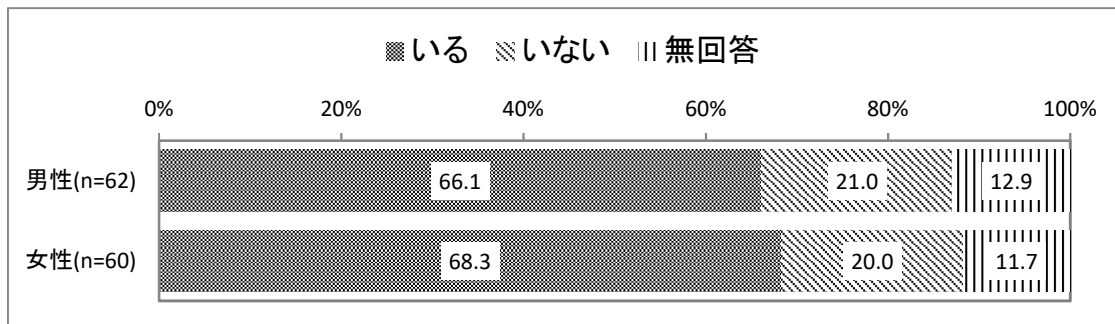
(%)

	調査数(=)	相談するほどの悩み ではないから	誰に相談するのがよ いかわからないから	相談できる人がいな いから	家族のことを話した くないから	相談しても何も変わ らないから	その他	無回答
男性	62	62.9	6.5	3.2	6.5	12.9	16.1	1.6
女性	60	66.7	6.7	5.0	13.3	16.7	15.0	1.7

⑬ 性別×世話について話を聞いてくれる人の有無

世話について話を聞いてくれる人の有無については、男女で大きな差はみられない。

図表－ 158 性別×世話について話を聞いてくれる人の有無



⑭ 性別×学校や大人にしてもらいたいこと

学校や大人にしてもらいたいことについては、女性では「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」「自由に使える時間がほしい」「勉強を教えてください」の割合が男性に比べ高く、男性では「お金の面で支援してほしい」の割合が女性に比べ高くなっている。

図表－ 159 性別×学校や大人にしてもらいたいこと（複数回答）

(%)

	調査数(Ⅱ)	自分のいまの状況について話を聞いてほしい	家族のお世話を相談に	家族の病気や障がい、お世話にことなどについてわかりやすく説明してほしい	家族の病気や障がい、お世話にことなどについてわかりやすく説明してほしい	自分が行っているお世話について誰かに代わってほしい	自分が行っているお世話について誰かに代わってほしい	自由に使える時間がほしい
男性	86	9.3	2.3	2.3	2.3	4.7	10.5	
女性	90	16.7	5.6	2.2	4.4	7.8	18.9	

	調査数(Ⅱ)	勉強を教えてください	お金の面で支援してほしい	その他	特にない	わからない	無回答
男性	86	4.7	7.0	0	48.8	10.5	19.8
女性	90	16.7	2.2	3.3	47.8	13.3	8.9

⑮ 性別×希望する相談方法

希望する相談方法については、女性では「SNS」「電子メール」の割合が男性に比べ高くなっている。

図表－ 160 性別×希望する相談方法（複数回答）

(%)

	調査数 (コ)	直接会 つて	電 話	S N S	電 子 メ ー ル	そ の 他	無 回 答
男性	8	75.0	25.0	0	0	0	0
女性	16	75.0	18.8	43.8	31.3	6.3	0

2.3.3 家族構成による世話の状況の違い

① 家族構成×世話を必要としている家族

世話を必要としている家族については、いずれの家族構成も「きょうだい」の割合が最も高いが、二世帯世帯では特に「きょうだい」の割合が高くなっており、三世帯世帯では「おばあさん」「おじいさん」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 161 家族構成×世話を必要としている家族(複数回答)
(%)

	調査数(n)	お母さん	お父さん	おばあさん	おじいさん	きょうだい	その他
二世帯世帯	104	21.2	17.3	6.7	7.7	78.8	3.8
三世帯世帯	43	30.2	11.6	32.6	20.9	46.5	7.0
ひとり親家庭	16	12.5	18.8	6.3	0	50.0	31.3
その他世帯	7	28.6	14.3	28.6	14.3	57.1	14.3

② 家族構成×世話の内容

世話の内容については、二世帯世帯では「きょうだいのお世話や送り迎え」の割合が他に比べ高くなっており、ひとり親家庭では「家事」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 162 家族構成×世話の内容(複数回答)

	調査数(n)	家事(食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいのお世話や送り迎え	入浴やトイレのお世話	行く買物や散歩と一緒に	病院へ一緒に行く	話を聞く	見守り	通訳(日本語や手話など)	お金の管理	薬の管理	その他	無回答
二世帯世帯	113	27.4	25.7	17.7	15.0	1.8	16.8	35.4	2.7	0.9	0	8.0	26.5
三世帯世帯	45	20.0	13.3	17.8	8.9	2.2	17.8	35.6	4.4	0	0	6.7	31.1
ひとり親家庭	17	35.3	11.8	5.9	23.5	5.9	17.6	35.3	0	0	5.9	5.9	29.4
その他世帯	7	28.6	14.3	14.3	28.6	0	42.9	28.6	0	0	0	0	28.6

③ 家族構成×世話を一緒にする人

世話を一緒にする人については、三世帯世帯では「おばあさん」「おじいさん」「きょうだい」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 163 家族構成×一緒に世話をする人(複数回答)

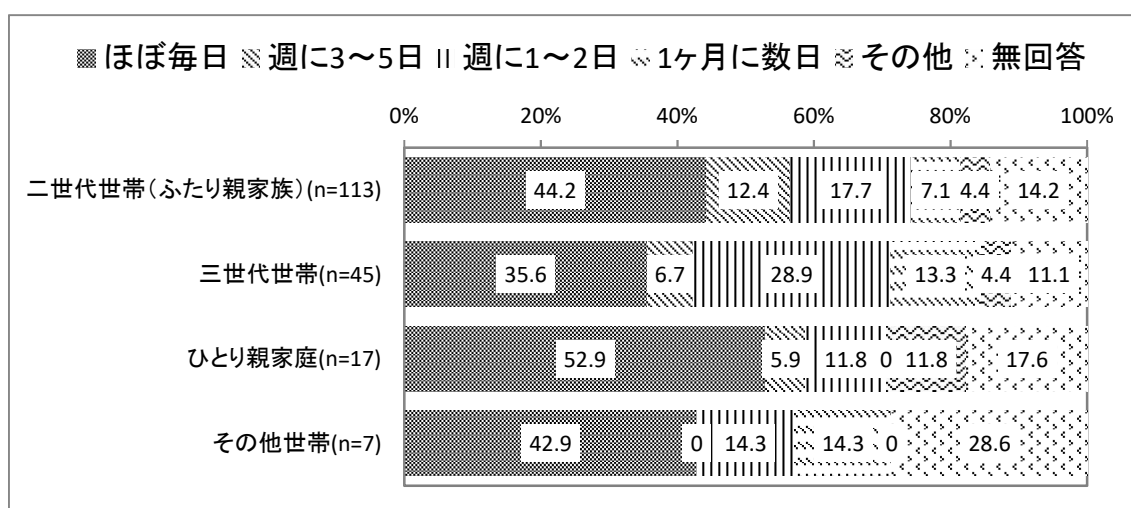
(%)

	調査数(Ⅱ)	おかあさん	お父さん	おばあさん	おじいさん	きょうだい	しんせきの人	自分のみ	福祉サービスを利用	その他	無回答
二世帯世帯	113	61.9	50.4	8.8	6.2	32.7	2.7	16.8	0.9	0.9	15.0
三世帯世帯	45	60.0	40.0	35.6	20.0	40.0	8.9	13.3	0	0	15.6
ひとり親家庭	17	52.9	23.5	5.9	5.9	29.4	0	0	0	5.9	17.6
その他世帯	7	28.6	28.6	28.6	14.3	14.3	14.3	14.3	0	0	42.9

④ 家族構成×世話をしている頻度

世話をしている頻度については、ひとり親家庭では「ほぼ毎日」の割合が他に比べ高くなっている。

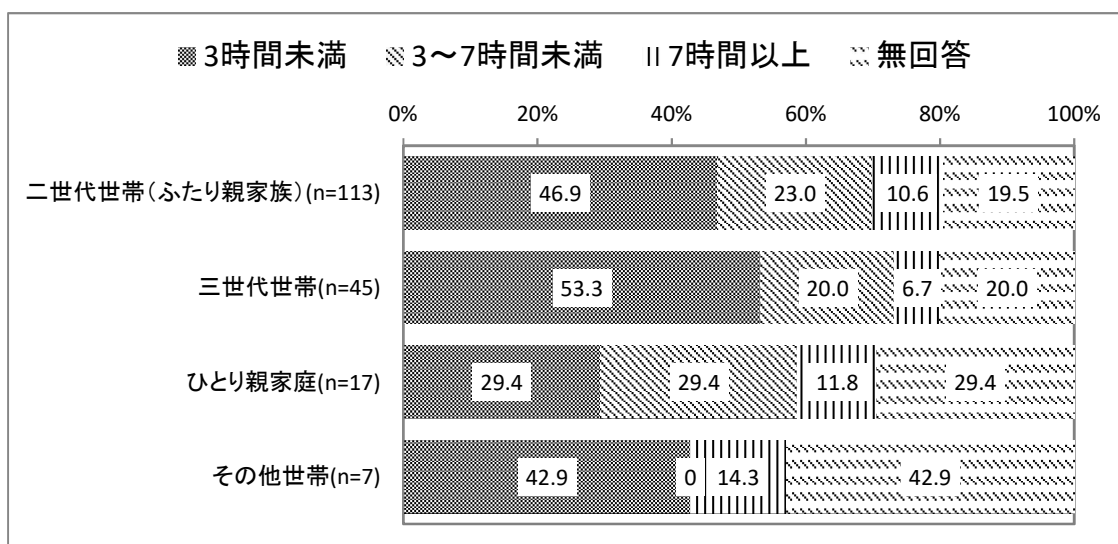
図表－ 164 家族構成×世話の頻度



⑤ 家族構成×世話に費やす時間

世話に費やす時間については、三世帯世帯では「3時間未満」の割合が他に比べ高くなっている。一方で、ひとり親家庭では「3時間以上」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 165 家族構成×世話に費やす時間



⑥ 家族構成×世話による制約

世話による制約については、三世帯世帯では「特にない」の割合が他に比べ高くなっている。また、ひとり親家庭では「宿題など勉強する時間がない」「眠る時間がたりない」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 166 家族構成×世話による制約(複数回答)

	調査数(ⅱ)	学校を休んでしまう	まう遅刻や早退をしてし	間がない宿題など勉強する時	眠る時間がたりない	友だちと遊ぶことができない	習い事ができない	自分の時間がとれない	その他	特にない	無回答
二世帯世帯	113	3.5	2.7	8.8	6.2	9.7	3.5	12.4	1.8	61.9	9.7
三世帯世帯	45	0	0	6.7	4.4	2.2	0	6.7	2.2	80.0	8.9
ひとり親家庭	17	5.9	0	23.5	11.8	11.8	5.9	11.8	0	47.1	17.6
その他世帯	7	14.3	0	0	0	0	0	0	0	57.1	28.6

⑦ 家族構成×世話をすることに感じているきつさ

世話をすることに感じているきつさについては、いずれも「特に大変さは感じていない」が最も高くなっているが、三世帯世帯では「体力の面で大変」、ひとり親家庭では「時間の余裕がない」の割合が他に比べ高くなっている。

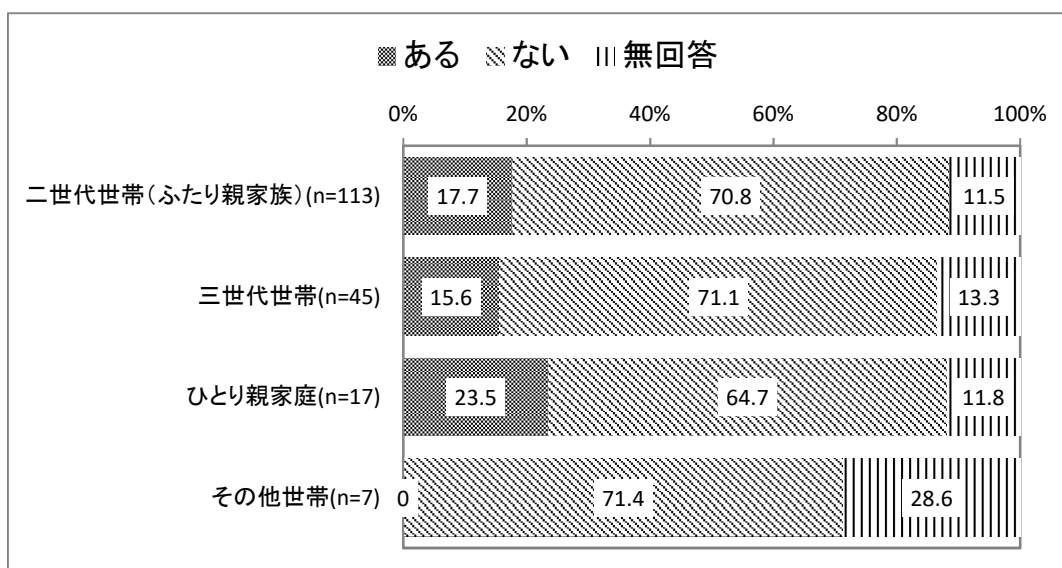
図表－ 167 家族構成×世話をすることに感じているきつさ(複数回答)
(%)

	調査数(ⅱ)	体力の面で大変	気持ちの面で大変	時間の余裕がない	特に大変さは感じていない	無回答
二世帯世帯	113	10.6	23.0	15.0	55.8	9.7
三世帯世帯	45	17.8	17.8	8.9	53.3	11.1
ひとり親家庭	17	5.9	23.5	29.4	47.1	17.6
その他世帯	7	14.3	14.3	0	42.9	28.6

⑧ 家族構成×世話について相談した経験

世話について相談した経験については、ひとり親家庭では「ある」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 168 家族構成×世話について相談した経験



⑨ 家族構成×世話についての相談相手

世話についての相談相手については、いずれも「家族」の割合が最も高く、次いで「友だち」の割合が高くなっている。

図表－ 169 家族構成×世話についての相談相手(複数回答)

(%)

	調査数(n)	家族(お父さん、お母さん、おじいさん、おばあさん、きょうだい)	しんせき(おじ、おばなど)	友だち	学校の先生 (保健室の先生以外)	保健室の先生	スクールソーシャルワーカー やスクールカウンセラー	病院・医療・福祉サービスの 人	近所の人	SNS上での知り合い	その他	無回答
二世帯世帯	20	70.0	5.0	25.0	5.0	0	5.0	5.0	0	10.0	5.0	0
三世帯世帯	7	85.7	14.3	42.9	14.3	0	14.3	0	0	14.3	0	0
ひとり親家庭	4	75.0	0	25.0	25.0	0	0	0	0	0	0	0

⑩ 家族構成×世話について相談したことがない理由

世話について相談したことがない理由については、いずれも「相談するほどの悩みではないから」の割合が最も高くなっている。また、ひとり親家庭では「誰に相談するのがよいかわからないから」「相談できる人がいないから」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 170 家族構成×世話について相談したことがない理由(複数回答)

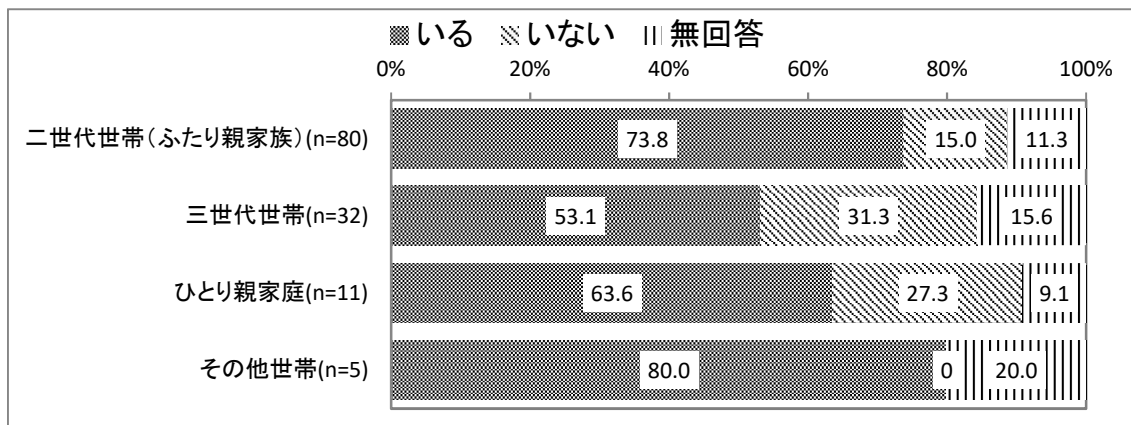
(%)

	調査数(n)	相談するほどの悩み ではないから	誰に相談するのがよ いかわからないから	相談できる人がいな いから	家族のことを話した くないから	相談しても何も変わ らないから	その他	無回答
二世帯世帯	80	66.3	7.5	5.0	11.3	13.8	16.3	1.3
三世帯世帯	32	62.5	3.1	0	9.4	21.9	12.5	3.1
ひとり親家庭	11	63.6	9.1	9.1	9.1	9.1	18.2	0
その他世帯	5	60.0	0	0	20.0	0	20.0	0

⑪ 家族構成×世話について話を聞いてくれる人の有無

世話について話を聞いてくれる人については、三世代世帯とひとり親家庭では「いない」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 171 家族構成×世話について話を聞いてくれる人の有無



⑫ 家族構成×学校や大人にしてもらいたいこと

学校や大人にしてもらいたいことについては、ひとり親家庭では「自分が行っている世話の一部を誰かに代わってほしい」「勉強を教えてほしい」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 172 家族構成×学校や大人にしてもらいたいこと（複数回答）

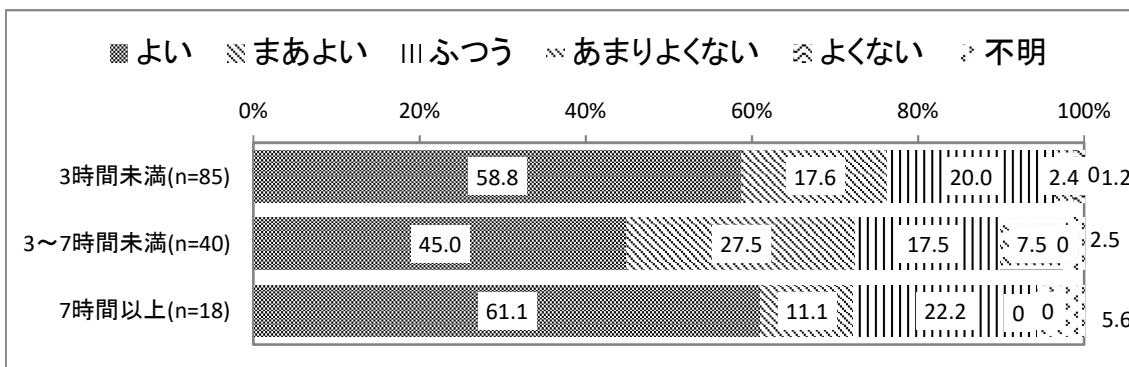
	調査数(人)	自分のいまの状況について話を聞いてほしい	家族のお世話について相談ののってほしい	家族の病気や障がい、お世話のことなどについてわかりやすく説明してほしい	自分が行っているお世話のすべてを誰かに代わってほしい	自分が行っているお世話の一部を誰かに代わってほしい	自由に使える時間がほしい	勉強を教えてほしい	お金の面で支援してほしい	その他	特にない	わからない	無回答
二世帯世帯	113	13.3	2.7	1.8	3.5	7.1	17.7	9.7	7.1	1.8	42.5	15.9	11.5
三世代世帯	45	17.8	6.7	4.4	4.4	2.2	6.7	8.9	2.2	2.2	60.0	2.2	17.8
ひとり親家庭	17	5.9	5.9	0	5.9	11.8	23.5	23.5	5.9	0	52.9	11.8	5.9
その他世帯	7	14.3	0	14.3	0	0	14.3	14.3	0	0	28.6	0	42.9

2.3.4 平日1日あたりの世話に費やす時間による生活状況等

① 平日1日あたりの世話に費やす時間×健康状態

健康状態については、平日1日あたりの世話に費やす時間が3～7時間未満の場合、「あまりよくない」の割合が他に比べ高くなっている。

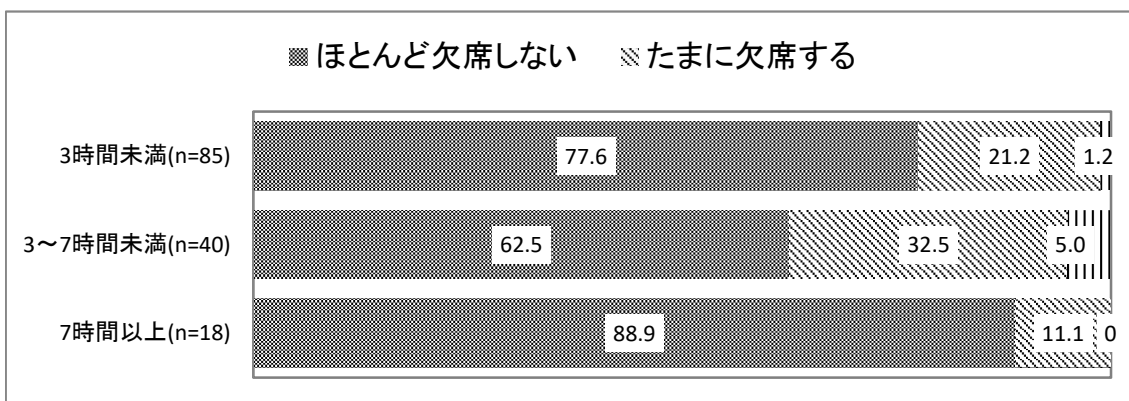
図表－ 173 平日1日あたりの世話に費やす時間×健康状態



② 平日1日あたりの世話に費やす時間×欠席の状況

欠席の状況については、平日1日あたりの世話に費やす時間が3～7時間未満の場合、「たまに欠席する」「よく欠席する」の割合が他に比べ高くなっている。

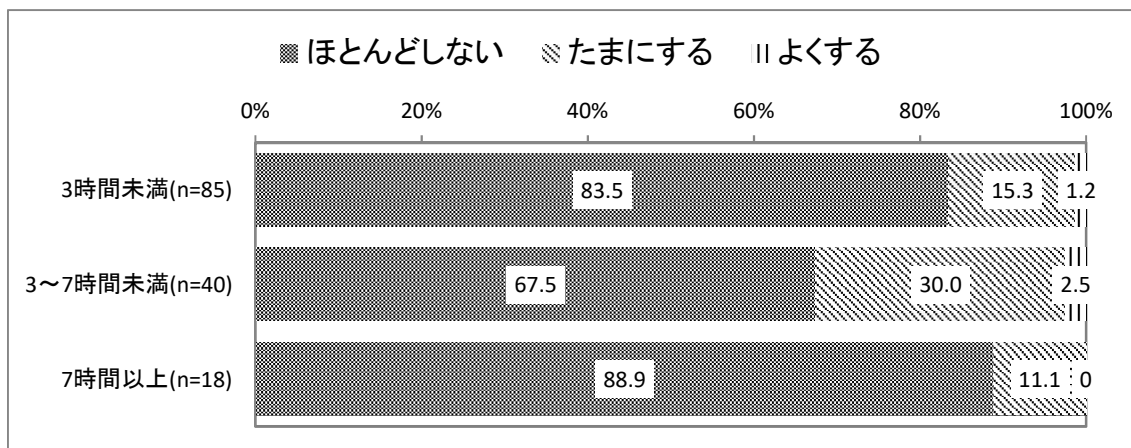
図表－ 174 平日1日あたりの世話に費やす時間×欠席の状況



③ 平日1日あたりの世話に費やす時間×遅刻や早退の状況

遅刻や早退の状況については、平日1日あたりの世話に費やす時間が3～7時間未満の場合、「たまにする」「よくする」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 175 平日1日あたりの世話に費やす時間×遅刻や早退の状況



④ 平日1日あたりの世話に費やす時間×学校生活等であてはまること

学校生活等であてはまることについては、平日1日あたりの世話に費やす時間が3～7時間未満の場合、「特にない」の割合が他に比べ低く、「授業中に寝てしまうことが多い」「持ち物の忘れ物が多い」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 176 平日1日あたりの世話に費やす時間×学校生活等であてはまること(複数回答)

(%)

	調査数(Ⅱ)	授業中に寝てしまうことが多い	宿題ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	習い事を休むことが多い	提出物を出すのが遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校では一人で過ごすことが多い	友達と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特にない	無回答
3時間未満	85	4.7	12.9	27.1	1.2	20.0	1.2	0	3.5	8.2	63.5	1.2
3～7時間未満	40	10.0	17.5	45.0	7.5	25.0	0	7.5	5.0	7.5	27.5	2.5
7時間以上	18	5.6	5.6	27.8	0	22.2	0	5.6	5.6	0	66.7	5.6

⑤ 平日1日あたりの世話に費やす時間×現在の悩みごと

現在の悩みごとについては、平日1日あたりの世話に費やす時間が3時間以上の場合、「家族のこと」の割合が3時間未満に比べ高くなっている。

図表－ 177 平日1日あたりの世話に費やす時間×現在の悩みごと(複数回答)

(%)

	調査数(ⅱ)	友達のこと	学校の成績のこと	習い事のこと	家族のこと	生活や勉強に必要な お金のこと	自分のために使える時 間が少ないこと	その他	特にな い	無回 答
3時間未満	85	14.1	18.8	5.9	11.8	11.8	8.2	9.4	60.0	0
3～7時間未満	40	12.5	17.5	10.0	17.5	7.5	10.0	7.5	55.0	2.5
7時間以上	18	11.1	16.7	0	22.2	0	11.1	11.1	66.7	0

⑥ 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話をすることに感じているきつさ

世話をすることに感じているきつさについては、平日1日あたりの世話に費やす時間が3時間以上の場合、3時間未満に比べ「気持ちの面で大変」の割合が高く、3～7時間未満では加えて「体力の面で大変」「時間の余裕がない」の割合も高くなっている。

図表－ 178 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話をすることに感じているきつさ
(複数回答)

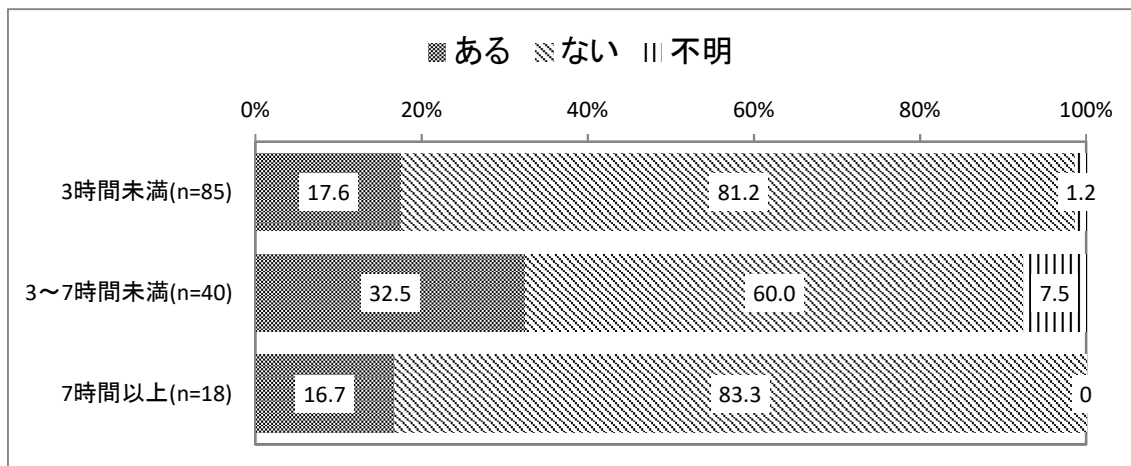
(%)

	調査数(ⅱ)	体力の面で 大変	気持ちの面で 大変	時間の 余裕がない	特に大変さを 感じていない	無回 答
3時間未満	85	12.9	20.0	12.9	63.5	2.4
3～7時間未満	40	17.5	27.5	27.5	47.5	0
7時間以上	18	11.1	27.8	11.1	72.2	0

⑦ 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話について相談した経験

世話について相談した経験については、平日1日あたりの世話に費やす時間が3～7時間未満の場合、「ある」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 179 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話について相談した経験



⑧ 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話についての相談相手

世話についての相談相手については、平日1日あたりの世話に費やす時間が3～7時間未満の場合、「学校の先生（保健室の先生以外）」に相談している割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 180 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話についての相談相手(複数回答)

	調査数(二)	家族(お父さん、お母さん、おじいさん、おばあさん、きょうだい)	しんせき(おじ、おばなど)	友だち	学校の先生(保健室の先生以外)	保健室の先生	スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー	病院・医療・福祉サービスの人	近所の人	SNS上での知り合い	その他	無回答
3時間未満	15	80.0	6.7	33.3	6.7	0	6.7	0	0	6.7	6.7	0
3～7時間未満	13	69.2	7.7	30.8	15.4	0	7.7	7.7	0	7.7	0	0
7時間以上	3	66.7	0	0	0	0	0	0	0	33.3	0	0

⑨ 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話について相談したことがない理由

世話について相談したことがない理由については、平日1日あたりの世話に費やす時間が3～7時間未満の場合、「相談するほどの悩みではないから」「家族のことを話したくないから」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 181 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話について相談したことがない理由
(複数回答)

(%)

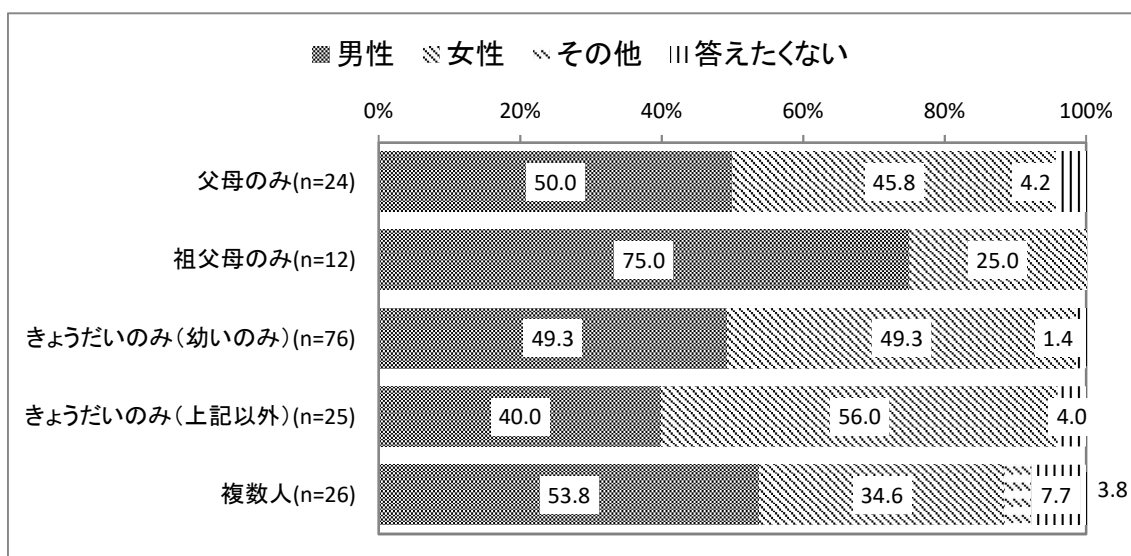
	調査数(二)	相談するほどの悩みではないから	誰に相談するのがよいかわからないから	相談できる人がいないから	家族のことを話したくないから	相談しても何も変わらないから	その他	無回答
3時間未満	69	65.2	7.2	1.4	7.2	13.0	17.4	0
3～7時間未満	24	83.3	8.3	4.2	12.5	25.0	8.3	0
7時間以上	15	46.7	0	0	6.7	20.0	26.7	6.7

2.3.5世話を必要としている家族による世話の状況

① 世話を必要としている家族×回答者の性別

回答者の性別については、世話を必要としている家族が「祖父母のみ」「複数人」の場合、「男性」の割合が高く、「きょうだい（上記以外）」の場合、「女性」の割合が高くなっている。

図表－ 182 世話を必要としている家族×回答者の性別



② 世話を必要としている家族×世話の内容

世話の内容については、世話を必要としている家族が「父母のみ」「複数人」の場合、「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」の割合が他に比べ高くなっている。また、「きょうだいのみ（幼い）」の場合、「きょうだいのお世話や送り迎え」「見守り」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 183 世話を必要としている家族×世話の内容(複数回答)

(%)

	調査数(ニ)	家事(食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいのお世話や送り迎え	お世話 入浴やトイレの	一緒に 買物や散歩に一 緒に行く	病 院へ一 緒に行 く	話を聞 く	見守 り	通 訊(日 本語 や 手話 など)	お 金 の 管 理	薬 の 管 理	そ の 他
父母のみ	21	61.9	9.5	4.8	33.3	4.8	9.5	19.0	14.3	4.8	0	9.5
祖父母のみ	7	28.6	0	14.3	0	0	57.1	42.9	0	0	0	14.3
きょうだいのみ(幼い)	60	26.7	45.0	33.3	16.7	1.7	26.7	61.7	1.7	0	0	3.3
きょうだいのみ(上記以外)	20	30.0	30.0	25.0	5.0	5.0	20.0	45.0	5.0	0	0	10.0
複数人	17	64.7	23.5	11.8	35.3	0	29.4	35.3	0	0	0	29.4

③ 世話を必要としている家族×一緒に世話をする人

一緒に世話をする人については、世話を必要としている家族が「父母のみ」「複数人」の場合、世話を「きょうだい」としている割合が他に比べ高くなっている。また、「きょうだいのみ（幼い）」の場合、世話を「おかあさん」としている割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 184 世話を必要としている家族×一緒に世話をする人(複数回答)

(%)

	調査数(ニ)	おかあさん	お父さん	おばあさん	おじいさん	きょうだい	しんせきの人	自分のみ	福祉サービスを利用	その他
父母のみ	22	50.0	45.5	9.1	4.5	45.5	9.1	9.1	0	0
祖父母のみ	11	63.6	27.3	18.2	0	36.4	18.2	9.1	0	0
きょうだいのみ(幼い)	69	79.7	68.1	17.4	11.6	33.3	2.9	13.0	1.4	1.4
きょうだいのみ(上記以外)	24	75.0	50.0	12.5	8.3	37.5	0	20.8	0	0
複数人	20	70.0	40.0	45.0	30.0	65.0	5.0	30.0	0	5.0

④ 世話を必要としている家族×世話を始めた年齢

世話を始めた年齢については、世話を必要としている家族が「きょうだいのみ」の場合、「就学前」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 185 世話を必要としている家族×世話を始めた年齢

(%)

	調査数(Ⅱ)	就学前	小学生(低学年)	小学生(高学年)
父母のみ	26	22.7	31.8	45.5
祖父母のみ	12	8.3	41.7	50.0
きょうだいのみ(幼い)	66	31.8	40.9	27.3
きょうだいのみ(上記以外)	24	33.3	37.5	29.2
複数人	19	15.8	42.1	42.1

⑤ 世話を必要としている家族×世話をしている頻度

世話をしている頻度については、世話を必要としている家族が「きょうだいのみ(幼い)」の場合、「ほぼ毎日」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 186 世話を必要としている家族×世話をしている頻度

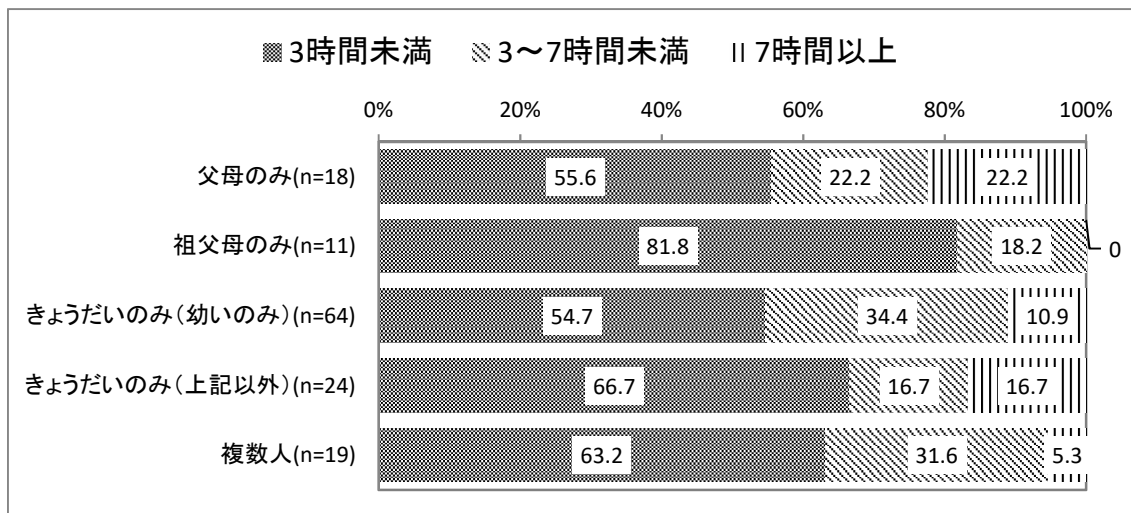
(%)

	調査数(Ⅱ)	ほぼ毎日	週に3～5日	週に1～2日	1ヶ月に数日	その他
父母のみ	22	27.3	9.1	31.8	18.2	13.6
祖父母のみ	11	45.5	0	36.4	9.1	9.1
きょうだいのみ(幼い)	71	69.0	12.7	15.5	2.8	0
きょうだいのみ(上記以外)	25	44.0	20.0	28.0	4.0	4.0
複数人	20	25.0	10.0	25.0	25.0	15.0

⑥ 世話を必要としている家族×世話に費やす時間

世話を必要としている家族が「父母のみ」の場合、世話に費やす時間が「7時間以上」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 187 世話を必要としている家族×世話に費やす時間



⑦ 世話を必要としている家族×世話による制約

世話による制約については、世話を必要としている家族が「きょうだいのみ（上記以外）」の場合、「自分の時間がとれない」の割合が他に比べ高くなっている。また、「複数人」の場合、「学校を休んでしまう」「眠る時間がたりない」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 188 世話を必要としている家族×世話による制約(複数回答)

	調査数(=)	学校を休んでしまう	遅刻や早退をしま まう	宿題など勉強する時 間がない	眠る時間がたりない	友だちと遊ぶことが できない	習い事ができない	自分の時間がとれな い	その他	特にな い
父母のみ	23	4.3	0	4.3	4.3	8.7	0	4.3	0	87.0
祖父母のみ	12	0	0	0	0	0	0	0	8.3	91.7
きょうだいのみ(幼い)	73	4.1	2.7	11.0	2.7	13.7	0	13.7	1.4	69.9
きょうだいのみ(上記以外)	25	4.0	0	12.0	8.0	8.0	4.0	20.0	0	72.0
複数人	22	9.1	4.5	18.2	22.7	9.1	13.6	18.2	4.5	54.5

⑧ 世話を必要としている家族×世話をすることに感じているきつさ

世話をすることに感じているきつさについては、世話を必要としている家族が「祖父母のみ」の場合、「気持ちの面で大変」の割合が他に比べ高くなっている。また、「きょうだいのみ」の場合、「時間の余裕がない」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 189 世話を必要としている家族×世話をすることに感じているきつさ(複数回答)
(%)

	調査数 (Ⅱ)	体力の面で 大変	気持ちの面 で大変	時間の余裕 がない	特に大変さは 感じていない
父母のみ	23	4.3	21.7	8.7	69.6
祖父母のみ	12	0	33.3	0	66.7
きょうだいのみ(幼い)	72	18.1	27.8	20.8	55.6
きょうだいのみ(上記以外)	25	12.0	20.0	20.0	64.0
複数人	22	22.7	22.7	18.2	54.5

⑨ 世話を必要としている家族×世話について相談した経験

世話について相談した経験については、世話を必要としている家族が「父母のみ」の場合、「ない」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 190 世話を必要としている家族×世話について相談した経験
(%)

	調査数 (Ⅱ)	ある	ない
父母のみ	22	4.5	95.5
祖父母のみ	12	16.7	83.3
きょうだいのみ(幼い)	70	27.1	72.9
きょうだいのみ(上記以外)	25	20.0	80.0
複数人	22	18.2	81.8

⑩ 世話を必要としている家族×世話について相談したことがない理由

世話について相談したことがない理由については、世話を必要としている家族がいずれの場合も「相談するほどの悩みではないから」の割合が最も高くなっている。また、「複数人」の場合、「家族のことを話したくないから」「相談しても何も変わらないから」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 191 世話を必要としている家族×世話について相談したことがない理由(複数回答)
(%)

	調査数(Ⅱ)	相談するほどの悩みではないから	誰に相談するのがよいかわからないから	相談できる人がいないから	家族のことを話したくないから	相談しても何も変わらないから	その他
父母のみ	21	61.9	14.3	9.5	14.3	9.5	14.3
祖父母のみ	10	80.0	10.0	0	0	10.0	10.0
きょうだいのみ(幼い)	49	71.4	4.1	4.1	6.1	16.3	16.3
きょうだいのみ(上記以外)	20	55.0	5.0	0	10.0	5.0	25.0
複数人	18	61.1	5.6	5.6	27.8	22.2	11.1

⑪ 世話を必要としている家族×世話について話を聞いてくれる人の有無

世話について話を聞いてくれる人の有無については、世話を必要としている家族が「父母のみ」の場合、「いない」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 192 世話を必要としている家族×世話について話を聞いてくれる人の有無
(%)

	調査数(Ⅱ)	いる	いない
父母のみ	19	68.4	31.6
祖父母のみ	8	75.0	25.0
きょうだいのみ(幼い)	43	81.4	18.6
きょうだいのみ(上記以外)	17	88.2	11.8
複数人	18	77.8	22.2

⑫ 世話を必要としている家族×学校や大人にしてもらいたいこと

学校や大人にしてもらいたいことについては、世話を必要としている家族が「父母のみ」の場合、「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」の割合が他に比べ低く、「きょうだいのみ（幼い）」の場合、「勉強を教えてほしい」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 193 世話を必要としている家族×学校や大人にしてもらいたいこと（複数回答）

(%)

	調査数(≡)	自分のいまの状況について話を聞いてほしい	家族のお世話について相談ののってほしい	家族の病気や障がい、お世話にことなどについてわかりやすく説明してほしい	自分が行っているお世話のすべてを誰かに代わってほしい	自分が行っているお世話の一部を誰かに代わってほしい	自由に使える時間がほしい	勉強を教えてほしい	お金の面で支援してほしい	その他	特にない	わからない
父母のみ	21	9.5	0	0	0	4.8	9.5	4.8	4.8	0	76.2	9.5
祖父母のみ	11	18.2	9.1	0	0	0	9.1	0	9.1	0	72.7	9.1
きょうだいのみ（幼い）	72	19.4	5.6	2.8	6.9	8.3	16.7	16.7	5.6	2.8	52.8	11.1
きょうだいのみ（上記以外）	22	13.6	4.5	9.1	4.5	13.6	22.7	9.1	0	4.5	40.9	22.7
複数人	23	17.4	4.3	4.3	4.3	0	21.7	13.0	13.0	0	47.8	26.1

2.3.6世話をすることに感じているきつさによる世話の状況の違い

① 世話をすることに感じているきつさ×世話の対象の状況

世話の対象の状況については、世話の対象が祖父母の場合、世話をすることに感じているきつさが「気持ちの面で大変」なのは「高齢（65歳以上）」「介護が必要」の割合が高くなっており、世話の対象がきょうだいの場合、いずれの回答でも「幼い」の割合が最も高くなっている。

図表－ 194 世話をすることに感じているきつさ×世話の対象の状況（父母）（複数回答）

(%)

	調査数(Ⅱ)	高齢 (65歳以上)	介護が必要	認知症	身体障がい	知的障がい	※疑いを含む こころの病気	※疑いを含む 依存症	精神疾患・依存症 以外の病気	日本語が苦手	その他	わからない	無回答
体力の面で大変	5	0	20.0	0	0	0	0	0	0	0	0	80.0	0
気持ちの面で大変	9	0	0	0	0	0	11.1	0	11.1	0	11.1	33.3	44.4
時間の余裕がない	5	20.0	0	0	0	0	0	0	0	0	20.0	60.0	20.0
特に大変さは感じていない	25	4.0	0	0	0	0	0	0	4.0	8.0	28.0	48.0	12.0

図表－ 195 世話をすることに感じているきつさ×世話の対象の状況(祖父母)（複数回答）

(%)

	調査数(Ⅲ)	高齢 (65歳以上)	介護が必要	認知症	身体障がい	知的障がい	※疑いを含む こころの病気	※疑いを含む 依存症	精神疾患・依存症 以外の病気	日本語が苦手	その他	わからない	無回答
体力の面で大変	4	25.0	0	25.0	0	0	0	25.0	0	0	0	25.0	50.0
気持ちの面で大変	7	57.1	42.9	28.6	14.3	0	0	14.3	14.3	0	0	14.3	14.3
時間の余裕がない	2	50.0	0	50.0	0	0	0	50.0	0	0	0	50.0	0
特に大変さは感じていない	15	46.7	6.7	0	26.7	0	0	0	0	0	13.3	33.3	0

図表－ 196 世話をすることに感じているきつさ×世話の対象の状況(きょうだい)
(複数回答)

(%)

	調査数(二)	幼い	介護が必要	身体障がい	知的障がい	病気	日本語が苦手	その他	わからない	無回答
体力の面で大変	14	85.7	7.1	0	0	0	0	14.3	7.1	0
気持ちの面で大変	23	82.6	8.7	4.3	0	0	8.7	13.0	4.3	0
時間の余裕がない	19	73.7	10.5	0	0	0	5.3	10.5	15.8	0
特に大変さは感じていない	56	69.6	3.6	3.6	5.4	1.8	1.8	17.9	7.1	1.8

② 世話をすることに感じているきつさ×世話の内容

世話の内容については、世話をすることに感じているきつさがいずれの場合も「見守り」の割合が最も高いが、「時間の余裕がない」と回答した場合、「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 197 世話をすることに感じているきつさ×世話の内容(複数回答)

(%)

	調査数(二)	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	きょうだいのお世話や送り迎え	入浴やトイレのお世話	＜買物や散歩と一緒に行動＞	病院へ一緒に行く	話を聞く	見守り	通訳（日本語や手話など）	お金の管理	薬の管理	その他	無回答
体力の面で大変	22	27.3	40.9	22.7	13.6	0	18.2	50.0	0	0	0	4.5	27.3
気持ちの面で大変	40	32.5	35.0	20.0	17.5	2.5	25.0	42.5	2.5	0	2.5	10.0	22.5
時間の余裕がない	27	40.7	29.6	11.1	25.9	0	33.3	44.4	3.7	0	0	7.4	14.8
特に大変さは感じていない	98	29.6	18.4	16.3	16.3	3.1	20.4	36.7	4.1	1.0	0	7.1	18.4

③ 世話をすることに感じているきつさ×世話による制約

世話による制約については、世話をすることに感じているきつさが「時間の余裕がない」と回答した場合、「宿題など勉強をする時間がない」「友だちと遊ぶことができない」「自分の時間がとれない」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 198 世話をすることに感じているきつさ×世話による制約(複数回答)

(%)

	調査数(Ⅱ)	学校を休んでしまう	遅刻や早退をしよう	宿題など勉強する時間がない	眠る時間がたりない	友だちと遊ぶことができない	習い事ができない	自分の時間がとれない	その他	特にない	無回答
体力の面で大変	22	9.1	9.1	13.6	22.7	18.2	4.5	27.3	9.1	45.5	4.5
気持ちの面で大変	40	7.5	5.0	17.5	15.0	22.5	7.5	32.5	7.5	40.0	0
時間の余裕がない	27	3.7	3.7	40.7	25.9	37.0	3.7	44.4	3.7	25.9	0
特に大変さは感じていない	98	2.0	0	4.1	2.0	5.1	2.0	3.1	0	89.8	0

④ 世話をすることに感じているきつさ×世話について相談した経験

世話についての相談経験については、世話をすることに感じているきつさが「気持ちの面で大変」と回答した場合、「ある」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 199 世話をすることに感じているきつさ×世話について相談した経験

(%)

	調査数(Ⅱ)	ある	ない	無回答
体力の面で大変	22	31.8	68.2	0
気持ちの面で大変	40	40.0	55.0	5.0
時間の余裕がない	27	29.6	66.7	3.7
特に大変さは感じていない	98	11.2	86.7	2.0

⑤ 世話をすることに感じているきつさ×世話について相談をしたことがない理由

世話について相談したことがない理由については、世話をすることに感じているきつさが「気持ちの面で大変」「時間の余裕がない」と回答した場合、「家族のことを話したくないから」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 200 世話をすることに感じているきつさ×相談したことがない理由(複数回答)
(%)

	調査数(ⅱ)	相談するほどの悩みではないから	誰に相談するのがよいかわからないから	相談できる人がいないから	家族のことを話したくないから	相談しても何も変わらないから	その他	無回答
体力の面で大変	15	60.0	13.3	6.7	20.0	46.7	6.7	0
気持ちの面で大変	22	54.5	18.2	13.6	36.4	27.3	9.1	0
時間の余裕がない	18	50.0	11.1	11.1	33.3	33.3	5.6	0
特に大変さは感じていない	85	67.1	3.5	2.4	4.7	9.4	20.0	2.4

⑥ 世話をすることに感じているきつさ×世話について話を聞いてくれる人の有無

世話について話を聞いてくれる人の有無については、世話をすることに感じているきつさが「体力の面で大変」と回答した場合、「いない」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 201 世話をすることに感じているきつさ×世話について聞いてくれる人の有無
(%)

	調査数(ⅱ)	いる	いない	無回答
体力の面で大変	15	40.0	46.7	13.3
気持ちの面で大変	22	59.1	31.8	9.1
時間の余裕がない	18	66.7	22.2	11.1
特に大変さは感じていない	85	71.8	15.3	12.9

⑦ 世話をすることに感じているきつさ×学校や大人にしてもらいたいこと

学校や大人にしてもらいたいことについては、世話をすることに感じているきつさが「体力の面で大変」と回答した場合、「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」「家族の病気や障がい、お世話のことなどについてわかりやすく説明してほしい」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 202 世話をすることに感じているきつさ×学校や大人にしてもらいたいこと
(複数回答)

	調査数(Ⅱ)	自分のいまの状況について話を聞いてほしい	家族のお世話について相談にのってほしい	家族の病気や障がい、お世話のことなどについてわかりやすく説明してほしい	自分が行っているお世話をすべてを誰かに代わってほしい	自分が行っているお世話の一部を誰かに代わってほしい	自由に使える時間がほしい	勉強を教えてほしい	お金の面で支援してほしい	その他	特にない	わからない	無回答
体力の面で大変	22	40.9	18.2	13.6	13.6	18.2	27.3	27.3	13.6	9.1	27.3	18.2	0
気持ちの面で大変	40	30.0	15.0	5.0	7.5	17.5	25.0	20.0	12.5	5.0	30.0	15.0	12.5
時間の余裕がない	27	14.8	11.1	3.7	11.1	11.1	33.3	22.2	7.4	7.4	29.6	33.3	7.4
特に大変さは感じていない	98	9.2	0	1.0	2.0	3.1	12.2	8.2	5.1	0	65.3	10.2	2.0

⑧ 世話をすることに感じているきつさ×希望する相談方法

希望する相談方法については、世話をすることに感じているきつさが「時間の余裕がない」と回答した場合、「電話」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－ 203 世話をすることに感じているきつさ×希望する相談方法 (複数回答)

	調査数(Ⅱ)	直接会って	電話	SNS	電子メール	その他	無回答
体力の面で大変	9	66.7	11.1	55.6	44.4	0	0
気持ちの面で大変	13	69.2	23.1	46.2	30.8	0	0
時間の余裕がない	5	80.0	40.0	60.0	40.0	0	0
特に大変さは感じていない	9	66.7	22.2	22.2	11.1	11.1	11.1

2.3.7世話に関しての相談の状況

① 世話について相談した経験×世話による制約

世話による制約については、世話について相談した経験が「ある」場合、「ない」場合に比べ、全体として回答の割合が高くなっている。

図表－ 204 世話について相談した経験×世話による制約（複数回答）

(%)

		調査数(Ⅱ)	う 学校を休んでしま う	遅 刻や早退をして しま う	宿 題など勉強する 時 間 が な い	眠 る 時 間 が た り な い	友 だ ち と 遊 ぶ こ と が で き な い	習 い 事 が で き な い	自 分 の 時 間 が と れ な い	そ の 他	特 に な い	不 明
世話について 相談した経験	ある	32	9.4	6.3	25.0	18.8	18.8	3.1	25.0	9.4	40.6	0
	ない	128	2.3	0.8	7.0	3.9	7.0	3.1	9.4	0	78.1	2.3

3 中学校・中等教育学校・高等学校におけるヤングケアラーへの 対応に関するアンケート調査

3.1 中学校・中等教育学校・高等学校アンケート調査の実施概要

3.1.1 調査目的

茨城県内の中学校・中等教育学校・高等学校を対象に、ヤングケアラーへの対応を把握するためにアンケート調査を実施した。

3.1.2 実施時期

令和4年4月～7月

3.1.3 調査方法

茨城県内の中学校・中等教育学校、高等学校に対し、メールにて調査回答フォームのURLを配布。Web上で回答、回収を実施。

3.1.4 回答状況

図表－ 205 回答状況

調査対象区分	調査対象数	有効回答数	回答率
中学校	239	166	69.5%
中等教育学校	6	4	66.7%
高等学校	125	92	73.6%

3.2 学校調査の結果

3.2.1 学校の概要

① 回答者の役職

回答者の役職は、中学校においては「生徒指導主事」の割合が38.0%と最も高く、全日制高校、複数課程併設高校については「主幹・主任教諭」が最も高く、定時制高校、通信制高校については「副校長・教頭」が最も高くなっている。

図表－ 206 回答者の役職

(%)

	調査数 (n)	校長	副校長・ 教頭	主幹・ 主任教諭	養護教諭	S S W ・ S C	生徒指導 主事	その他 (教諭 等)	無回答
中学校	166	0	34.9	18.7	0	0	38.0	8.4	0
中等教育学校	4	0	25.0	25.0	25.0	0	0	25.0	0
全日制高校	75	0	22.7	29.3	14.7	0	17.3	16.0	0
定時制高校	7	14.3	42.9	14.3	0	0	14.3	14.3	0
通信制高校	5	0	80.0	0	0	0	0	20.0	0
複数課程併設高校	5	0	20.0	60.0	0	0	0	20.0	0

※「全日制・定時制併設高校」「定時制・通信制併設高校」等については回答数が少ないため「複数課程併設高校」としてまとめている。以降、同様。

3.2.2 支援が必要だと思われる子どもへの対応

① S S W、S Cの配置・派遣状況

S S W（スクールソーシャルワーカー）の配置・派遣状況については、中学校、高等学校ともに「要請に応じて派遣される」の割合が最も高くなっている。

また、S C（スクールカウンセラー）については、中学校については「月に数回以下で派遣・配置されている」が59.6%で最も高く、中等教育学校、高等学校については「週に1回程度派遣・配置されている」が最も高くなっている。

図表－ 207 S S Wの配置・派遣状況

(%)

	調査数 (n)	週に2～3回 以上派遣・配置 されている	週に1回 程度派遣・配置 されている	以下で派遣・配置 されている	月に数回 以下で派遣・配置 されている	要請に応じて 派遣される	その他	派遣・配置 されていない
中学校	166	2.4	7.2	19.9	41.0	1.8	27.7	
中等教育学校	4	25.0	0	0	25.0	0	50.0	
全日制高校	75	1.3	1.3	2.7	49.3	1.3	44.0	
定時制高校	7	0	0	0	71.4	0	28.6	
通信制高校	5	0	0	0	40.0	0	60.0	
複数課程併設高校	5	0	0	0	60.0	0	40.0	

図表－ 208 S Cの配置・派遣状況

(%)

	調査数 (n)	週に2～3回 以上派遣・配置 されている	週に1回 程度派遣・配置 されている	以下で派遣・配置 されている	月に数回 以下で派遣・配置 されている	要請に応じて 派遣される	その他	派遣・配置 されていない
中学校	166	7.8	31.9	59.6	0.6	0	0	
中等教育学校	4	25.0	75.0	0	0	0	0	
全日制高校	75	13.3	46.7	34.7	1.3	2.7	0	
定時制高校	7	0	57.1	28.6	14.3	0	0	
通信制高校	5	20.0	20.0	0	20.0	20.0	20.0	
複数課程併設高校	5	20.0	40.0	40.0	0	0	0	

② 校内で共有している子どものケース

校内で共有している子どものケースについては、いずれも「学校を休みがちである」「遅刻や早退が多い」「保健室で過ごしていることが多い」「精神的な不安定さがある」の割合が高くなっている。

図表－ 209 校内で共有している子どものケース（複数回答）

(%)

	中学校 (n=166)	中等教育 学校 (n=4)	全日制 高校 (n=75)	定時制 高校 (n=7)	通信制 高校 (n=5)	複数課程 併設校 (n=5)
学校を休みがちである	98.2	100	100	100	80.0	100
遅刻や早退が多い	90.4	100	76.0	71.4	20.0	100
保健室で過ごしていることが多い	82.5	100	85.3	71.4	40.0	80.0
精神的な不安定さがある	96.4	75.0	93.3	85.7	100	100
身だしなみが整っていない	69.3	50.0	42.7	42.9	60.0	80.0
学力が低下している	56.6	25.0	40.0	0	20.0	60.0
宿題や持ち物の忘れ物が多い	50.0	25.0	30.7	28.6	20.0	40.0
保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い	48.8	0	26.7	28.6	60.0	80.0
学校に必要なものを用意してもらえない	45.8	0	25.3	28.6	20.0	40.0
部活を途中でやめてしまった	67.5	0	33.3	28.6	0	40.0
修学旅行や宿泊行事等を欠席する	69.3	50.0	44.0	42.9	0	40.0
校納金が遅れる、未払い	66.9	0	40.0	71.4	80.0	80.0
その他	4.2	0	2.7	0	0	20.0

③ 情報共有・対応の検討体制

校内で共有している子どものケースについての情報共有・対応の検討体制については、中学校では「不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」の割合が59.6%で最も高い一方、全日制高校では「個別に対応している（決まった検討体制はない）」と「不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」が同程度である。

図表－ 210 情報共有・対応の検討体制（複数回答）

(%)

	調査数 (n)	不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している	不登校以外の子どもに関する校内の検討体制で検討している	個別に対応している (決まった検討体制はない)	無回答
中学校	166	59.6	30.1	9.6	0.6
中等教育学校	4	25.0	50.0	25.0	0
全日制高校	75	33.3	29.3	36.0	1.3
定時制高校	7	14.3	57.1	28.6	0
通信制高校	5	20.0	20.0	60.0	0
複数課程併設高校	5	40.0	40.0	20.0	0

④ 校内の検討体制

「不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」、「不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」と回答した学校に対し、校内の情報共有・対応の検討体制について聞いた結果は以下のとおりである。

i. 情報共有・対応の検討方法

中学校・全日制高校では、ともに「生徒指導部・委員会など」の割合が93.2%、63.8%と最も高くなっている。

図表－ 211 情報共有・対応の検討方法

(%)

	調査数 (n)	スクリーニング会議	ケース会議	生徒指導部・委員会など	児童生徒理解・支援シートなど 共通様式による情報共有	教育相談コーディネーターなど学校内・関係機関との 連絡調整・会場開催の調整など児童生徒の抱える課題 に向けて調整役として活動する教職員の配置・指名	その他
中学校	148	8.1	78.4	93.2	52.0	39.9	3.4
中等教育学校	3	0	100	66.7	33.3	33.3	0
全日制高校	47	10.6	46.8	63.8	10.6	29.8	12.8
定時制高校	5	0	40.0	60.0	60.0	60.0	0
通信制高校	2	50.0	100	100	50.0	50.0	0
複数課程併設高校	4	0	25.0	100	50.0	75.0	25.0

ii. 会議に参加する教職員、会議の頻度

情報共有・対応の検討方法について「スクリーニング会議」「ケース会議」「生徒指導部・委員会など」「その他」と回答した学校に、それぞれの会議の参加者・頻度を聞いた結果は以下のとおりである。

図表－ 212 会議の参加者（複数回答）

(%)

		調査数 (n)	校長	副校長・ 教頭	学年主任	担当教諭	生徒指導教諭	養護教諭	S S W	S C	外部の 関係機関	その他
スクリー ニング会議	中学校	12	100	100	91.7	66.7	100	100	8.3	33.3	0	16.7
	全日制高校	5	80.0	80.0	100	40.0	100	80.0	0	20.0	0	20.0
	定時制高校	1	0	100	100	100	100	100	0	100	0	0
ケース会議	中学校	114	83.3	100	99.1	95.6	94.7	82.5	15.8	32.5	13.2	9.6
	中等教育学校	3	33.3	66.7	100	100	100	100	0	66.7	0	33.3
	全日制高校	22	36.4	68.2	100	81.8	81.8	86.4	13.6	31.8	4.5	27.3
	定時制高校	1	0	100	100	100	100	100	0	100	0	100
	通信制高校	2	0	100	50.0	100	100	50.0	0	50.0	0	0
	複数課程併設高校	1	0	100	100	100	100	100	100	0	0	0
生徒指導部・ 委員会など	中学校	133	56.4	91.0	31.6	41.4	98.5	85.0	6.8	28.6	7.5	29.3
	中等教育学校	2	0	0	50.0	50.0	100	50.0	0	0	0	0
	全日制高校	28	53.6	64.3	85.7	46.4	92.9	64.3	0	3.6	0	25.0
	定時制高校	3	100	100	100	33.3	100	100	0	0	0	33.3
	通信制高校	2	0	100	100	50.0	50.0	50.0	0	50.0	0	0
	複数課程併設高校	4	75.0	100	100	50.0	100	75.0	0	25.0	0	25.0
その他	中学校	5	80.0	80.0	100	40.0	80.0	40.0	0	20.0	0	20.0
	全日制高校	6	83.3	83.3	100	33.3	100	83.3	0	16.7	0	66.7
	複数課程併設高校	1	0	0	0	0	0	100	0	100	0	100

図表－ 213 会議等の頻度

(%)

		調査数 (コ)	1 回 以上 2 週 間 に	月 に 1 回 程 度	半 年 に 1 回 程 度	年 に 1 回 程 度
スクリーニ ング会議	中学校	12	58.3	16.7	25.0	0
	全日制高校	5	20.0	80.0	0	0
	定時制高校	1	0	100	0	0
ケース会議	中学校等	113	14.2	54.0	31.9	0
	中等教育学校	3	0	33.3	66.7	0
	全日制高校	22	9.1	77.3	13.6	0
	定時制高校	1	0	100	0	0
	通信制高校	2	0	100	0	0
	複数課程併設高校	1	0	100	0	0
生徒指導部・委員会など	中学校	129	93.0	6.2	0.8	0
	中等教育学校	2	50.0	50.0	0	0
	全日制高校	29	24.1	65.5	3.4	6.9
	定時制高校	3	0	100	0	0
	通信制高校	2	0	100	0	0
	複数課程併設高校	4	25.0	50.0	25.0	0
その他	中学校	5	100	0	0	0
	全日制高校	6	33.3	50.0	0	0
	複数課程併設高校	1	100	0	0	0

⑤ 個別対応の場合の情報共有・対応の検討方法など

個別対応の場合の情報共有、対応の検討方法については、以下のような回答があった。

中学校等
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒支援シート、デジタルデータ等での情報共有。 ・生徒指導部・養護・スクールカウンセラーなどでの対応、場合によっては外部機関への通告を実施。 ・共有したい事項があった場合、随時、担任、学年主任、生徒指導部長、養護教諭で検討。 ・学年ごとに情報共有し、相談があれば教育相談会議で共有。 ・必要な情報を副校長が報告を受け、担当部署にて情報共有して必要な対応・支援を実施。
高等学校（全日制・定時制）
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部会、職員会議、職員朝会、学年会等の選択肢以外の会議を実施し情報共有・検討。 ・学年ごとの情報共有を基本とし、必要に応じて、管理職、担当職員、養護教諭、SC、特別支援コーディネーターでの情報共有。 ・職員室での日常会話での共有。 ・個別対応を必要とする生徒が所属する学年教職員を中心に、情報共有や検討を実施。学年の教職員は、随時情報共有しており、教職員全体への情報共有を職員会議で実施。 ・学年ごとに情報共有。必要に応じて、「いじめ防止対策会議」「生徒指導カンファレンス」「生徒指導部係会」など課題の内容に応じて対応検討する組織を変えている。 ・学年団で情報共有・対応の検討を行い、必要な場合には、教育相談カウンセリングの実施や、その他関係機関との連携を行い、問題解決へ学校全体として取り組んでいく。 ・学級担任が保護者と密に連絡を取り合い、欠席状況について定時制の職員会議随時報告。 ・学年主任・担任から、提出される個別の支援計画をもとに、生徒への対応を話し合い対応。 ・休みの多い生徒を担当や学年主任から聞きだし、養護教諭と相談の上、カウンセラーにつなぐ。内容によっては管理職と交えて会議を行い、対応を検討。 ・該当生徒の学年会議・学年教職員内で情報交換＋対応を検討→管理職＋養護教諭＋生徒指導部長を交えて再検討→保護者へ確認→職員会議等で全体に周知。 ・学年主任・担任・生徒指導部長、それに校長・副校長・教頭の管理職、場合によっては養護教諭・教育相談担当教諭が、事案が発生する都度、情報共有・対策を検討し、対応。 ・生徒登校時の昇降口において、教頭、生徒指導主事、養護教諭で毎日立哨指導を行い生徒の観察を行うことで状況把握。その他、HR活動、授業、給食指導の中でも生徒の健康状況、精神状態を把握。
高等学校（通信制）
<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議にて情報共有し、対応の検討を随時している。 ・学習等支援施設の責任者間で、定期的に会議を設け、各施設での状況の報告・対応を検討。 ・生徒の状況をデータで管理し、全教員が随時閲覧できる体制を取っている。気になる生徒がいた場合、気づいた教員が覚書に入力し、その閲覧を全教員に徹底させている。

⑥ 外部との情報共有・対応の検討体制

校内で共有している子どものケースについて学校以外の関係機関と連携する体制があるかどうか、また体制がある場合、連携する関係機関について聞いたところ、結果は以下のとおりである。

体制の有無については、「要対協の登録ケース」「不登校のケース」の場合、中学校では「ある」の割合が高く、全日制高校では「ない」の割合が高くなっている。

図表－ 214 体制の有無

(%)

	調査数 (n)	要対協の登録ケース		不登校のケース		それ以外のケース	
		ある	ない	ある	ない	ある	ない
中学校	154	51.9	48.1	92.4	7.6	43.4	56.6
中等教育学校	4	0	100	25.0	75.0	25.0	75.0
全日制高校	74	12.2	87.8	24.7	75.3	26.7	73.3
定時制高校	6	0	100	16.7	83.3	83.3	16.7
通信制高校	5	0	100	20.0	80.0	40.0	60.0
複数課程併設校	5	20.0	80.0	40.0	60.0	20.0	80.0

連携する関係機関については、「要対協の登録ケース」「それ以外のケース」の場合、中学校では「市町村教育委員会」の割合が最も高く、全日制高校では「児童相談所」の割合が最も高くなっている。

「不登校のケース」の場合、中学校では「教育支援センター」の割合が最も高く、全日制高校では「県教育委員会」の割合が最も高くなっている。

図表－ 215 関係機関（複数回答）

(%)

		調査数 (n)	県教育委員会	市町村教育委員会	市町村の福祉部門	市町村の保健部門	市町村の要対協の調整機関 虐待対応部門	教育支援センター	体・施設 フリースクール等の民間団	児童相談所	民生委員	病院	警察や刑事司法関係機関	その他
要対協 の登録 ケース	中学校	80	3.8	77.5	58.8	13.8	47.5	38.8	6.3	57.5	33.8	10.0	18.8	0
	全日制 高校	9	55.6	11.1	22.2	22.2	33.3	0	0	66.7	00	11.1	44.4	0
	複数課程 併設高校	1	100	0	100	0	100	100	0	100	0	0	0	0
不登校 の ケース	中学校	146	6.8	79.5	40.4	9.6	9.6	87.0	14.4	32.2	23.3	16.4	11.0	2.1
	全日制 高校	18	50.0	0	16.7	11.1	5.6	5.6	5.6	38.9	0	38.9	27.8	5.6
	定時制 高校	1	0	0	100	100	0	100	0	100	100	100	0	0
	通信制 高校	1	0	0	0	0	0	0	0	100	0	100	0	0
	複数課程 併設高校	2	50.0	0	50.0	50.0	0	50.0	0	0	0	50.0	0	0
それ 以外の ケース	中学校	62	9.5	76.2	41.3	12.7	23.8	44.4	11.1	63.5	27.0	12.7	30.2	0
	中等教育 学校	1	100	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全日制 高校	20	55.0	0	30.0	15.0	10.0	0	5.0	75.0	0	35.0	55.0	5.0
	定時制 高校	5	0	0	80.0	40.0	0	40.0	0	60.0	40.0	60.0	40.0	40.0
	通信制 高校	2	0	0	0	0	0	100	0	100	0	50.0	100	0
	複数課程 併設高校	1	100	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0

3.2.3 ヤングケアラーについて

① ヤングケアラーの概念の認識

ヤングケアラーの概念の認識については、いずれも「言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない」もしくは「言葉を知っており、学校として意識して対応している」の回答数が多くなっており、概念の認識はある一方で、学校としての対応については二分している。

図表－ 216 ヤングケアラーの概念の認識

(%)

	調査数 (n)	言葉を知らない	言葉は聞いたことがあるが、 具体的には知らない	言葉は知っているが、学校として は特別な対応をしていない	言葉を知っており、学校として 意識して対応している
中学校	166	0.6	1.8	47.0	50.6
中等教育学校	4	0	0	100	0
全日制高校	75	0	1.3	50.7	48.0
定時制高校	7	0	0	28.6	71.4
通信制高校	5	0	0	80.0	20.0
複数課程併設高校	5	0	0	40.0	60.0

② ヤングケアラーの実態把握の状況

ヤングケアラーの概念について「言葉を知っており、学校として意識して対応している」と回答した学校に、子どもの実態把握の状況について聞いたところ、「把握している」は中学校で 64.3%、全日制高校で 41.7%、「『ヤングケアラー』と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない」が中学校で 13.1%、全日制高校で 30.6% となっている。

図表－ 217 ヤングケアラーの実態把握の状況

(%)

	調査数 (n)	把握している	「ヤングケアラー」と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない	該当する子どもはいない (これまでいなかった)
中学校	84	64.3	13.1	22.6
全日制高校	36	41.7	30.6	27.8
定時制高校	5	40.0	60.0	0
通信制高校	1	0	100	0
複数課程併設高校	3	100	0	0

③ ヤングケアラーの把握方法

ヤングケアラーを「把握している」と回答した学校に、把握方法について聞いたところ、いずれも「特定のツールはないが、できるだけ『ヤングケアラー』の視点を持って検討・対応している」が最も高くなっている。

図表－ 218 ヤングケアラーの把握方法

(%)

	調査数 (件)	アセスメントシートやチェックリストなどのツールを用いている	特定のツールはないが、できるだけ『ヤングケアラー』の視点を持って検討・対応している	その他
中学校	56	5.4	92.9	1.8
全日制高校	16	6.3	62.5	31.3
定時制高校	2	0	100	0
複数課程併設高校	3	0	66.7	33.3

④ ヤングケアラーの定義に該当すると思われる子どもの有無

ヤングケアラーの定義を示したうえで、該当すると思われる子どもの有無について聞いたところ、中等教育学校を除き、「いる」との回答があり、中学校では46.4%、全日制高校では48.0%となっている。

図表－ 219 ヤングケアラーの定義に該当すると思われる子どもの有無
(%)

	調査数 (コト)	いる	いない	わからない
中学校	166	46.4	33.1	20.5
中等教育学校	4	0	75.0	25.0
全日制高校	75	48.0	21.3	30.7
定時制高校	7	85.7	14.3	0
通信制高校	5	40.0	20.0	40.0
複数課程併設高校	5	80.0	20.0	0

⑤ ヤングケアラーの状況について

i. ヤングケアラーと思われる子どもの状況

ヤングケアラーと思われる子どもの状況については、いずれも「家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている」が最も高くなっている。

図表－ 220 ヤングケアラーと思われる子どもの状況（複数回答）

(%)

	中学校 (n=77)	全日制 高校 (n=36)	定時制 高校 (n=6)	通信制 高校 (n=2)	複数課程 併設高校 (n=4)
障がいや病気のある家族に代わり、家事をしている	27.3	36.1	66.7	0	25.0
家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている	77.9	66.7	100	100	100
家族の代わりに、障がいや病気のあるきょうだいの世話をしている	5.2	11.1	16.7	0	25.0
目の離せない家族の見守りや声掛けをしている	15.6	13.9	0	0	25.0
家族の通訳をしている	23.4	36.1	50.0	0	25.0
家計を支えるために、アルバイト等をしている	2.6	44.4	83.3	100	25.0
アルコール・薬物・ギャンブルなどの問題のある家族に対応している	1.3	2.8	16.7	0	25.0
病気の家族の看病をしている	10.4	19.4	16.7	0	0
障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている	14.3	19.4	0.0	50.0	25.0
障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている	1.3	0	0	0	0
その他	6.5	2.8	0	0	0

ii. 外部の支援につないだケースの有無

ヤングケアラーと思われる子どもについて、学校以外の外部の支援につないだケースがあるかについて聞いたところ、いずれも「外部の支援につないでいない」が最も高くなっている。

図表－ 221 外部の支援につないだケースの有無（複数回答）

(%)

	中学校 (n=77)	全日制 高校 (n=36)	定時制 高校 (n=6)	通信制 高校 (n=2)	複数課程 併設高校 (n=3)
要対協に通告したケースがある	9.1	2.8	0	0	0
要対協に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある	36.4	13.9	33.3	0	25.0
外部の支援につないでいない	54.5	83.3	83.3	100	75.0

iii. 外部の支援につながらなかったケースについて

外部の支援につながらなかったケースについて、つながらなかった理由と対応方法については、以下のような回答があった。

つなげなかった理由	対応方法
<ul style="list-style-type: none"> ・校内で対応可能と判断したため ・深刻なケースではないと考えたため 	<ul style="list-style-type: none"> ・面談等を通して状況の把握に努めており、状況によっては外部の支援につなぐことを確認。 ・校内支援委員会で対応、必要に応じて外部機関に支援を依頼。 ・本人の話を聞き、要望に沿って報告・相談しながら対応。 ・個別面談やSCとの連携を行い、対応を判断。 ・担任・学年・関係職員による見守り。 ・全職員で共通理解を図った上で、学年を中心に家庭との連携を密にしている。 ・常に生徒の様子を観察し、いつでも外部につなぐことができるよう情報共有を行っている。 ・支援が必要になった際に迅速につなぐことができるように体制を整えておく。 ・家庭との連携、生徒自身の学校生活状況の把握。
<ul style="list-style-type: none"> ・本人・家庭が支援を望んでいないため ・特段の申し出がないため 	<ul style="list-style-type: none"> ・SCによるカウンセリング等、本人の心のケア。 ・こまめな声かけ、学校生活が充実するような働きかけ、卒業後の自立支援など。 ・面談やSCの助言。 ・本人や家族と連絡をとるようにし、必要に応じて外部機関につなげる体制を整備。 ・困っていることがないか定期的に声かけ。 ・必要に応じて初動は、担任・学年・担当管理職等の単位で対応。 ・休んだときに必ず担任が連絡を入れる。普段の様子を気にかけ、声をかけている。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活に影響を与えてないため 	<ul style="list-style-type: none"> ・父母に伝える内容を生徒に説明し、生徒から話すようにしている。 ・家の状況を聞き、生徒に困りごとがないか確認。 ・教育相談の実施・日々の声かけなどを欠かさず、生徒の様子を把握し情報共有。 ・担任が随時面談をしている ・SCによるカウンセリング。 ・ケアが理由の欠席の時には、担任・学年主任等が話を聞くようにしている。 ・全職員で情報共有および担任による面談の実施。 ・SCとの連携を密にするため、相談しやすい関係づくりと相談体制の充実。 ・二者または三者面談や家庭訪問での状況把握。相談窓口の周知等。 ・本人が親と行動しなければならない日は、本人から欠席等の連絡があり、担任教諭が家庭訪問や電話連絡を行い、様子を確認している。 ・生徒の様子の担任・部活動の顧問の見守り。 ・毎日の生活ノートでの担任とのやりとり、月に1回の生活アンケート、年3回の二者面談、担任の普段からの見取りで相談できる窓口を確保。

つなげなかった理由	対応方法
・改善が見られたため	<ul style="list-style-type: none"> ・電話対応、面接対応で家庭の事情を把握した上で保護者に生徒の現状を説明した。結果、保護者が甘えていたと反省し、遅刻が多かった生徒が生活のリズムを取り戻した。 ・家庭訪問。本人との面談。
<ul style="list-style-type: none"> ・状況把握が现阶段で出来ない ・状況確認中のため 	<ul style="list-style-type: none"> ・こまめに電話連絡や家庭訪問をしたり、登校した時には本人との面談を行ったりし、状況を把握するようにしている。 ・状況に応じて、外部機関と連携をとる予定。 ・SSWと連携して、支援。 ・生徒との面談を頻繁に行い、必要な対応を検討。 ・職員での情報共有・生徒との二者面談等での事実確認。 ・担任と家庭との連携がとれており、保護者や本人から状況確認はできているため。 ・担任による面談。 ・教育相談を行い、継続して様子を確認している。 ・現時点では学校生活に支障が出ていないが、今後も生徒との面談等を頻繁に行い、必要な対応を検討していく。 ・SCとつなぎ本人のケアを実施。 ・担任と生徒との二者面談を定期的実施。必要に応じて、関係機関に相談する方向である。 ・継続的に本人と面談をしたり、見守りを行いながら、状況を把握している。
・既に外部の支援が入っているため	<ul style="list-style-type: none"> ・登校時の様子の把握に日々努める。 ・SSWと連携し、市社会福祉協議会の支援なども受け、通訳などに関しては、対応方法を考慮する。
・家庭で対応できる範囲であると認識	<ul style="list-style-type: none"> ・声かけ面談等。
・家庭の状況が把握できていないため	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生については中学校と情報の共有を密に行い、個々の生徒の状況の把握に努めている。 ・欠席した際に電話(場合によっては家庭訪問)で様子を把握。 ・担任や学年主任等を通じ、家庭の状況把握に努め、その上でケース会議を開き検討。
・具体的に支援が必要なケースが出てきていない	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、学年中心に対応後に、管理職を交えて対応している。
・生徒本人の外部機関への不信感	<ul style="list-style-type: none"> ・保健室での休養・SC等によるメンタルサポート・欠課時数に対する配慮。
・家庭の事情もあり、外部につなぐことが難しく、外部の支援の具体的な内容について、共通理解が図られていないため	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒との個別面談をまめに行い、普段から学年内や学校全体で共通理解を図っている。 ・ケース会議で情報を共有している。
・家庭との連絡がとれており、家庭での様子が把握できている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の様子をよく観察し、実態把握に努めている。
・自分の時間が確保できているため	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒との面談をとおして様子を確認している。
・家族間での役割分担がはっきりしている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の声かけ。家庭訪問。
・生徒からの相談はあったが、家族関係が複雑であり、支援を行うことで家庭内での親子関係を壊す恐れがあり、生徒本人の居場所を確保するため	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職や市の子育て支援課との情報共有。学校での生徒本人との教育相談。

iv. ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していること

ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していることについては、以下の
ような回答があった。

- ・ 学年会や生徒指導部会、運営委員会などで教員間の情報共有をしている。
- ・ 生徒との信頼関係を構築し、相談しやすい環境の整備をしている。
- ・ 生徒の観察（顔色、服装、身だしなみ等）、他の生徒や保護者等の情報、日記や会話等から家庭状況の把握を行う。
- ・ 欠席・遅刻理由の把握を行っている。
- ・ 個人情報の管理を徹底し、保護者等の意向を十分に把握する。
- ・ SC・SSWと連携し、支援する。
- ・ 学校だけで抱え込まず、自治体関係機関・外部機関等との連携を密にしている。
- ・ 面談、学校生活アンケートを定期的実施し、相談しやすい環境を整備している。
- ・ ヤングケアラーと思われる生徒が、外国籍に多いので、通訳の先生を含めて多くの先生が関わり、本人が相談しやすい環境をつくっている。
- ・ 家庭訪問や保護者との面談を実施し、家庭環境を把握している。
- ・ 養護教諭やカウンセラーなどの教育相談体制を整え、ヤングケアラーの把握ができるようにしている。
- ・ 出身校からの事前の家族構成等の情報入手。
- ・ 生徒本人との面談を通じて、求めていることを把握する。
- ・ 家事手伝いなどの場合でもヤングケアラーとしての対応が必要な可能性があるという視点で対応する。
- ・ 保護者と生徒との関係がより悪化しないように、関係機関などと協力して保護者へのアプローチをするようにしている。
- ・ 市町村を上げてヤングケアラーやひきこもり生徒の把握に努め、卒業生の進学状況を把握し、家庭訪問へつなげている。

v. ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じること

ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じることについては、以下のような回答があった。

- ・どこまで家庭に踏み込んで良いものか、ヤングケアラーに該当するのか、という判断が難しいこと。
- ・手伝いとヤングケアラーの線引きが難しいこと。
- ・生徒本人の相談・訴えがないと実態が分からない。自覚していないと把握できない。本人が望んでいない。本人がヤングケアラーであることに生きがいを持っていること。
- ・保護者の協力・理解、連絡を得ることが難しい。また保護者の自覚がないこと。
- ・保護者が望まないと外部機関につなげにくい、保護者が支援を受けることに拒否感があること。
- ・本人と保護者、家庭と学校の関係性を悪化させる懸念があること。
- ・物理的・経済的な支援ができないこと。
- ・学校生活に支障がでないと対応できないこと。
- ・外部連携をしないと正確な家庭の実態をつかむことが難しいこと。
- ・ヤングケアラーの定義が曖昧で、外部機関で調査してもらえないことがあること。
- ・ヤングケアラー問題の解決や家庭の変容を促すことが学校業務の範疇を超えている。
- ・各家庭の教育方針が異なり、学校側の考え方を理解してもらうことが難しいこと。
- ・児童虐待の中に経済的虐待が含まれておらず、指導等がしづらいこと。
- ・ネグレクトとの関連やどの程度の支援をするのかわからないこと。
- ・外部につなぐこと以外にできることがわからないこと。
- ・本人が登校を希望していても家庭の都合で休ませている時の把握が難しい時がある。欠席したときの学習支援が十分にできないことがある。
- ・家庭の事情に深く踏み込めない場合もあり、専門的知見からのアドバイスをもらいたい。
- ・家族の精神疾患や依存症が原因の場合に教員に申し出たり、詳しく話したりすることへの戸惑いや抵抗を無くすこと。
- ・実態を把握した際の職員、特に担任の支援のあり方（特に外部につなぐほどでもないものほど難しい）。

⑥ ヤングケアラーがいるか分からない理由

ヤングケアラーの定義に該当すると思われる子どもがいるか「わからない」と回答した学校に、その理由を聞いたところ、中等教育学校を除き「家庭内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい」「ヤングケアラーである子ども自身やその家族が『ヤングケアラー』という問題を認識していない」の割合が高くなっている。

図表－ 222 ヤングケアラーがいるか分からない理由（複数回答）

(%)

	調査数 (n)	学校において「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している	不登校やいじめなどに比べ緊急度が高くないため「ヤングケアラー」に関する実際の把握が後回しになる	家庭内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい	ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない	その他
中学校	34	20.6	17.6	91.2	47.1	8.8
中等教育学校	1	100	100	100	100	0
全日制高校	23	21.7	4.3	87.0	60.9	0
通信制高校	2	0	0	100	100	0

⑦ ヤングケアラーを支援するために必要だと思うこと

ヤングケアラーを支援するために必要だと思うことについては、「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」「教職員がヤングケアラーについて知ること」「子どもが教員に相談しやすい関係をつくること」などが高くなっている。

図表－ 223 ヤングケアラーを支援するために必要だと思うこと（複数回答）

(%)

	中学校 (n=166)	中等教育 学校 (n=4)	全日制 高校 (n=75)	定時制 高校 (n=7)	通信制 高校 (n=5)	複数課程 併設高校 (n=5)
子ども自身がヤングケアラーについて知ること	76.5	100	92.0	85.7	60.0	80.0
教職員がヤングケアラーについて知ること	88.6	100	90.7	71.4	80.0	100
学校にヤングケアラーが何人いるか把握すること	62.7	100	57.3	14.3	20.0	40.0
SSWやSCなどの専門職の配置が充実すること	66.3	75.0	50.7	28.6	20.0	60.0
子どもが教員に相談しやすい関係をつくること	84.3	75.0	82.7	71.4	100	80.0
ヤングケアラーについて検討する組織を校内につくること	29.5	25.0	21.3	14.3	0	20.0
学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること	50.0	25.0	40.0	14.3	40.0	40.0
学校がヤングケアラーの支援について相談できる機関があること	53.6	50.0	50.7	71.4	40.0	20.0
ヤングケアラーを支援するNPOなどの団体が増えること	42.8	0	26.7	71.4	0	40.0
福祉と教育の連携を進めること	19.9	0	12.0	0	0	20.0
その他	0.6	0	0	0	0	0
特になし	0	0	0	0	0	0

3.2.4 個別の事例

㊦要対協に通告したケース、㊧要対協に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースについて、直近のケースを1件ずつ聞いた結果は、以下のとおりである。

① 性別

性別については、㊦、㊧のケースともに「女性」の割合が高くなっている。

図表－ 224 性別

(%)

	㊦要対協 (n=8)	㊧学校以外の外部の支援 (n=37)
女性	62.5	78.4
男性	37.5	21.6

② 学校生活の状況

学校生活の状況については、㊦、㊧のケースともに「学校を休みがちである」の割合が最も高く、次いで㊦のケースでは「学力が低下している」の割合が、㊧のケースでは「遅刻や早退が多い」「保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い」の割合が高くなっている。

図表－ 225 学校生活の状況（複数回答）

(%)

	㊦要対協 (n=8)	㊧学校以外の外部の支援 (n=37)
学校を休みがちである	62.5	62.2
遅刻や早退が多い	25.0	35.1
保健室で過ごしていることが多い	0	16.2
精神的な不安定さがある	12.5	0
身だしなみが整っていない	12.5	2.7
学力が低下している	50.0	16.2
宿題や持ち物の忘れ物が多い	37.5	16.2
保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い	37.5	35.1
学校に必要なものを用意してもらえない	12.5	13.5
部活を途中でやめてしまった	25.0	2.7
修学旅行や宿泊行事を欠席する	12.5	13.5
校納金が遅れる、未払い	37.5	16.2
その他	0	5.4

③ 家族構成

家族構成については、㊦、㊧のケースともに「ひとり親家庭」の割合が高く、次いで「二世帯世帯」の割合が高くなっている

図表－ 226 家族構成

(%)

	㊦要対協 (n=8)	㊧学校以外の外部の支援 (n=37)
二世帯世帯	37.5	32.4
三世帯世帯	0	8.1
ひとり親家庭	62.5	43.2
その他	0	16.2

④ ケアの状況

i. ケアの状況の把握

ケアの状況の把握については、㊦、㊧のケースともに「把握している」の割合が高くなっている。

図表－ 227 ケアの状況の把握

(%)

	㊦要対協 (n=8)	㊧学校以外の外部の支援 (n=37)
把握している	75.0	81.1
把握していない	12.5	18.9
無回答	12.5	0

ii. ケアを必要としている人

ケアを必要としている人については、㊦、㊧のケースともに「きょうだい」の割合が高く、次いで「父母」の割合が高くなっている。

図表－ 228 ケアを必要としている人（複数回答）

(%)

	㊦要対協 (n=6)	㊧学校以外の外部の支援 (n=30)
父母	50.0	30.0
祖父母	0	6.7
きょうだい	66.7	73.3
その他	0	6.7

iii. ケアを必要としている人の状況

ケアを必要としている人の状況については、㊦、㊧のケースともに「幼い」の割合が高く、次いで㊦のケースでは「精神疾患、依存症以外の病気」の割合が、㊧のケースでは「精神疾患、依存症」の割合が高くなっている。

図表－ 229 ケアを必要としている人の状況（複数回答）

(%)

	㊦要対協 (n=6)	㊧学校以外の外部の支援 (n=30)
高齢（65歳以上）	0	10.0
幼い	50.0	66.7
要介護	0	10.0
認知症	0	3.3
身体障がい	0	6.7
知的障がい	0	6.7
精神疾患、依存症	0	20.0
精神疾患、依存症以外の病気	33.3	6.7
その他	16.7	6.7
日本語を第一言語としない	0	6.7
わからない	0	0
無回答	0	0

iv. ケアの内容

ケアの内容については、㊦、㊧のケースともに「家事」「きょうだいの世話や
保育所等への送迎など」の割合が高くなっている。

図表－ 230 ケアの内容（複数回答）

(%)

	㊦要対協 (n=6)	㊧学校以外の外部の支援 (n=30)
家事	66.7	66.7
きょうだいの世話や保育所等への送迎など	66.7	46.7
身体的な介護	0	3.3
外出の付き添い	16.7	10.0
通院の付き添い	33.3	6.7
感情面のサポート	16.7	10.0
見守り	16.7	23.3
通訳	0	3.3
金銭管理	0	3.3
薬の管理	0	0
その他	0	0
わからない	0	0
無回答	0	0

⑤ ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけ ※自由記述

- ・担任・保健室への相談
- ・親類の市町村窓口への相談
- ・SSWからの情報
- ・欠席・遅刻の増加・連絡
- ・近隣住民からの児童相談所への虐待通告
- ・子どもとの会話
- ・他校からの情報提供・共有
- ・親の各種疾患による入院
- ・保護者との電話等でのやりとり
- ・本人からの訴え、生活アンケート
- ・教育相談担当者を中心に対象生徒と定期的な面談

⑥ つないだ機関（②学校以外の外部の支援につないだケースのみ）※自由回答

- ・市町村の関係課（福祉課・こども課等）
- ・児童相談所
- ・SSW
- ・民生委員
- ・教育委員会
- ・フリースクール
- ・その他機関（警察・保健所・病院）

⑦ 外部機関へのつなぎ方

図表－ 231 外部機関へのつなぎ方（複数回答）

	要対協 (n=8)	学校以外の外部の支援 (n=37)
市町村教育委員会経由	50.0	21.6
学校から直接連絡	37.5	70.3
その他	0	13.5
無回答	12.5	2.7

(%)

⑧ 学校が行った支援等（つなぎ先との連携も含めて）をした結果、子どもへの変化

<要対協につないだケース>

学校が行った支援	支援した結果、子どもへの変化
役所と連携・協力した定期的な家庭訪問 役所・児相の要請に応じた安否確認のための家庭訪問	・面会できるときは、にこやかな表情で話すことができている。
市の「子育て教育支援センター」および児童相談所との情報共有および来校	・欠席は少なくなった。
町福祉課、児童相談所との連携、親類との情報交換、本人への見守り	・学校生活に問題は見られない。
生徒本人への学習指導・進路情報の伝達・市こども福祉課との連携・母親の支援体制の確認・児童相談所への相談・通告	・高校を受検・合格し、現在も通学している。
学校ジャージの貸し出し 家庭での自主学習用にプリントを用意	・欠席日数が減り、学習に対する意欲も出てきた。

<学校以外の外部の支援につないだケース>（変化があったものを抜粋）

学校が行った支援	支援した結果、子どもへの変化
定期的な家庭訪問、電話連絡等による把握 親の心のケア	・精神的に落ち着いた。 ・困っていることを話してくれるようになった。 ・出席が増えた（欠席が減った）、遅刻が減った。 ・書類等の提出ができるようになった。 ・親が困ったときの相談窓口を増やすことができた。
市町村関係課との情報交換、児童相談所への通告、外部関係機関（社会福祉協議会・フリースクール・ケースワーカー・民生委員等）との連携	・家事の強制が減少した。 ・出席が増えた（欠席が減った）、遅刻が減った。 ・日常生活において、やや生活が安定してきた。 ・必要なものが用意でき、登校できるようになった。
書類作成や金銭面でのアドバイス	・高校に通学する意思が強くなった。
本人への面談・状況把握、メンタルサポート	・大きなストレス等を抱えることなく生活できている。 ・心の相談員やカウンセラーが勤務する日に面談を受けに来る日が増えた。 ・不安や悩みなどを担任やSCに相談している ・保護者は育児を放棄しておらず、本人の状態も以前よりは良くなっている。 ・精神的に落ち着いた。 ・出席が増えた（欠席が減った）、遅刻が減った。
ケース会議の実施	・親が困った時の相談窓口を増やすことができた。 ・支援当初より明るく話ができるようになった。進路について自分の置かれた立場や環境を受け入れ、現実的に考えるようになった。
S S Wや母親を交えての三者・四者会談	・支援当初より明るく話ができるようになった。進路について自分の置かれた立場や環境を受け入れ、現実的に考えるようになった。
別室で学習できる場の提供	・学校では落ち着いて学習に取り組んでいる。
市役所との連絡仲介・遠方のおばとの連絡・日常的な声かけ・面談の実施	・不登校傾向は改善されず、叔母宅の近所にアパートを借り、通信制の高校へ転学した。

3.2.5 ヤングケアラーへの対応に関する取組事例

ヤングケアラーと思われる生徒への対応において、学校以外の外部支援につないだ事例について、ヒアリング調査を実施した。

<取組事例>

	事例1（ひとり親のケース）
事例の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学3年女子。 ・ 母と5人きょうだい（兄、本人、弟2人（幼児）、妹1人（乳児））の家族。 ・ 母が外出する時、本人は早退し、幼いきょうだいの子守をしている。 ・ 本人は、家事や食事作りのほか、乳児にミルクを飲ませたり、風呂に入れることもある。 ・ 本人は学校を休みはじめ、勉強もついていけず、友人とも疎遠になっている。高校に行きたいと言っているが、学校の授業についていけなくなっている。 ・ 精神的に不安定で、ピアス、髪を染める、リストカットなどもあり。
発見・支援までの経緯	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本人が不登校気味になり、面談や家庭訪問を行うことによりヤングケアラーと判断した。
SSW、SCの関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・ SSWは月1回家庭訪問をしている。
困りごとを抱える生徒への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担任が毎日声掛けするなど、気にかけている。 ・ 本人は教室で授業を受けるのが負担となっているため、校内に設けられているフリースペースに登校している。フリースペースはリラックスできるため、本人はそこには来られている。
配慮していること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒指導部会で毎週、現状を情報共有している。 ・ 市の福祉担当課と情報共有している。
支援にあたって必要なこと、難しい点、課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市は家庭訪問や面談を行い、本人が学校に来られるよう家庭に働きかけているが、保護者の理解が得られていない。

	事例2（祖父母と暮らすケース）
事例の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学2年女子。 ・ 高齢の祖母と中学生の姉、本人の3人家族。 ・ 近隣に住む「おば」が、時々訪問し、姉妹の面倒を見てくれている。 ・ 姉妹はしっかりした子ども達で、特に欠席はない。 ・ 家では姉妹で助け合い家事をしているが、祖母は高齢のため、学校への提出書類等の対応が困難で、保護者の承諾が必要な書類等の提出が遅れがち。 ・ 身だしなみが整っていない。
発見・支援までの経緯	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校において姉からの聞き取りを行った際に判明した。
SSW、SCの関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒指導部委員会において毎週SSWに参加してもらい、情報交換をしている。

3 中学校・中等教育学校・高等学校における
ヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査

困りごとを抱える生徒への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・市のケース会議において、市の福祉担当課、学校、教育委員会が情報共有し、市が福祉的支援に動いている。 ・姉は中学卒業後、寮がある高校に進学。弁護士なども関わり、祖母の施設入所を勧めている。 ・学校としては、生徒の様子を見て、声かけをしたり、「おば」へ電話連絡し、進路関係の情報提供などを行っている。
配慮していること	<ul style="list-style-type: none"> ・周りに気付かれないようさりげなく声掛けをしている。 ・担任や養護教諭など複数人で見守りをしている。
支援にあたって必要なこと、難しい点、課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だけでは支援が難しい。学校から支援を求めた上、市や教育委員会と連携し、福祉的な支援が必要。 ・本ケースはたまたま本人から相談があり、把握できたが、子ども達から家庭の状況を言うてくることは少なく、家庭内の状況把握が難しい。コロナの影響等もあり家庭訪問が無くなり、一層把握が難しくなっている。

事例3（きょうだいの多いケース）	
事例の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・中学3年女子。 ・父、母と5～6人きょうだい（高校生の姉、本人、幼稚園や乳児）の家族 ・子どもが多く、母親の育児や家事負担が大変であるため、姉と本人が家事や幼いきょうだいの世話を手伝っている。 ・本人は5月半ばから不登校。担任が家庭訪問し、本人と会えた際には、学校に行きたい、テストを受けたいなどの訴えがある。
発見・支援までの経緯	<ul style="list-style-type: none"> ・姉が在学中、姉の話から担任が家庭環境を把握していたため、本人が入学した際も話を引き継いでいた。 ・市の福祉担当課につなぎ、福祉的支援をメインに支援している。
S S W、S Cの関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・S S Wは今後関わってもらう予定。
困りごとを抱える生徒への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・担任が家庭訪問を継続している。 ・学校は生徒指導主事が調整担当となり、市の福祉担当課をはじめとして他機関と連携支援に取り組んでいる。
配慮していること	<ul style="list-style-type: none"> ・本人は自宅学習している様子であるため、家庭訪問をして、学校の様子を伝えている。
支援にあたって必要なこと、難しい点、課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だけでは家庭内の状況を把握しきれない。外部機関に把握をお願いしたい。 ・S S Wの派遣の回数を増やしてもらいたい。

	事例4（家族が病気のケース）
事例の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学3年女子。 ・ 父、母、姉、兄、本人の5人家族。 ・ 母親の通院の付き添いや入院手続きなどの世話をしていた。 ・ 母親は精神的に不安定で、通院、入院を繰り返していたが、現在、母親は保護され、家庭にはいない。 ・ 食事は、両親が準備してくれないため、自分（兄姉）で何とかしている。 ・ 現在は学校には来れていない。
発見・支援までの経緯	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校低学年まで市の子育て担当課の支援を受けていたが、その後解消されている。 ・ 中学2年時に母親が入院した際は、入院の手続きを本人が行ったようだ。 ・ 中学2年時に母親が入院したのをきっかけに学校を欠席しがちになり、ヤングケアラーと認知し、市の子育て担当課に再度つないだ。
SSW、SCの関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 父親、本人が希望しないため、未実施。 ・ 市の教育相談員とはつながっていた。
困りごとを抱える生徒への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市の子育て担当課と連携し、定期的に家庭訪問を実施している。 ・ 家庭へ定期的に電話連絡をしている。 ・ 必要に応じ、父親との面談を実施している。
配慮していること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生存確認を行っている。 ・ 家庭とのつながりと連絡が途切れないようにしている。
支援にあたって必要なこと、難しい点、課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者の理解・協力が得られないため、状況の把握・具体の支援が難しい。 ・ ネグレクトの傾向がみられるので、虐待も視野に入れて対応しなければいけない。

4 小学校におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査

4.1 小学校アンケート調査の実施概要

4.1.1 調査目的

県内市町村毎に1校抽出した44の公立小学校を対象に、ヤングケアラーへの対応を把握するためにアンケート調査を実施した。

4.1.2 実施時期

令和4年4月～7月

4.1.3 調査方法

茨城県内の小学校にメールにて調査回答フォームのURLを配布。Web上で回答、回収を実施。

4.1.4 回答状況

図表－ 232 回答状況

調査対象数	有効回答数	回答率
44	39	88.6%

4.2 学校調査の結果

4.2.1 学校の概要（回答者の役職）

回答者の役職は「副校長・教頭」が66.7%と最も高くなっている。

図表－ 233 回答者の役職

(%)

	校長	副校長・教頭	主幹・主任教諭	養護教諭	SSW・SC	生徒指導主事	その他（教諭等）	無回答
調査数（n=39）	5.1	66.7	7.7	0	0	10.3	7.7	2.6

4.2.2 支援が必要だと思われる子どもへの対応

① SSW、SCの派遣・配置状況

SSW（スクールソーシャルワーカー）の配置・派遣状況については「要請に応じて派遣される」が53.8%と最も高くなっている。また、SC（スクールカウンセラー）については「月に数回以下で派遣・配置されている」が92.3%で最も高くなっている。

図表－ 234 SSW・SCの配置・派遣状況（n=39）

(%)

	週に2～3回以上派遣・配置されている	週に1回程度派遣・配置されている	月に数回以下で派遣・配置されている	要請に応じて派遣される	その他	派遣・配置されていない	無回答
SSW	2.6	2.6	12.8	53.8	7.7	20.5	0
SC	0	5.1	92.3	0	2.6	0	0

② 校内で共有している子どものケース

校内で共有している子どものケースについては「学校を休みがちである」「精神的な不安定さがある」「遅刻や早退が多い」の割合が高くなっている。

図表－ 235 校内で共有している子どものケース（複数回答）

(%)

	調査数(n=39)
学校を休みがちである	84.6
遅刻や早退が多い	71.8
保健室で過ごしていることが多い	48.7
精神的な不安定さがある	76.9
身だしなみが整っていない	35.9
学力が低下している	46.2
宿題や持ち物の忘れ物が多い	41.0
保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い	51.3
学校に必要なものを用意してもらえない	41.0
修学旅行や宿泊行事等を欠席する	33.3
校納金が遅れる、未払い	53.8
その他	2.6

③ 情報共有・対応の検討体制

校内で共有している子どものケースについての情報共有・対応の検討体制については、「不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」が41.0%、「不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」が46.2%と同程度となっている。

図表－ 236 情報共有・対応の検討体制

(%)

	不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している	不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している	個別に対応している（決まった検討体制はない）	無回答
調査数 (n=39)	41.0	46.2	12.8	0.0

④ 校内の検討体制

「不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」・「不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」と回答した学校に対し、校内の情報共有・対応の検討体制について聞いた結果は以下のとおりである。

i. 情報共有・対応の検討方法

情報共有・対応の検討方法については、「ケース会議」が88.2%と最も高くなっており、次いで「生徒指導部・委員会など」「児童生徒理解・支援シートなど共通様式による情報共有」が61.8%となっている。

図表－ 237 情報共有・対応の検討方法(複数回答)

(%)

	スクリーニング会議	ケース会議	生徒指導部・委員会など	児童生徒理解・支援シートなど共通様式による情報共有	教育相談コーディネーターなど学校内・関係機関との連絡調整・会場開催の調整など児童生徒の抱える課題に向けて調整役として活動する教職員の配置・指名	その他
調査数 (n=34)	14.7	88.2	61.8	61.8	29.4	5.9

ii. 会議に参加する教職員、会議の頻度

情報共有・対応の検討方法で「スクリーニング会議」「ケース会議」「生徒指導部・委員会など」「その他」と回答した学校に、それぞれの会議の参加者、頻度を聞いた結果は以下のとおりである。

図表－ 238 会議の参加者（複数回答）

(%)

	調査数 (n)	校長	副校長・ 教頭	学年主任	担当教諭	生徒指導教諭	養護教諭	S S W	S C	外部の 関係機関	その他
スクリーニング会議	5	80.0	80.0	100	100	80.0	80.0	0	20.0	0	0
ケース会議	30	86.7	100	73.3	100	96.7	76.7	13.3	16.7	13.3	20.0
生徒指導部・委員会など	21	85.7	90.5	76.2	85.7	95.2	81.0	0	0	0	19.0
その他	2	100	100	100	100	50.0	100	0	0	0	0

図表－ 239 会議等の頻度

(%)

	調査数 (n)	1 週間に 1 回以上	月に 1 回程度	半年に 1 回程度	年に 1 回程度	無回答
スクリーニング会議	5	40.0	0	60.0	0	0
ケース会議	30	3.3	70.0	23.3	0	3.3
生徒指導部・委員会など	21	42.9	47.6	4.8	0	4.8
その他	2	50.0	0	0	0	50.0

⑤ 個別対応の場合の情報共有・対応の検討方法など

個別対応の場合の情報共有、対応の検討方法については、以下のような回答があった。

- ・月に1回の職員会議や企画会議等での情報共有および関係教職員による個別のケース会議
- ・週に1回の会議における情報共有や検討
- ・生徒指導主事や特別支援コーディネーターが、児童に関する担任や学年担当、養護教諭をメンバーとするケース会議を適宜開催、児童や家庭への支援について協議

⑥ 外部との情報共有・対応の検討体制

校内で共有している子どものケースについて学校以外の関係機関と連携する体制があるかどうか、また体制がある場合、連携する関係機関について聞いたところ、結果は以下のとおりである。

体制の有無については、「不登校のケース」の場合、「ある」の割合が高いが、「要対協の登録ケース」「それ以外のケース」の場合、「ある」「ない」の割合はほぼ同数となっている。

図表－ 240 体制の有無 (n=39)

(%)

	ある	ない	無回答
要対協の登録ケース	46.2	43.6	10.3
不登校のケース	87.2	7.7	5.1
それ以外のケース	43.6	46.2	10.3

連携する関係機関については、「要対協の登録ケース」の場合、「市町村教育委員会」「市町村の要対協の調整機関/虐待対応部門」の割合が高く、「不登校のケース」の場合、「市町村教育委員会」「教育支援センター」の割合が、「それ以外のケース」の場合、「市町村教育委員会」「市町村の福祉部門」の割合が高くなってる。

図表－ 241 関係機関 (複数回答)

(%)

	調査数 (n)	市町村教育委員会	市町村の福祉部門	市町村の保健部門	市町村の要対協の調整機関/虐待対応部門	教育支援センター	民間団体・施設	児童相談所	居宅介護支援事業所・地域包括支援センター	障がい者相談支援事業所	民生委員	病院	警察や刑事司法関係機関	その他
要対協の登録ケース	18	88.9	55.6	11.1	83.3	44.4	0	50.0	5.6	0	38.9	16.7	22.2	0
不登校のケース	34	79.4	32.4	5.9	14.7	82.4	2.9	26.5	0	0	32.4	2.9	2.9	0
それ以外のケース	17	88.2	76.5	17.6	11.8	17.6	0	35.3	0	0	35.3	5.9	17.6	0

4.2.3 ヤングケアラーについて

① ヤングケアラーの概念の認識

ヤングケアラーの概念の認識については、「言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない」の割合が53.8%と最も高く、次いで「言葉を知っており、学校として意識して対応している」が43.6%となっている。

図表－ 242 ヤングケアラーの概念の認識

(%)

	言葉を知らない	言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない	言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない	言葉を知っており、学校として意識して対応している	無回答
調査数 (n=39)	0.0	0.0	53.8	43.6	2.6

② ヤングケアラーの実態把握の状況

ヤングケアラーの概念について「言葉を知っており、学校として意識して対応している」と回答した学校に、子どもの実態把握の状況について聞いたところ、「把握している」は29.4%、「『ヤングケアラー』と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない」が11.8%となっている。

図表－ 243 ヤングケアラーの実態把握の状況

(%)

	把握している	「ヤングケアラー」と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない	該当する子どもはいない(これまでいなかっただ)
調査数 (n=17)	29.4	11.8	58.8

③ ヤングケアラーの把握方法

ヤングケアラーを「把握している」と回答した学校に、把握方法について聞いたところ、「特定のツールはないが、できるだけ『ヤングケアラー』の視点を持って検討・対応している」が60.0%となっており、「アセスメントシートやチェックリストなどのツールを用いている」は40.0%となっている。

図表－ 244 ヤングケアラーの把握方法

(%)

	アセスメントシートやチェックリストなどのツールを用いている	特定のツールはないが、できるだけ『ヤングケアラー』の視点を持って検討・対応している	その他
調査数 (n=5)	40.0	60.0	0

④ ヤングケアラーの定義に該当すると思われる子どもの有無

ヤングケアラーの定義を示したうえで、該当すると思われる子どもの有無について聞いたところ、「いる」が23.1%となっている。

図表－ 245 ヤングケアラーの定義に該当すると思われる子どもの有無

(%)

	いる	いない	わからない
調査数 (n=39)	23.1	51.3	25.6

⑤ ヤングケアラーの状況について

ヤングケアラーの定義に該当すると思われる子どもが「いる」と回答した学校に、ヤングケアラーと思われる子どもの状況について聞いた結果は以下のとおりである。

i. ヤングケアラーと思われる子どもの状況

ヤングケアラーと思われる子どもの状況について聞いたところ、「家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている」が66.7%と最も高く、次いで「家族の通訳をしている」が33.3%となっている。

図表－ 246 ヤングケアラーと思われる子どもの状況（複数回答）

(%)

	調査数 (n=9)
障がいや病気のある家族に代わり、家事をしている	0
家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている	66.7
家族の代わりに、障がいや病気のあるきょうだいの世話をしている	11.1
目の離せない家族の見守りや声掛けをしている	0
家族の通訳をしている	33.3
アルコール・薬物・ギャンブルなどの問題のある家族に対応している	0
病気の家族の看病をしている	0
障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている	0
障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている	0
その他	11.1

ii. 外部の支援につないだケースの有無

ヤングケアラーと思われる子どもについて、学校以外の外部の支援につないだケースがあるか聞いたところ、「要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある」「外部の支援にはつないでいない（学校内で対応している）」がそれぞれ44.4%となっている。

図表－ 247 外部の支援につないだケースの有無（複数回答）

(%)

	調査数 (n=9)
要対協に通告したケースがある	0
要対協に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある	44.4
外部の支援につないでいない	44.4
無回答	11.2

iii. 外部の支援につながらなかった理由・対応方法

外部の支援につながらなかったケースについて、つながらなかった理由と対応方法については、以下のような回答があった。

つながらなかった理由	対応方法
・外部の支援につなげるほどの状態ではない(学校生活を送ることができている)。	・外国人教育支援講師を通じて、保護者との連絡をとったり、家庭訪問を行ったりしている。
・欠席の理由が病欠なので、幼い妹の面倒を見ていると予想はできるが、確認できない。	・本人の話をよく聞き、SCの面談も入れている。
・母親の体調がすぐれない時のみ、弟たちの面倒を見ている様子であるため。	・本人の様子をよく観察し、声をかけるようにしている。
・今回のアンケート直前に疑いがあると認められたため。	・家庭訪問及び本人との面談で詳細を確認している。

iv. ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していること

ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していることについては、以下のような回答があった。

<ul style="list-style-type: none"> ・子供をよく観察し、小さな変化を見逃すことが無いよう全教職員で共通理解するとともに、何か異変があるときには複数の教職員で早期に対応する。 ・保護者との連絡を密にすること。 ・児童の理解に努めること(児童の様子の観察や児童との交流)。 ・家族で認めていないため、学校としてはアンケートや面談、本人の様子をよく見ていく。 ・毎月実施しているアンケートに自由記述欄を設ける。 ・生徒指導部会で児童の様子について情報交換をする。 ・PTAや地域と日ごろから気軽に話せる雰囲気を作る。 ・心配される(疑われる)児童に対し、日々の会話の中で家庭の話題を取り上げることを意識している。また、より多くの情報を得るために民生委員の協力を仰ぐ。

v. ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じること

ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じることについては、以下のような回答があった。

- ・家庭内のことが多くなるため、実態把握が困難である。
- ・外国籍家庭において、就学等に関する価値観のちがひ。
- ・家族が認めないこと。本人が学校に相談していないこと。
- ・保護者や本人から直接話を聞くことが難しく、実態の把握が困難であること。
- ・家庭内のデリケートな部分であるため、どの程度介入してよいのか判断が難しい。

⑥ ヤングケアラーがいるか「わからない」理由

ヤングケアラーの定義に該当すると思われる子どもがいるか「わからない」と回答した学校に、その理由を聞いたところ、「家庭内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい」が100%と全校が挙げており、次いで、「ヤングケアラーである子ども自身やその家族が『ヤングケアラー』という問題を認識していない」が上位となっている。

図表－ 248 ヤングケアラーの概念の認識（複数回答）

(%)

	学校において「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している	不登校やいじめなどに比べ緊急度が高くないため「ヤングケアラー」に関する実態の把握が後回しになる	家庭内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい	ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない	その他
調査数 (n=10)	20.0	10.0	100	60.0	0

⑦ ヤングケアラーを支援するために必要だと思うこと

ヤングケアラーを支援するために必要だと思うことについては、「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」「教職員がヤングケアラーについて知ること」「子どもが教員に相談しやすい関係をつくること」などが高くなっている。

図表－ 249 ヤングケアラーを支援するために必要だと思うこと（複数回答）

(%)

	調査数 (n=39)
子ども自身がヤングケアラーについて知ること	92.3
教職員がヤングケアラーについて知ること	94.9
学校にヤングケアラーが何人いるか把握すること	71.8
S S WやS Cなどの専門職の配置が充実すること	56.4
子どもが教員に相談しやすい関係をつくること	94.9
ヤングケアラーについて検討する組織を校内につくること	23.1
学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること	53.8
学校がヤングケアラーの支援について相談できる機関があること	56.4
ヤングケアラーを支援するN P Oなどの団体が増えること	25.6
福祉と教育の連携を進めること	28.2
その他	2.6
特にない	0

4.2.4 個別の事例

「要対協に通告したケース」「要対協に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース」について、直近のケースを1件ずつ聞いた結果は、以下のとおりである。なお、「要対協に通告したケース」については回答がなかった。

① 性別

性別については、男女の割合は半々となっている。

図表－ 250 性別

(%)

	学校以外の外部の (n=4)
女性	50.0
男性	50.0

② 学年

学年については、すべて「小学4～6年生」となっている。

図表－ 251 学年

(%)

	学校以外の外部の (n=4)
小学4～6年生	100
小学1～3年生	0

③ 学校生活の状況

学校生活の状況については、「学校を休みがちである」の割合が最も高く、次いで「学力が低下している」の割合が高くなっている。

図表－ 252 学校生活の状況（複数回答）

(%)

	学校以外の外部の支援 (n=4)
学校を休みがちである	75.0
遅刻や早退が多い	25.0
保健室で過ごしていることが多い	0
精神的な不安定さがある	25.0
身だしなみが整っていない	25.0
学力が低下している	50.0
宿題や持ち物の忘れ物が多い	25.0
保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い	25.0
学校に必要なものを用意してもらえない	25.0
修学旅行や宿泊行事を欠席する	25.0
校納金が遅れる、未払い	25.0
その他	25.0

④ 家族構成

家族構成については、「ひとり親家庭」の割合が最も高くなっている。

図表－ 253 家族構成

(%)

	学校以外の外部の支援 (n=4)
二世代世帯	0
三世代世帯	25.0
ひとり親家庭	50.0
その他	25.0

⑤ ケアの状況

i. ケアの状況の把握

ケアの把握については、「把握している」の割合が高くなっている。

図表－ 254 ケアの状況の把握

(%)

	学校以外の外部の支援 (n=4)
把握している	75.0
把握していない	25.0
無回答	0

ii. ケアを必要としている人

ケアを必要としている人については、「きょうだい」が最も高くなっている。

図表－ 255 ケアを必要としている人（複数回答）

(%)

	学校以外の外部の支援 (n=3)
父母	0.0
祖父母	0.0
きょうだい	66.7
その他	33.3

- iii. ケアを必要としている人の状況
ケアを必要としている人の状況については、すべて「幼い」となっている。

図表－ 256 ケアを必要としている人の状況（複数回答）

(%)

	学校以外の外部の支援 (n=3)
高齢（65歳以上）	0
幼い	100
要介護	0
認知症	0
身体障がい	0
知的障がい	0
精神疾患、依存症	0
精神疾患、依存症以外の病気	0
その他	0
日本語を第一言語としない	0
わからない	0
無回答	0

iv. ケアの内容

ケアの内容については、「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」が最も高く、次いで「家事」「身体的な介護」「わからない」となっている。

図表－ 257 ケアの内容（複数回答）

(%)

	学校以外の外部の支援 (n=3)
家事	33.3
きょうだいの世話や保育所等への送迎など	66.7
身体的な介護	33.3
外出の付き添い	0
通院の付き添い	0
感情面のサポート	0
見守り	0
通訳	0
金銭管理	0
薬の管理	0
その他	0
わからない	33.3
無回答	0

⑥ ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけ ※自由記述

- ・父が1ヶ月以上にも渡ってコロナに感染していると話す（虚言？）ため、児童が登校できなかった。
- ・母親の話から
- ・外部からの情報提供

⑦ つないだ機関・つなぎ方

- ・つないだ機関：市町村の福祉・子ども関連窓口、家庭教育相談員

図表－ 258 外部機関へのつなぎ方（複数回答）

(%)

	学校以外の外部の支援 (n=4)
市町村教育委員会経由	50.0
学校から直接連絡	50.0
その他	0.0
無回答	0.0

⑧ 学校で行った支援（要対協との連携も含めて）

- ・市町村窓口及び社会福祉協議会、市町村教育委員会
- ・保育園などへ入学サポートを依頼した

⑨ 支援した結果、子どもへの変化

- ・4月からは通常通り登校することができている
- ・幼稚園へ入ることができた

5 要保護児童対策地域協議会におけるヤングケアラーへの対応に 関するアンケート調査

5.1 要保護児童対策地域協議会アンケート調査の実施概要

5.1.1 調査目的

茨城県内市町村の要保護児童対策地域協議会（要対協）を対象に、「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態を把握するためにアンケート調査を実施した。

5.1.2 実施時期

令和4年4月～7月

5.1.3 調査方法

茨城県内市町村の要保護児童対策地域協議会に対し、メールにて調査回答フォームのURLを配布。Web上で回答、回収を実施。

5.1.4 回答状況

図表－ 259 回答状況

調査対象数	有効回答数	回答率
44	36	81.8%

5.2 要保護児童対策地域協議会アンケート調査結果

5.2.1 要保護児童対策地域協議会におけるケース登録件数について

要保護児童対策地域協議会における要保護・要支援児童・特定妊婦登録件数の合計は、2,883 件であった。また、ケース登録件数の最大値は 427 件、最小値は 0 件、平均は 80.1 件となっている。

また、要保護児童・要支援児童・特定妊婦登録件数のうち『「ヤングケアラー」と思われる子どもが 1 人以上いる』と回答したのは 19 自治体、合計 63 件となっており、約半数の自治体で『「ヤングケアラー」と思われる子どもがいる』と回答している。

図表－ 260 要保護児童対策地域協議会におけるケース登録件数

調査数 (n=36)	合計	最大値	最小値	平均
ケース登録件数合計	2,883 件	427 件	0 件	80.1 件
うち「ヤングケアラー」と思われる子どもの件数	63 件	6 件	0 件	1.8 件
「ヤングケアラー」と思われる子どもが 1 人以上いると回答した自治体数 19 自治体				
要保護児童ケース登録件数	1,192 件	405 件	0 件	33.1 件
うち「ヤングケアラー」と思われる子どもの件数	23 件	5 件	0 件	0.6 件
要支援児童ケース登録件数	1,510 件	286 件	0 件	41.9 件
うち「ヤングケアラー」と思われる子どもの件数	38 件	5 件	0 件	1.1 件
特定妊婦ケース登録件数	181 件	42 件	0 件	5.0 件
うち「ヤングケアラー」と思われる子どもの件数	2 件	2 件	0 件	0.1 件

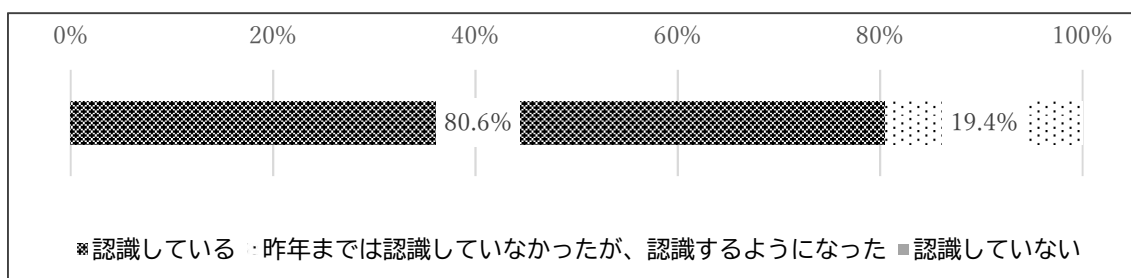
※最大値、最小値：要保護児童対策地域協議会ごとのケース登録件数で最も多い（少ない）協議会における登録件数

5.2.2 ヤングケアラーの認識について

① ヤングケアラーという概念の認識の有無

ヤングケアラーという概念の認識の有無については、「認識している」が80.6%、「昨年までは認識していなかったが、認識するようになった」が19.4%となっており、「認識していない」との回答はなかった。要対協におけるヤングケアラーという概念の認識については、良好である。

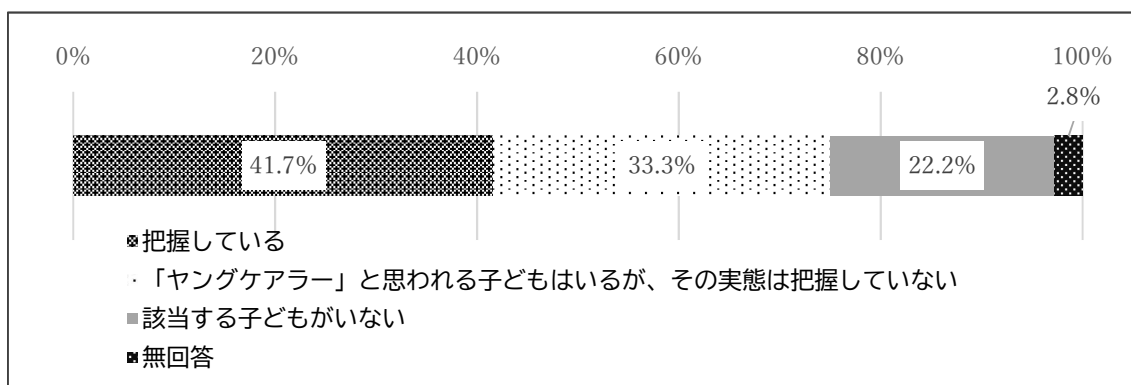
図表－ 261 ヤングケアラーという概念の認識の有無 (n=36)



② ヤングケアラーと思われる子どもの実態の把握

「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態の把握については、「把握している」が41.7%、「『ヤングケアラー』と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない」が33.3%、「該当する子どもがいない」が22.2%となっている。

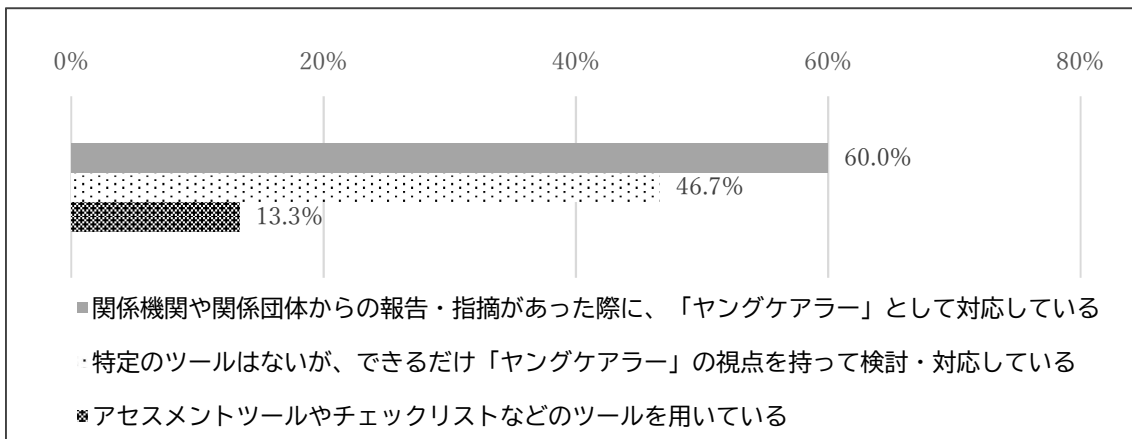
図表－ 262 ヤングケアラーと思われる子どもの実態の把握 (n=36)



③ ヤングケアラーと思われる子どもの実態の把握の方法

ヤングケアラーと思われる子どもの実態把握の方法については、「関係機関や関係団体からの報告・指摘があった際に、『ヤングケアラー』として対応している」が60.0%、「特定のツールはないが、できるだけ『ヤングケアラー』の視点を持って検討・対応している」が46.7%、「アセスメントツールやチェックリストなどのツールを用いている」が13.3%となっている。

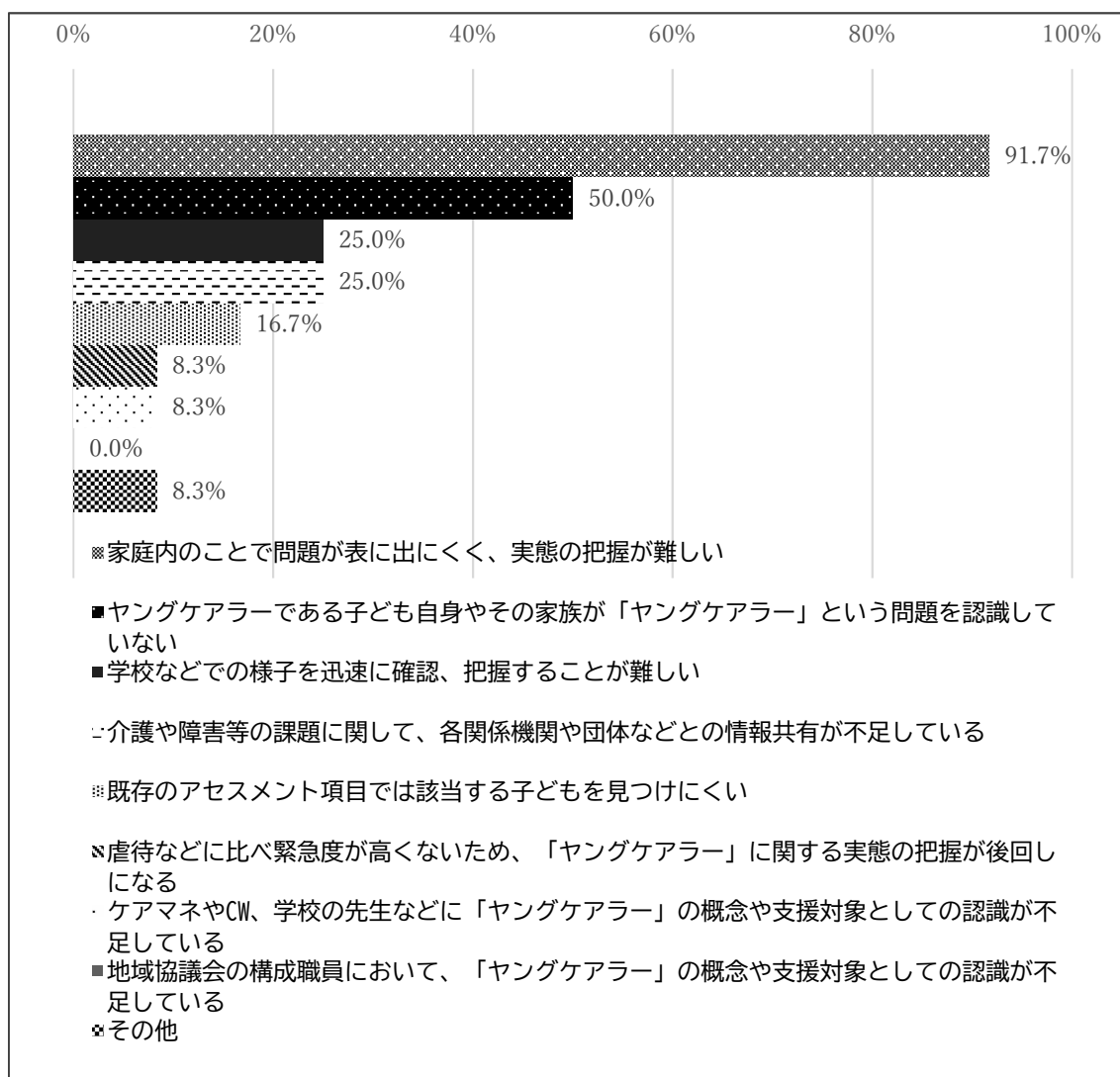
図表－ 263 「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態の把握方法（複数回答）（n=15）



④ ヤングケアラーと思われる子どもの実態を把握していない理由

ヤングケアラーと思われる子どもの実態を把握していない理由については、「家庭内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい」が91.7%と最も高く、次いで「ヤングケアラーである子ども自身やその家族が『ヤングケアラー』という問題を認識していない」が50.0%、「学校などでの様子を迅速に確認、把握することが難しい」が25.0%、「介護や障害等の課題に関して、各関係機関や団体などとの情報共有が不足している」が25.0%となっている。

図表－ 264 「ヤングケアラー」とと思われる子どもの実態を把握していない理由（複数回答）
(n=12)

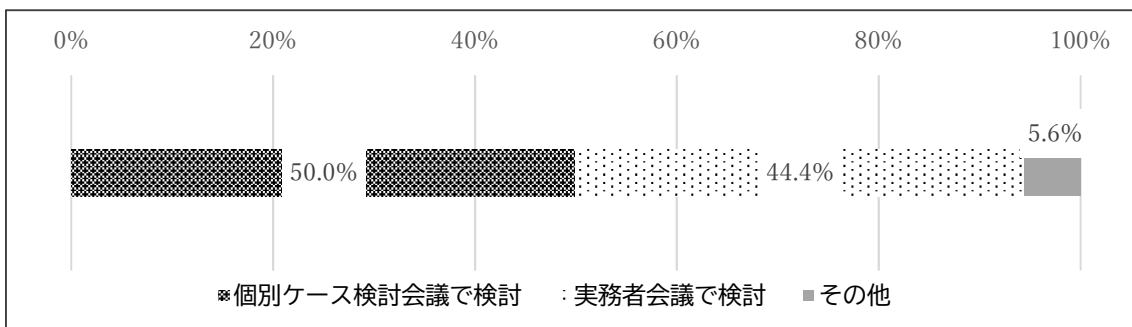


5.2.3 要保護児童対策地域協議会における登録児童について

① 要保護（要支援）児童への具体的な対応方針の検討の場

要保護（要支援）児童への具体的な対応方針の検討の場については、「個別ケース検討会議で検討」が50.0%、「実務者会議で検討」が44.4%、「その他」が5.6%となっている。

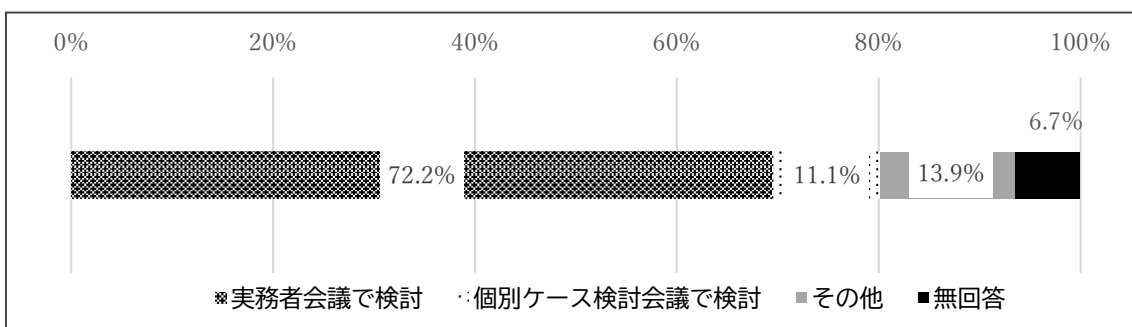
図表－ 265 要保護（要支援）児童への具体的な対応方針の検討の場（n=36）



② 要保護（要支援）児童への対応に関する進捗管理の場

要保護（要支援）児童への対応に関する進捗管理の場については、「実務者会議で検討」が72.2%、「個別ケース検討会議で検討」が11.1%、「その他」が13.9%となっている。

図表－ 266 要保護（要支援）児童への対応に関する進捗管理の場（n=36）

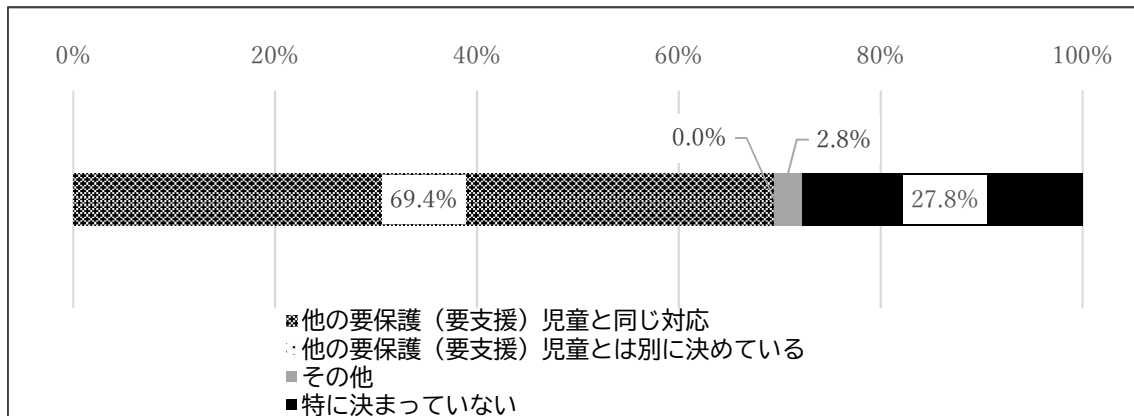


5.2.4 要保護（要支援）児童の中にヤングケアラーと思われる子どもがいた場合の対応

① ヤングケアラーと思われる子どもへの対応方針を決定する部署（機関）

要保護（要支援）児童の中にヤングケアラーと思われる子どもがいた場合、その子どもへの対応方針を決定する部署（機関）については、「他の要保護（要支援）児童と同じ対応」が 69.4%と最も高く、次いで「特に決まっていない」が 27.8%となっている。

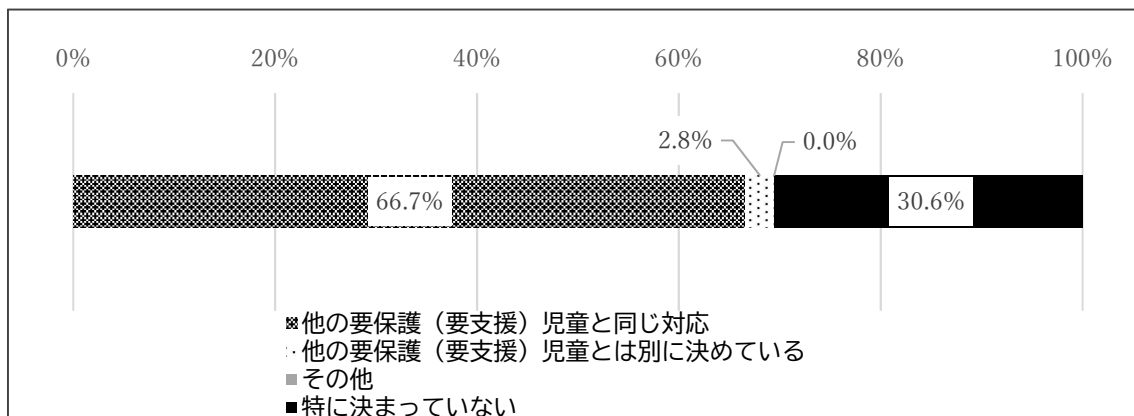
図表－ 267 ヤングケアラーと思われる子どもへの対応方針を決定する部署（機関）（n=36）



② ヤングケアラーと思われる子どもに対して、今後の対応等に関して意向把握をする人（部署・機関）

要保護（要支援）児童の中にヤングケアラーと思われる子どもがいた場合、その子どもに対して、今後の対応等に対して意向把握をする人（部署・機関）については、「他の要保護（要支援）児童と同じ対応」が 66.7%と最も高く、次いで「特に決まっていない」が 30.6%となっている。

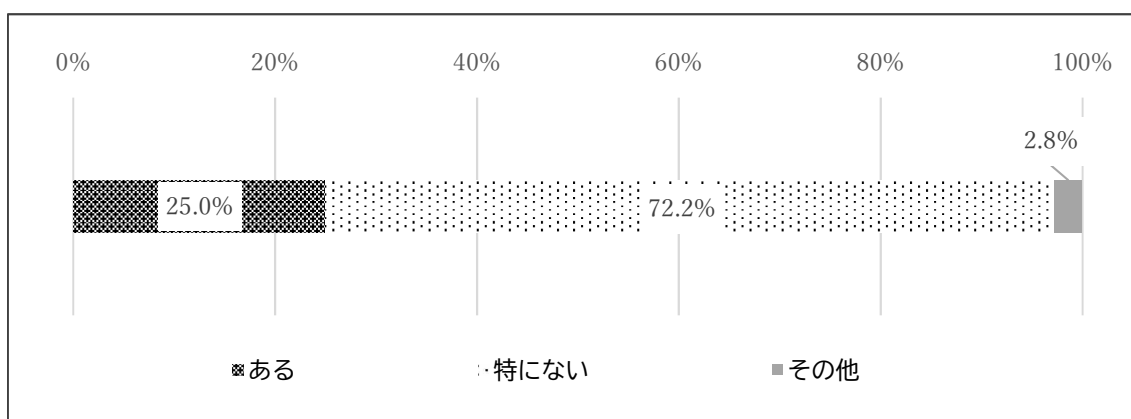
図表－ 268 ヤングケアラーと思われる子どもに対して、今後の対応等に関して意向把握をする人（部署・機関）（n=36）



③ ヤングケアラーと思われる子どもへの対応のため、学校との連携で工夫していることの有無

要保護（要支援）児童の中にヤングケアラーと思われる子どもがいた場合、その子どもへの対応のため、学校との連携で工夫していることの有無については、「ある」が25.0%、「特にない」が72.2%となっている。

図表－ 269 ヤングケアラーと思われる子どもへの対応のため、学校との連携で工夫していることの有無（n=36）



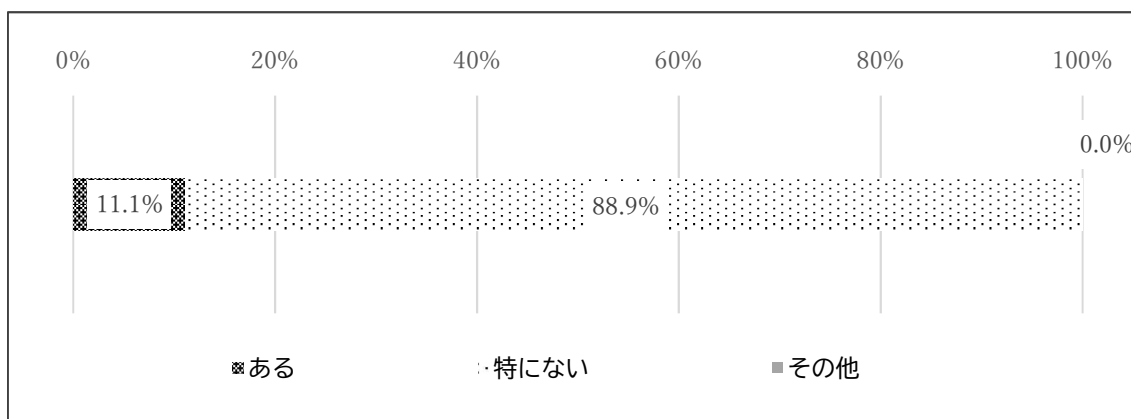
<工夫していること具体例>

- ・該当事案が発生した際には福祉部や教育委員会にて対応方針や役割分担を検討している。
- ・1週間以上欠席が続く場合や不登校の場合には、児童福祉担当へ報告してもらうようにしている。
- ・S S Wとの情報交換を定期的に行う。
- ・学校とのケース会議を開催し、導入できるサービスの検討を行う。
- ・学校との情報共有を行い、必要に応じて面談や家庭訪問を実施し、家族やサポートできる方たちの状況確認及び他機関と連携する。
- ・教育委員会指導課や学校と連携して情報を共有し、継続的な状況把握に努めている。
- ・子どもの話をよく聞いてもらう（役割・頻度等）とともに、親から困り感がうかがえた場合は相談先として早急につないでもらう（ヤングケアラーの線引きが難しいため）。
- ・学期ごとの学校訪問や電話連絡等で、子どもの状況を把握できるように情報共有を図っている。
- ・顔の見える関係づくりからの情報交換を行う。

④ ヤングケアラーと思われる子どもへの対応のため、医療機関との連携で工夫していることの有無

要保護（要支援）児童の中にヤングケアラーと思われる子どもがいた場合、その子どもへの対応のため、医療機関との連携で工夫していることの有無については、「ある」が11.1%、「特にない」が88.9%となっている。

図表－ 270 ヤングケアラーと思われる子どもへの対応のため、医療機関との連携で工夫していることの有無（n=36）



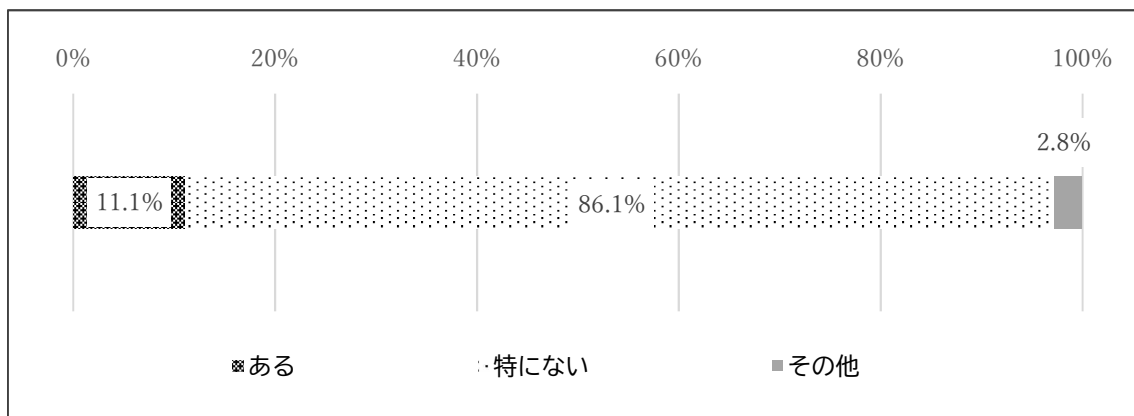
<工夫していること具体例>

- ・適宜、治療の状況を医師から確認し、子どもの見守りを強化するなど、保護者面接に活かす。
- ・個別ケース検討会議等において、支援方針の協議、共有を行う。
- ・不定期ではあるが、関係医療機関より情報提供を受けている。
- ・病院から積極的な情報提供を受ける。

⑤ ヤングケアラーと思われる子どもへの対応のため、通訳など日本語ができない保護者等への支援を行う関係機関との連携で工夫していることの有無

要保護（要支援）児童の中にヤングケアラーと思われる子どもがいた場合、その子どもへの対応のため、通訳など日本語ができない保護者等への支援を行う関係機関との連携で工夫していることの有無については、「ある」が11.1%、「特にない」が86.1%となっている。

図表－ 271 ヤングケアラーと思われる子どもへの対応のため、通訳など日本語ができない保護者等への支援を行う関係機関との連携で工夫していることの有無（n=36）



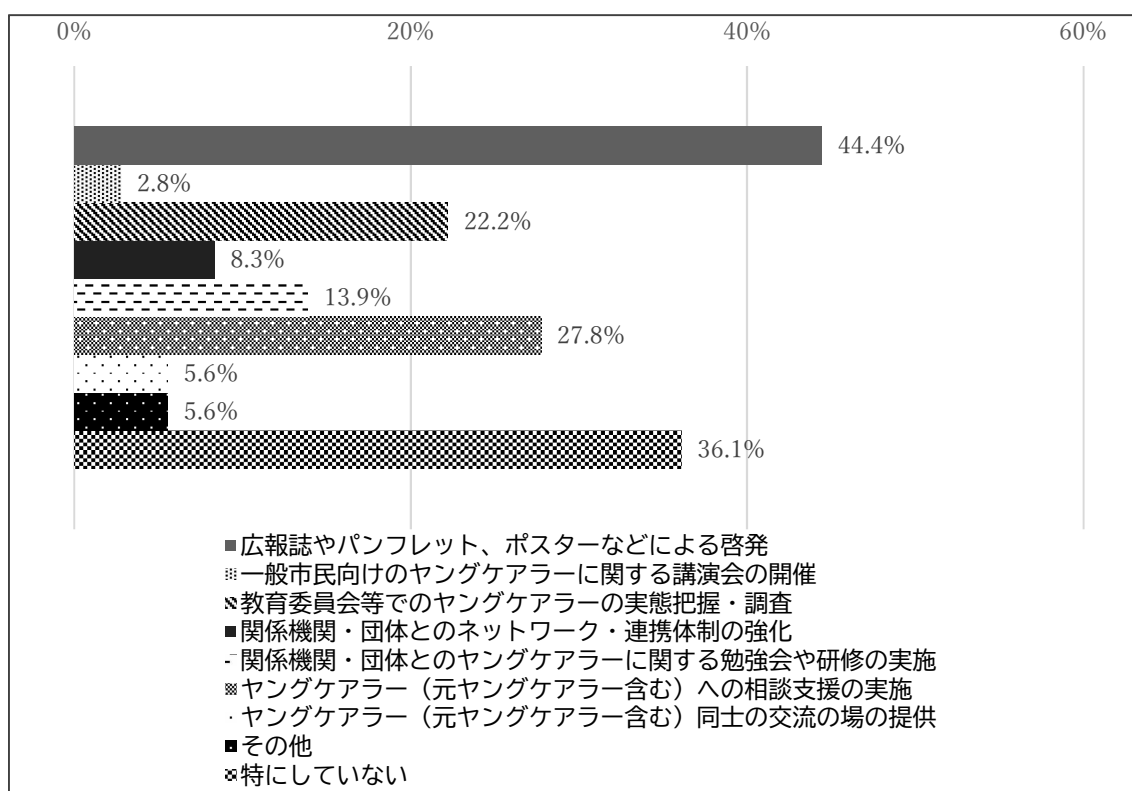
<工夫していること具体例>

- ・国際交流友の会に連絡をし、通訳を依頼している。
- ・外国人支援のボランティア団体を紹介する。
- ・情報共有をしたり、翻訳機等を使用する。
- ・三者間通話（外国人相談センター）を活用している。

5.2.5 ヤングケアラーに対する取組について

ヤングケアラーと思われる子どもの有無にかかわらず、要対協を設置している市町村で、ヤングケアラーに関する取組を行っているかについては、「広報誌やパンフレット、ポスターなどによる啓発」が44.4%、「ヤングケアラー（元ヤングケアラー含む）への相談支援の実施」が27.8%、「教育委員会等でのヤングケアラーの実態把握・調査」が22.2%と高い一方、「特にしていない」も36.1%となっている。

図表－ 272 ヤングケアラーに対する取組について（複数回答）（n=36）

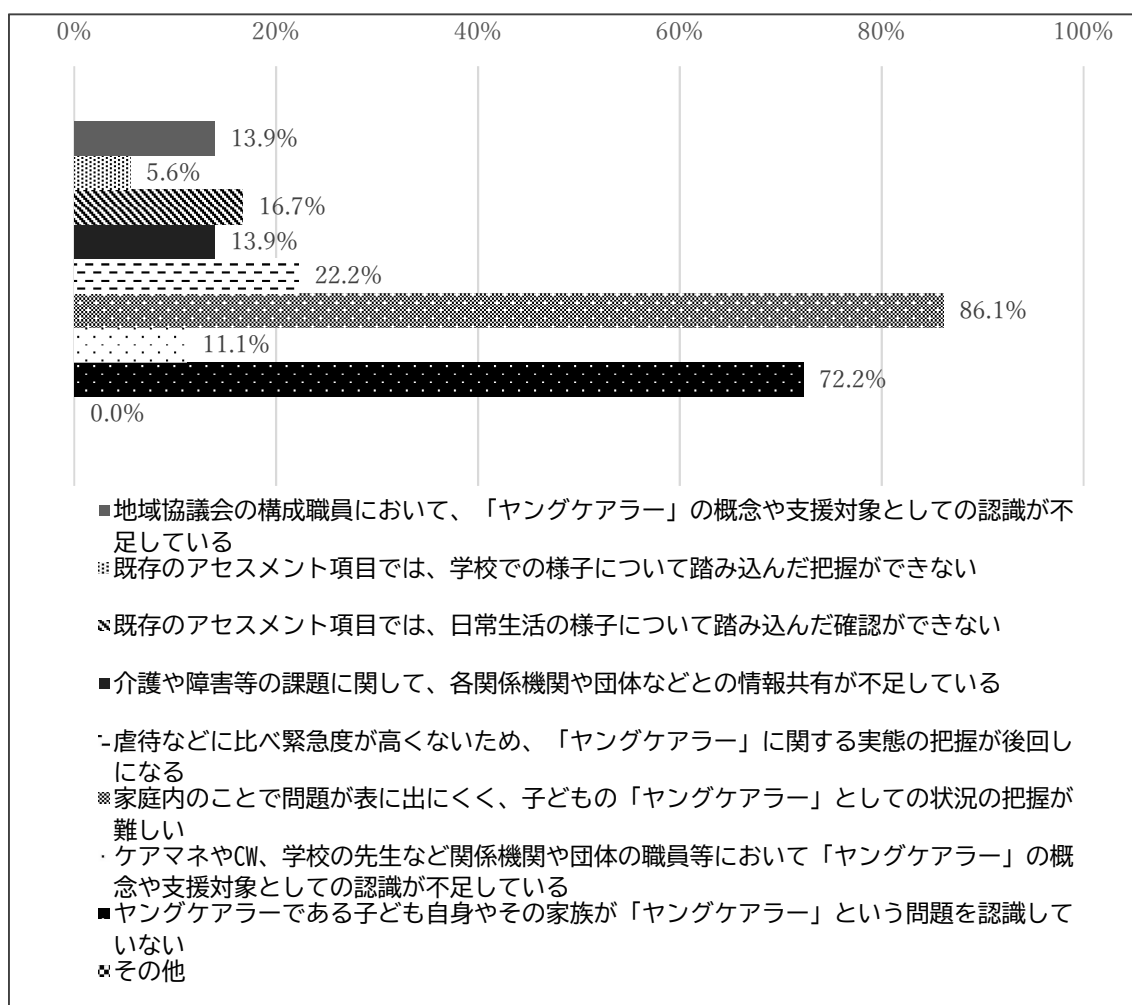


5.2.6 ヤングケアラーの早期発見や支援についての課題

① ヤングケアラーである可能性を早期に確認する上での課題

要対協において、相談、通告のあった子どもや登録されている子どもがヤングケアラーである可能性を早期に確認する上で、課題に感じることについては、「家庭内のことで問題が表に出にくく、子どもの『ヤングケアラー』としての状況の把握が難しい」が86.1%、「ヤングケアラーである子ども自身やその家族が『ヤングケアラー』という問題を認識していない」が72.2%と高くなっている。

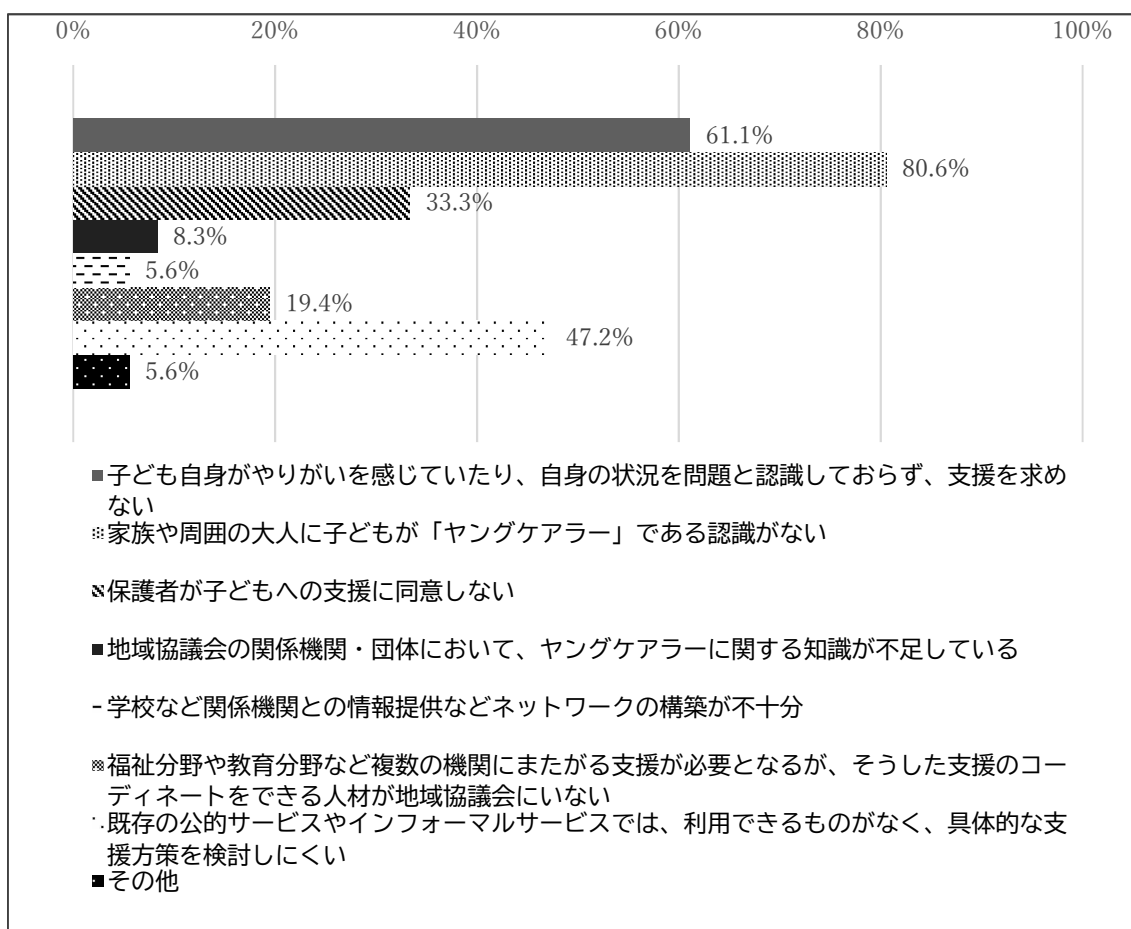
図表－ 273 ヤングケアラーである可能性を早期に確認する上での課題（複数回答）（n=36）



② ヤングケアラーと思われる子どもを支援する際の課題

要対協において、ヤングケアラーと思われる子どもに対して支援する際に課題として考えられることについては、「家族や周囲の大人に子どもが『ヤングケアラー』である認識がない」が80.6%、「子ども自身がやりがいを感じていたり、自身の状況を問題と認識しておらず、支援を求めている」が61.1%、「既存の公的サービスやインフォーマルサービスでは、利用できるものがなく、具体的な支援方を検討しにくい」が47.2%となっている。

図表－ 274 ヤングケアラーと思われる子どもを支援する際の課題（複数回答）（n=36）



5.2.7 ヤングケアラーと思われる子どもへの対応として関係機関に期待すること

要保護児童対策地域協議会において、ヤングケアラーと思われる子どもへの対応として関係機関に期待することについては、以下のような回答があった。

① 学校に対して期待すること

- ・各児童・生徒における家庭の実態やヤングケアラーの明確な把握と早期発見・情報共有
- ・児童の精神面のフォロー、困りごとや思いの傾聴、モニタリング
- ・調査等による支援が必要な子どもの確認と、各関係機関との情報共有、支援に関する協議
- ・学校生活の様子や保護者の態度等から教育を受ける権利が守られているかを確認
- ・ヤングケアラーと思われる子どもの学校での居場所づくり、相談しやすい環境の整備
- ・先入観で判断せず、家族の実態を確認したうえでの情報提供

② ケアが必要な家族に関わっている機関に対して期待すること

保育所・幼稚園などに対して期待すること

(きょうだいのお世話をしているヤングケアラー等の支援)

- ・ヤングケアラーと思われる子どもの早期発見と各関係機関への情報提供・連携支援
- ・保護者が相談しやすい関係・友好関係づくり
- ・送迎の保護者による実施を依頼することによる、家庭環境・状況の把握
- ・実態調査の実施
- ・児童の様子から家庭状況の実態把握・変化の把握
- ・子どもの精神的フォロー、困りごとや思いの傾聴、モニタリング
- ・きょうだい(小中学生等)が送迎をしている場合の家庭状況の確認と子供への負担軽減を考
えるための市町村への相談
- ・通院や受診、予防接種・身だしなみ等の清潔さから家庭での生活ぶりを判断

保健センターに対して期待すること

(きょうだいの世話、精神疾患の家族の世話をしているヤングケアラー等の支援)

- ・訪問等を通じた生活実態の適切な把握
- ・ヤングケアラーと思われる子どもの早期発見と情報共有・連携支援
- ・訪問日を増やすことによる実態把握
- ・友好関係を築き、協力してヤングケアラーと思われる子どもの早期発見・解決
- ・早期発見、家族への病状等の説明、必要なサービスの提案
- ・病院との情報共有と入院等の調整
- ・家族全体のアセスメント
- ・成人の医療の紹介や障害サービス等のサービスの調整、各種手当、年金受給に向けた支援
- ・乳幼児健診等を通じた実態の把握

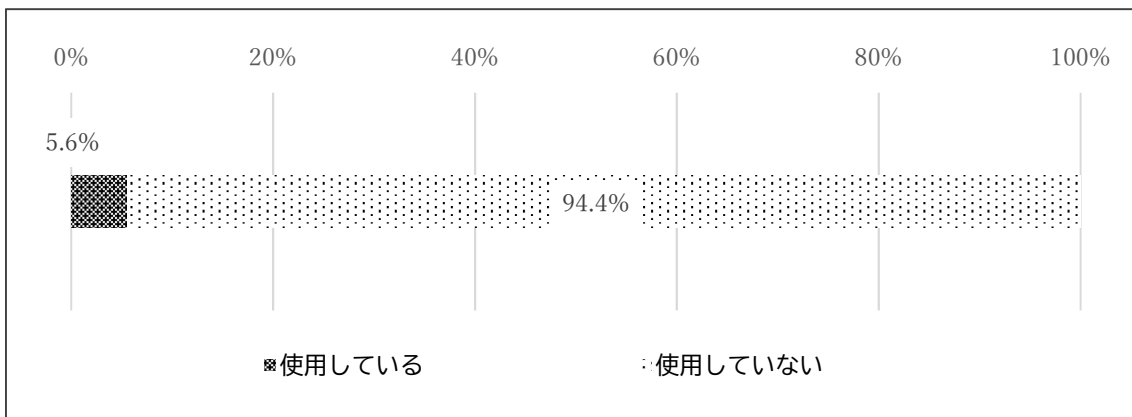
ケアマネなどに対して期待すること (高齢や認知症の家族介護等をしているヤングケアラー等の支援)
<ul style="list-style-type: none">・ 要支援児童・ヤングケアラーの早期発見と各関係機関への情報共有・連携・ 介護サービスの調整等、家族の介護負担軽減を図る・ 子どもがケアしなくてもよい体制づくりのための福祉サービスの調整・提供・ 家族全体のアセスメント・ 保護者の思いの傾聴、高齢者等家族が必要なサービスにつなぎ、子どもの負担を軽減・ 訪問等を通じた生活実態の適切な把握・ 友好関係を築き、協力してヤングケアラーと思われる子どもの早期発見・解決
医療機関などに対して期待すること (精神疾患等の家族の世話をしているヤングケアラー等の支援)
<ul style="list-style-type: none">・ 適切な医学的判断や助言、各関係機関との情報共有・連携・ ヤングケアラーと思われる子どもの早期発見と地域協議会への情報提供、子どもへの支援を行う際の協力体制、ソーシャルワーカーの介入検討・ ヤングケアラーの心のケア・ 患者の生活の様子から育児の様子を確認、児童に依存している場合は相談機関の案内・ 地域支援の視点を持ち、世帯情報の把握・ 医師を交えた、家族間調整の協議・ 家族との友好関係の構築、保護者支援

5.2.8 厚生労働省『ヤングケアラー』の早期発見のためのアセスメントシート』の 使用の有無

① 『ヤングケアラー』の早期発見のためのアセスメントシート』の使用の有無

厚生労働省が作成している『ヤングケアラー』の早期発見のためのアセスメントシート』の使用の有無については、「使用している」が5.6%、「使用していない」が94.4%となっている。

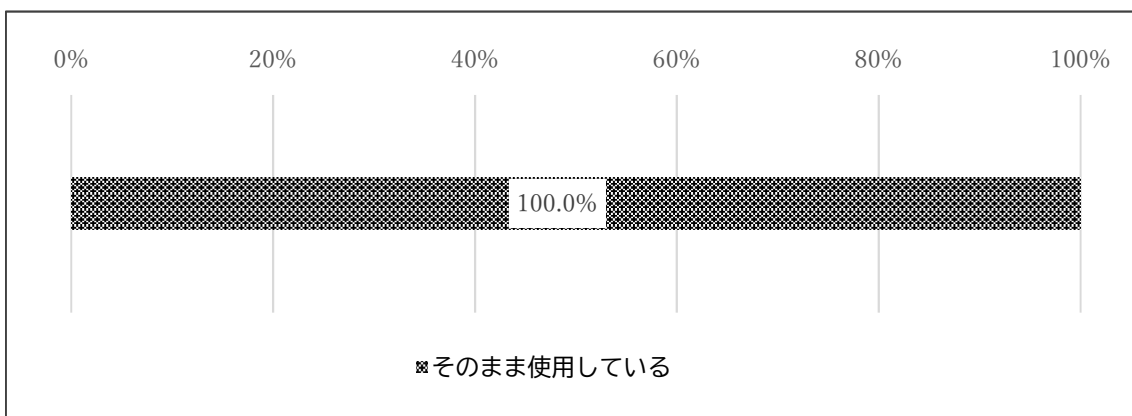
図表－ 275 『ヤングケアラー』の早期発見のためのアセスメントシート』の使用の有無
(n=36)



② 『ヤングケアラー』の早期発見のためのアセスメントシート』について

使用している「アセスメントシート』については、「そのまま使用している」が100%となっている。

図表－ 276 『ヤングケアラー』の早期発見のためのアセスメントシート』について (n=2)



6 資料編

6.1 中学生・中等教育学校・高校生向けアンケート票

1. 基本情報

Q1. あなたの学年を教えてください。（あてはまる番号1つを選択）
※中学には中等教育（前期）を含み、高校には中等教育（後期）を含みます。

- 1. 中学1年生
- 2. 中学2年生
- 3. 中学3年生
- 4. 高校1年生（年次）（全日制）
- 5. 高校2年生（年次）（全日制）
- 6. 高校3年生（年次）（全日制）
- 7. 高校1年生（定時制）
- 8. 高校2年生（定時制）
- 9. 高校3年生（定時制）
- 10. 高校4年生（定時制）
- 11. 高校1年生（通信制）
- 12. 高校2年生（通信制）
- 13. 高校3年生（通信制）
- 14. 高校4年生（通信制）
- 15. あてはまるものはない

Q2. あなたの性別を教えてください。（あてはまる番号1つを選択）

- 1. 男性
- 2. 女性
- 3. その他

Q3. 現在住んでいる市町村を教えてください。（プルダウンから選択）

選択してください

Q4. 現在一緒に住んでいる家族について教えてください。（あてはまる番号すべてを選択）

- （複数選択）
- 1. 母親
 - 2. 父親
 - 3. 祖母
 - 4. 祖父
 - 5. 元・姉
 人 （注）複数
 - 6. 弟・妹
 人 （注）複数
 - 7. その他

Q5. あなたの健康状態について教えてください。（あてはまるもの1つを選択）

- よい まあよい ふつう あまりよくない よくない
-

次へ

II. ふだんの生活についておうかがいします。

Q6. 学校への出席状況について教えてください。(あてはまるもの1つを選択)

- ほとんど欠席しない たまに欠席する よく欠席する

Q7. 学校の遅刻や早退の状況について教えてください。(あてはまる番号1つを選択)

- ほとんどしない たまにする よくする

Q8. 部活動(学校外での活動を含む)に参加していますか。(あてはまる番号1つを選択)

1. 参加している
 2. 参加していない

Q9. ふだんの学校生活等において、以下の中であてはまるものはありますか。(あてはまる番号すべてを選択)
(複数選択)

1. 授業中に居眠りすることが多い
 2. 宿題や課題ができていないことが多い
 3. 持ち物の忘れ物が多い
 4. 部活動や習い事を休むことが多い
 5. 提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い
 6. 修学旅行などの宿泊行事を欠席する
 7. 保健室で過ごすことが多い
 8. 学校では1人で過ごすことが多い
 9. 友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない
 10. 特にない

Q10. 現在、悩んだり困っていたりすることはありますか。(あてはまる番号すべてを選択)
(複数選択)

1. 友人との関係のこと
 2. 学業成績のこと
 3. 進路のこと
 4. 部活動のこと
 5. 学費(授業料)など学校生活に必要なお金のこと
 6. 塾(通信含む)や習い事ができない
 7. 家庭の経済的状況のこと
 8. 自分と家族との関係のこと
 9. 家族内の人間関係のこと(両親の仲が良くないなど)
 10. 病気や障がいのある家族のこと
 11. 自分のために使える時間が少ない
 12. その他

 13. 特にない

Q11.

Q10で1～12のいずれかを回答した方にお聞きします。回答した悩みや困りごとについて、相談に乗ってくれたり、話を聞いたりしてくれる人がいますか。(あてはまる番号1つを選択)

1. 相談相手や話を聞いてくれる人がいる
 2. 相談相手や話を聞いてくれる人がいない
 3. 相談や話はしたくない

戻る

次へ

III. 家庭や家族のことについておうかがいします。

Q12.

家庭の中にあなたがお世話をしている人はいますか。（ここで「お世話」とは、ふつう大人が行うような家事や家族の世話を指します。）（あてはまる番号1つを選択）

1. いる
 2. いない

Q12で「1. いる」と回答した方にお聞きします。お世話の状況について教えてください。

Q13.

お世話を必要としている方（あてはまる番号すべてを選択）
（複数選択）

1. 母親
 2. 父親
 3. 祖母
 4. 祖父
 5. きょうだい
 6. その他

（Q13で「1. 母親」と回答した方）お世話を必要としている方の状況やあなたがやっているお世話について教えてください。

Q14.

（Q13で「1. 母親」と回答した方）お世話を必要としている方の状況を教えてください。（あてはまる番号すべてを選択）

（複数選択）

1. 高齢（65歳以上）
 2. 要介護（介護が必要な状態）
 3. 認知症
 4. 身体障がい
 5. 知的障がい
 6. 精神疾患（せいしんしっかん）（うつ病などのこころの病気）※疑い含む
 7. 依存症（いそんしょう）（お酒やギャンブルなどをやめられず、生活に問題を抱えている）※疑い含む
 8. 6、7以外の病気
 9. その他

Q15.

（Q13で「1. 母親」と回答した方）あなたがやっているお世話の内容を教えてください。（あてはまる番号すべてを選択）

（複数選択）

1. 家事（食事の準備や掃除、洗濯）
 2. きょうだいの世話や保育所等への送迎など
 3. 身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）
 4. 外出の付きそい（買い物、散歩など）
 5. 通帳の付きそい
 6. 感情面のサポート（愚痴（ぐち）を聞く、話し相手になるなど）
 7. 見守り
 8. 通訳（日本語や手話など）
 9. 金銭管理
 10. 薬の管理
 11. その他

(Q13で「2. 父親」と回答した方) お世話を必要としている方の状況やあなたがやっているお世話について教えてください。

Q16.

(Q13で「2. 父親」と回答した方) お世話を必要としている方の状況を教えてください。(あてはまる番号すべてを選択)

(複数選択)

- 1. 高齢 (65歳以上)
- 2. 要介護 (介護が必要な状態)
- 3. 認知症
- 4. 身体障がい
- 5. 知的障がい
- 6. 精神疾患 (せいしんしっかん) (うつ病などのこころの病気) ※疑い含む
- 7. 依存症 (いそんしょう) (お酒やギャンブルなどをやめられず、生活に問題を抱えている) ※疑い含む
- 8. 6, 7以外の病気
- 9. その他

Q17.

(Q13で「2. 父親」と回答した方) あなたが行っているお世話の内容を教えてください。(あてはまる番号すべてを選択)

(複数選択)

- 1. 家事 (食事の準備や掃除、洗濯)
- 2. さょうだいの世話や保育所等への送迎など
- 3. 身体的な介護 (入浴やトイレのお世話など)
- 4. 外出の付きそい (買い物、散歩など)
- 5. 通院の付きそい
- 6. 感情面のサポート (愚痴 (ぐち) を聞く、話し相手になるなど)
- 7. 見守り
- 8. 通訳 (日本語や手話など)
- 9. 金銭管理
- 10. 薬の管理
- 11. その他

(Q13で「3. 祖母」と回答した方) お世話を必要としている方の状況やあなたがやっているお世話について教えてください。

Q18.

(Q13で「3. 祖母」と回答した方) お世話を必要としている方の状況を教えてください。(あてはまる番号すべてを選択)

(複数選択)

- 1. 高齢 (65歳以上)
- 2. 要介護 (介護が必要な状態)
- 3. 認知症
- 4. 身体障がい
- 5. 知的障がい
- 6. 精神疾患 (せいしんしっかん) (うつ病などのこころの病気) ※疑い含む
- 7. 依存症 (いそんしょう) (お酒やギャンブルなどをやめられず、生活に問題を抱えている) ※疑い含む
- 8. 6, 7以外の病気
- 9. その他

Q19.

(Q13で「3. 祖母」と回答した方) あなたが行っているお世話の内容を教えてください。(あてはまる番号すべてを選択)

(複数選択)

- 1. 家事 (食事の準備や掃除、洗濯)
- 2. さょうだいの世話や保育所等への送迎など
- 3. 身体的な介護 (入浴やトイレのお世話など)
- 4. 外出の付きそい (買い物、散歩など)
- 5. 通院の付きそい
- 6. 感情面のサポート (愚痴 (ぐち) を聞く、話し相手になるなど)
- 7. 見守り
- 8. 通訳 (日本語や手話など)
- 9. 金銭管理
- 10. 薬の管理
- 11. その他

(Q13で「4. 祖父」と回答した方) お世話を必要としている方の状況やあなたがやっているお世話について教えてください。

Q20.

(Q13で「4. 祖父」と回答した方) お世話を必要としている方の状況を教えてください。(あてはまる番号すべてを選択)

(複数選択)

- 1. 高齢 (65歳以上)
- 2. 要介護 (介護が必要な状態)
- 3. 認知症
- 4. 身体障がい
- 5. 知的障がい
- 6. 精神疾患 (せいしんしっかん) (うつ病などのこころの病気) ※疑い含む
- 7. 依存症 (いそんしょう) (お酒やギャンブルなどをやめられず、生活に問題を抱えている) ※疑い含む
- 8. 6.、7以外の病気
- 9. その他

Q21.

(Q13で「4. 祖父」と回答した方) あなたが行っているお世話の内容を教えてください。(あてはまる番号すべてを選択)

(複数選択)

- 1. 家事 (食事の準備や掃除、洗濯)
- 2. きょうだいの世話や保育所等への送迎など
- 3. 身体的な介護 (入浴やトイレのお世話など)
- 4. 外出の付きそい (買い物、散歩など)
- 5. 通院の付きそい
- 6. 感情面のサポート (愚痴 (ぐち) を聞く、話し相手になるなど)
- 7. 見守り
- 8. 通訳 (日本語や手話など)
- 9. 金銭管理
- 10. 薬の管理
- 11. その他

(Q13で「5. きょうだい」と回答した方) お世話を必要としている方の状況やあなたがやっているお世話について教えてください。

Q22.

(Q13で「5. きょうだい」と回答した方) お世話を必要としている方の状況を教えてください。(あてはまる番号すべてを選択)

(複数選択)

- 1. 幼い
- 2. 要介護 (介護が必要な状態)
- 3. 認知症
- 4. 身体障がい
- 5. 知的障がい
- 6. 精神疾患 (せいしんしっかん) (うつ病などのこころの病気) ※疑い含む
- 7. 依存症 (いそんしょう) (お酒やギャンブルなどをやめられず、生活に問題を抱えている) ※疑い含む
- 8. 6.、7以外の病気
- 9. その他

Q23.

(Q13で「5. きょうだい」と回答した方) あなたが行っているお世話の内容を教えてください。(あてはまる番号すべてを選択)

(複数選択)

- 1. 家事 (食事の準備や掃除、洗濯)
- 2. きょうだいの世話や保育所等への送迎など
- 3. 身体的な介護 (入浴やトイレのお世話など)
- 4. 外出の付きそい (買い物、散歩など)
- 5. 通院の付きそい
- 6. 感情面のサポート (愚痴 (ぐち) を聞く、話し相手になるなど)
- 7. 見守り
- 8. 通訳 (日本語や手話など)
- 9. 金銭管理
- 10. 薬の管理
- 11. その他

(Q13で「6. その他」と回答した方) お世話を必要としている方の状況やあなたが行っているお世話について教えてください。

Q24.

(Q13で「6. その他」と回答した方) お世話を必要としている方の状況を教えてください。(あてはまる番号すべてを選択)

(複数選択)

- 1. 高齢 (65歳以上)
- 2. 若い
- 3. 要介護 (介護が必要な状態)
- 4. 認知症
- 5. 身体障がい
- 6. 知的障がい
- 7. 精神疾患 (せいしんしつかん) (うつ病などのこころの病気) ※疑い含む
- 8. 依存症 (いそんしょう) (お酒やギャンブルなどをやめられず、生活に問題を抱えている) ※疑い含む
- 9. 7, 8 以外の病気
- 10. その他

Q25.

(Q13で「6. その他」と回答した方) あなたが行っているお世話の内容を教えてください。(あてはまる番号すべてを選択)

(複数選択)

- 1. 家事 (食事の準備や掃除、洗濯)
- 2. きょうだいの世話や保育所等への送迎など
- 3. 身体的な介護 (入浴やトイレのお世話など)
- 4. 外出の付きそい (買い物、散歩など)
- 5. 通院の付きそい
- 6. 感情面のサポート (愚痴 (ぐち) を聞く、話し相手になるなど)
- 7. 見守り
- 8. 通訳 (日本語や手話など)
- 9. 金銭管理
- 10. 薬の管理
- 11. その他

(Q12で「1. いる」と回答した方) お世話を必要としている方が複数いる場合も、それぞれの方ごとではなく一括でお答えください。

Q26. お世話は誰と行っていますか。(あてはまる番号すべてを選択)

(複数選択)

- 1. 母親
- 2. 父親
- 3. 祖母
- 4. 祖父
- 5. きょうだい
- 6. 親戚の人
- 7. 自分のみ
- 8. 福祉サービス (ヘルパーなど) を利用
- 9. その他

Q27.

お世話はいつから行っていますか。お世話を始めた年齢をお答えください (はっきりとわからない場合は、大体の年齢でかまいません)

歳

0文字 (7桁まで)

Q28. どのくらいお世話をしているか教えてください。(プルダウンから選択)

選択してください

Q29.

平日にお世話はどれくらい行っていますか。時間数をお答えください。（日によって異なる場合は、この1か月の中で最も長かった日の時間をお答えください）（プルダウンから選択）

選択してください

Q30.

お世話をしていることで、やりたいけど、できていないことはありますか。（あてはまる番号すべてを選択）

（複数選択）

- 1. 学校に行きたくても行けない
- 2. どうしても学校を遅刻・早退してしまう
- 3. 宿題をする時間や勉強する時間が取れない
- 4. 睡眠が十分に取れない
- 5. 友人と遊ぶことができない
- 6. 部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得なかった
- 7. 進路の変更を考へざるを得ない、もしくは進路を変更した
- 8. 自分の時間が取れない
- 9. その他
- 10. 特になし

Q31. お世話をすることにきつさを感じていますか。（あてはまる番号すべてを選択）

（複数選択）

- 1. 身体的にきつい
- 2. 精神的にきつい
- 3. 時間的余裕がない
- 4. 特にきつさを感じていない

Q32.

お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことはありますか。（あてはまる番号1つを選択）

- 1. ある
- 2. ない

Q33. Q32で「1. ある」と回答した方にお聞きます。それは誰ですか。（あてはまる番号すべてを選択）

（複数選択）

- 1. 家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）
- 2. 親戚（おじ、おばなど）
- 3. 友人
- 4. 学校の先生（保健室の先生以外）
- 5. 保健室の先生
- 6. スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー
- 7. 医師や看護師、その他病院の人
- 8. ヘルパーやケアマネ、福祉サービスの人
- 9. 役所や保健センターの人
- 10. 近所の人
- 11. SNS上での知り合い
- 12. その他

Q34.

Q32で「2. ない」と回答した方にお聞きます。相談していない理由を教えてください。（あてはまる番号すべてを選択）

（複数選択）

- 1. 誰かに相談するほどの悩みではない
- 2. 家族外の人に相談するような悩みではない
- 3. 誰に相談するのがよいかわからない
- 4. 相談できる人が身近にいない
- 5. 家族のここのため話しにくい
- 6. 家族のことを知られたくない
- 7. 家族に対して偏見（へんけん）を持たれたくない
- 8. 相談しても状況が変わるとは思わない
- 9. その他

Q35.

Q32で「2. ない」と回答した方にお聞きします。お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを聞いてくれる人はいますか。(あてはまる番号1つを選択)

- 1. いる
- 2. いない

Q36.

学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援はありますか。(あてはまる番号すべてを選択)
(複数選択)

- 1. 自分のいまの状況について話を聞いてほしい
- 2. 家族のお世話について相談にのってほしい
- 3. 家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい
- 4. 自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい
- 5. 自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい
- 6. 自由に使える時間がほしい
- 7. 進路や就職など将来の相談にのってほしい
- 8. 学校の勉強や受験勉強など学習のサポート
- 9. 家庭への経済的な支援
- 10. わからない
- 11. その他
- 12. 特にない

戻る
次へ

IV. ヤングケアラーについて

ヤングケアラーとは、「本来大人が担うと想定されている家事や家族のお世話などを日常的に行っていることにより、子ども自身がやりたいことができないなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる子ども」のことをいいます。



Q38.

あなたは上記イラストのような「ヤングケアラー」にあてはまると思いますが。(あてはまる番号1つを選択)

- 1. あてはまる
- 2. あてはまらない
- 3. わからない

Q39. 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありますか。（あてはまる番号1つを選択）

- 1. 聞いたことがあり、内容も知っている
- 2. 聞いたことはあるが、よく知らない
- 3. 聞いたことはない

Q40.

Q39で「1. 聞いたことがあり、内容も知っている」「2. 聞いたことはあるが、よく知らない」と回答した方にお聞きします。「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。（あてはまる番号すべてを選択）

(複数選択)

- 1. テレビや新聞、ラジオ
- 2. 雑誌や本
- 3. SNSやインターネット
- 4. 広報やチラシ、掲示物
- 5. イベントや交流会など
- 6. 学校
- 7. 友人・知人から聞いた
- 8. その他

Q41. ヤングケアラーへの支援を広げていくために必要だと思うことや要望等、ご自由にお書きください。

自由記述欄

0文字

戻る

次へ

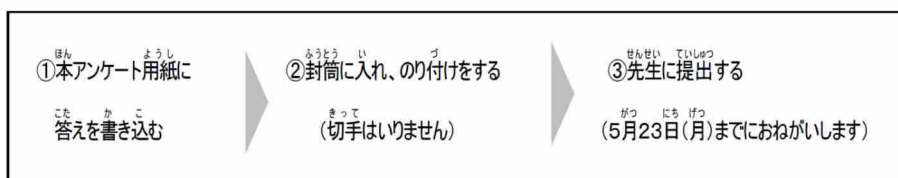
6.2 小学生向けアンケート票

このアンケート調査を受け取った6年生の皆様へ

- このアンケート調査は、あなたのふだんの生活や困りごとをお聞きし、どのような支援があった方がよいか考えるために行うものです。
- このアンケート調査を回答するかどうかはあなたの自由です。
- 調査は名前を書かずに行いますので、あなたの回答が誰かに知られることはありません。
- この調査は、茨城県の委託を受け株式会社常陽産業研究所が実施します。
- みなさんの回答一つひとつが大切な意見です。ぜひご協力をおねがいします。

回答にかかる時間：10～20分程度 回答のしめ切り：2022年5月23日(月)

【回答の手順】



(参考) 家族のお世話などについて悩みがある時に利用できる相談先のご案内

■ 24時間子供SOSダイヤル【文部科学省】

でんわばんごう とうわむりょう
電話番号:0120-0-78310(通話無料)

うけつけじかん ねんじゅうむきゅう じかんうけつけ
受付時間:年中無休24時間受付

■ 児童相談所相談専用ダイヤル【厚生労働省】

でんわばんごう とうわむりょう
電話番号:0120-189-783(通話無料)

うけつけじかん ねんじゅうむきゅう じかんうけつけ
受付時間:年中無休24時間受付

■ 子どもの人権110番【法務省】

でんわばんごう とうわむりょう
電話番号:0120-007-110(通話無料)

うけつけじかん へいじつ
受付時間:平日8:30-17:15

■ 子どもと家族の相談窓口【日本精神保健福祉士協会】

メールアドレス:kodomotokazoku@jamhsw.or.jp

うけつけじかん へいじつ
受付時間:平日8:30-17:15

■ 子どもホットライン【茨城県】

でんわばんごう
電話番号:029-221-8181

うけつけじかん まいにち じかんうけつけ
受付時間:毎日24時間受付

■ いばらき子どもSNS相談【茨城県】

<https://www.edu.pref.ibaraki.jp/board/qa/soudan/SNSsoudan.pdf>

まいにち
受付時間:毎日18:00-22:00

小学生の生活についてのアンケート調査

【 答 え 方 】

1. 答えは、問の後のあてはまる番号に○をつけてください。
2. 「その他」に○をした時は、()の中に自分で考えた答えを書いてください。
3. (あてはまる番号すべてに○)と書いている間は、思ったところすべてに○をつけてください。
4. 答えたくない間は答えず、次の間に進んでもかまいません。
5. このアンケートに回答することで、あなた個人が特定されたり、あなたの家族に連絡が入ったりすることはありませので、安心してお答えください。

I. 基本情報

問1. あなたの性別を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | | |
|------|------|--------|-----------|
| 1. 男 | 2. 女 | 3. その他 | 4. 答えたくない |
|------|------|--------|-----------|

問2. あなたが一緒に住んでいるのは誰ですか。(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|----------|--------------|
| 1. お母さん | 5. 兄・姉 ⇒()人 |
| 2. お父さん | 6. 弟・妹 ⇒()人 |
| 3. おばあさん | 7. その他() |
| 4. おじいさん | |

問3. あなたの健康状態について教えてください。(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|---------|------------|
| 1. よい | 4. あまりよくない |
| 2. まあよい | 5. よくない |
| 3. ふつう | |

II. ふだんの生活について

問4. あなたは学校を欠席したり、遅刻や早退をしたりすることがありますか。

① 欠席について（あてはまる番号1つに○）

- | | | |
|--------------|------------|-----------|
| 1. ほとんど欠席しない | 2. たまに欠席する | 3. よく欠席する |
|--------------|------------|-----------|

② 遅刻や早退について（あてはまる番号1つに○）

- | | | |
|------------|----------|---------|
| 1. ほとんどしない | 2. たまにする | 3. よくする |
|------------|----------|---------|

問5. 放課後、習い事などをしていますか。（あてはまる番号1つに○）

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

問6. ふだんの学校生活などにおいて、以下の中であてはまるものはありますか。

（あてはまる番号すべてに○）

- | | |
|---------------------|-----------------------------|
| 1. 授業中に寝てしまうことが多い | 6. 修学旅行などの宿泊行事を欠席する |
| 2. 宿題ができていないことが多い | 7. 保健室で過ごすことが多い |
| 3. 持ち物の忘れ物が多い | 8. 学校では一人で過ごすことが多い |
| 4. 習い事を休むことが多い | 9. 友達と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない |
| 5. 提出物を出すのが遅れることが多い | 10. 特にない |

問7. あなたが悩んでいることはありますか。（あてはまる番号すべてに○）

- | | |
|-------------|----------------------|
| 1. 友達のこと | 5. 生活や勉強に必要なお金のこと |
| 2. 学校の成績のこと | 6. 自分のために使える時間が少ないこと |
| 3. 習い事のこと | 7. その他() |
| 4. 家族のこと | 8. 特にない |

問8. 問7でどれかに○をつけた人にお聞きします。○をつけた悩みについて、話を聞いてくれる人はいますか。（あてはまる番号1つに○）

- | | | |
|-------|--------|------------|
| 1. いる | 2. いない | 3. 話はしたくない |
|-------|--------|------------|

Ⅲ. 家庭や家族のことについて

問9. 家族の中にあなたが世話をしている人はいますか。(ここで「お世話」とは、ふつう大人が行うような家事や家族のお世話を指します。)(あてはまる番号1つに○)

1. いる	2. いない ⇒ ここで回答は終わりです。 どうもありがとうございました。
-------	--

問10. 問9で「1.いる」と答えた人にお聞きします。あなたは誰に、どのようなお世話をしていますか。

①あなたがお世話をしている人(あてはまる番号すべてに○)

1. お母さん	3. おばあさん	5. きょうだい
2. お父さん	4. おじいさん	6. その他()

- 「1.お母さん」「2.お父さん」を選んだ人は②-aへ
- 「3.おばあさん」「4.おじいさん」を選んだ人は②-bへ
- 「5.きょうだい」を選んだ人は②-cへ
- 「6.その他」を選んだ人は②-dへ

※お世話をしている人が何人かいる場合には、それぞれについてお答えください。

②お世話を必要としている人の状況について教えてください。

②-a 「お母さん、あるいはお父さん」をお世話している人にお聞きします。それはどのような理由ですか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 高齢(65歳以上)	7. 依存症(お酒やギャンブルなどがやめられず、生活に問題を抱えている)※疑い含む
2. 介護(食事や身の回りのお世話)が必要	8. 6, 7以外の病気
3. 認知症	9. 日本語が苦手
4. 身体障がい	10. その他()
5. 知的障がい	11. わからない
6. こころの病気(うつ病など)※疑い含む	

②-b 「おばあさん、あるいはおじいさん」をお世話している人にお聞きします。それはどのような理由
 ですか。（あてはまる番号すべてに○）

1. 高齢(65歳以上)	7. 依存症(お酒やギャンブルなどがやめられず、 生活に問題を抱えている)※疑い含む
2. 介護(食事や身の回りのお世話)が必要	8. 6, 7以外の病気
3. 認知症	9. 日本語が苦手
4. 身体障がい	10. その他()
5. 知的障がい	11. わからない
6. こころの病気(うつ病など)※疑い含む	

②-c 「きょうだい」をお世話している人にお聞きします。それはどのような理由ですか。（あては
 まる番号すべてに○）

1. 若い	5. 病気
2. 介護(食事や身の回りのお世話)が必要	6. 日本語が苦手
3. 身体障がい	7. その他()
4. 知的障がい	8. わからない

②-d 「その他」の人をお世話している人にお聞きします。それはどのような理由ですか。（あてはまる番号すべてに○）

1. 高齢(65歳以上)	8. 依存症(お酒やギャンブルなどがやめられず、生活に問題を抱えている)※疑い含む
2. 若い	9. 7, 8以外の病気
3. 介護(食事や身の回りのお世話)が必要	10. 日本語が苦手
4. 認知症	11. その他()
5. 身体障がい	12. わからない
6. 知的障がい	
7. こころの病気(うつ病など)※疑い含む	

③あなたはどのようなお世話をしていますか。お世話をしている人が何人かいる場合には、あてはまる番号すべてに○をしてください。

1. 家事(食事の準備や掃除、洗濯)	7. 見守り
2. きょうだいのお世話や送り迎え	8. 通訳(日本語や手話など)
3. 入浴やトイレのお世話	9. お金の管理
4. 買い物や散歩と一緒にいく	10. 薬の管理
5. 病院へ一緒に行く	11. その他()
6. 話を聞く	

- ④あなたはお世話を誰と一緒にしていますか。何人かお世話をしている人がいる場合には、あてはまる番号すべてに○をしてください。

1. お母さん	6. しんせきの人
2. お父さん	7. 自分のみ
3. おばあさん	8. 福祉サービス(ヘルパーなど)を利用
4. おじいさん	9. その他()
5. きょうだい	

- ⑤あなたは何才からお世話をしていますか。(はっきりとわからない場合は、大体の年でかまいません)

()才から

- ⑥あなたはどのくらいお世話をしていますか。(あてはまる番号1つに○)

1. ほぼ毎日	3. 週に1～2日	5. その他()
2. 週に3～5日	4. 1ヶ月に数日	

- ⑦あなたは平日何時間くらいお世話をしていますか。(日によって違う場合は、この1ヶ月でいちばん長かった日の時間を教えてください)

1日()時間くらい

問11. お世話をしていることで、以下のような経験をしたことはありますか。

(あてはまる番号すべてに○)

1. 学校を休んでしまう	6. 習い事ができない
2. 遅刻や早退をしてしまう	7. 自分の時間がとれない
3. 宿題など勉強する時間がない	8. その他()
4. 眠る時間がたりない	9. 特にない
5. 友だちと遊ぶことができない	

問12. お世話をすることに大変さを感じていますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 体力の面で大変	3. 時間の余裕がない
2. 気持ちの面で大変	4. 特に大変さは感じていない

問13. あなたがお世話をしている家族のことや、お世話の悩みについて誰かに相談したことはありますか。(あてはまる番号1つに○)

1. ある ⇒ 問14へ	2. ない ⇒ 問15へ
--------------	--------------

問14. 問13で「1. ある」と回答した人にお聞きします。それは誰ですか。

(あてはまる番号すべてに○)

1. 家族(お父さん、お母さん、おじいさん おばあさん、きょうだい)	6. スクールソーシャルワーカーや スクールカウンセラー
2. しんせき(おじ、おばなど)	7. 病院・医療・福祉サービスの人
3. 友だち	8. 近所の人
4. 学校の先生(保健室の先生以外)	9. SNS上での知り合い
5. 保健室の先生	10. その他()

問15. 問13で「2. ない」と回答した人にお聞きします。相談していない理由を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

1. 相談するほどの悩みではないから	4. 家族のことを話したくないから
2. 誰に相談するのがよいかわからないから	5. 相談しても何も変わらないから
3. 相談できる人がいないから	6. その他()

問16. 問13で「2. ない」と回答した人にお聞きします。あなたがお世話をしている家族のことや、お世話の悩みを聞いてくれる人はいますか。(あてはまる番号1つに○)

1. いる	2. いない
-------	--------

問17. 学校や周りの大人にしてもらいたいことはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 自分について話を聞いてほしい	
2. 家族のお世話について相談にのってほしい	
3. 家族の病気や障がい、お世話のことなどについてわかりやすく説明してほしい	
4. 自分が行っているお世話のすべてを誰かに代わってほしい	
5. 自分が行っているお世話の一部を誰かに代わってほしい	
⇒具体的にどんなお世話、もしくはどんな時ですか()	
6. 自由に使える時間がほしい	9. その他()
7. 勉強を教えてください	10. 特になし
8. お金の面で支援してほしい	11. わからない

→「1. 自分について話を聞いてほしい」「2. 家族のお世話について相談にのってほしい」を

選んだ人は問18へ

→それ以外の人は問19へ

問18. 問17で「1. 自分^{じぶん}のことについて話^{はなし}を聞いてほしい」「2. 家族^{かぞく}のお世話^{せわ}について相談^{そうだん}のっ
てほしい」と回答^{かいとう}した人^{ひと}にお聞き^きします。どのような方法^{ほうほう}で話^{はなし}を聞いたり相談^{そうだん}のったり
してほしいですか。(あてはまる番号^{ばんごう}すべてに○)

1. 直接 ^{ちよくせつ} 会 ^あ つて	3. SNS	5. その他 ^た ()
2. 電話 ^{でんわ}	4. 電子 ^{でんし} メール	

問19. 家族^{かぞく}のお世話^{せわ}をしている子ども^このために、必要^{ひつよう}だと思^{おも}うことや、学校^{がっこう}や周り^{まわ}の大人^{おとな}にしても
らいたいこと(問17で書き^かきれなかったことなど)を自由^{じゆう}に書^かいてください。

家族のお世話をすることは、とても価値のある大切なことです。

ただ、お世話の負担が大きいと気持ちや体力の面で大変な思いをすることがあるかもしれません。

あなた自身、あるいは友だちなどで、家族のお世話をすることで悩みや心配なことがある場合には、学校の先生や、

スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーへ相談してください。

また、調査についての説明のページに記した相談先にいつでも連絡してください。

アンケートにご協力いただき、どうもありがとうございました。

6.3 中学校・中等教育学校・高等学校におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート票

中学校・中等教育学校・高等学校における ヤングケアラーへの対応に関するアンケート

I. 基本情報

問1. ご回答された方の役職をお教えてください。(あてはまる番号1つを選択)

- | |
|---|
| 1. 校長 2. 副校長・教頭 3. 主幹・主任教諭 4. 養護教諭
5. スクールソーシャルワーカー(SSW) 6. スクールカウンセラー(SC) 7. その他() |
|---|

問2. 貴校の学校区分をお教えてください。(あてはまる番号1つを選択)

- | |
|--|
| 1. 中学校(義務教育学校 後期課程を含む) 2. 中等教育学校 3. 高等学校(全日制)
4. 高等学校(定時制) 5. 高等学校(通信制) 6. 高等学校(全日制・定時制 併設)
7. 高等学校(全日制・通信制 併設) 8. 高等学校(定時制・通信制 併設)
9. 高等学校(全日制・専攻科 併設) |
|--|

→問2で3～9と回答された方は、単位制の有無を選択してください (あてはまる番号1つを選択)

- | |
|---------------------|
| 1. あり 2. 一部あり 3. なし |
|---------------------|

問3. 貴校の所在地をお教えてください。(44市町村からプルダウンで選択)

問4. 貴校の生徒の在籍者数をお教えてください。(令和4年5月1日時点)(n人)

※通信制高等学校の場合は、県内在住の生徒の在籍者数をお教えてください。

II. 支援が必要だと思われる子どもへの対応についてお伺いします。

問5. SSW、SCの派遣・配置状況をお伺いします。

(1) SSWの派遣・配置状況 (あてはまる番号1つを選択)

- | |
|--|
| 1. 週に2～3回以上派遣・配置されている 2. 週に1回程度派遣・配置されている
3. 月に数回以下で派遣・配置されている 4. 要請に応じて派遣される 5. その他()
6. 派遣・配置されていない |
|--|

(2) SSWの派遣・配置状況 (あてはまる番号1つを選択)

- | |
|--|
| 1. 週に2～3回以上派遣・配置されている 2. 週に1回程度派遣・配置されている
3. 月に数回以下で派遣・配置されている 4. 要請に応じて派遣される 5. その他()
6. 派遣・配置されていない |
|--|

問6. 下記の子どもについて校内で共有しているケースはありますか。
(あてはまる番号すべてを選択)

- | |
|---|
| 1. 学校を休みがちである 2. 遅刻や早退が多い 3. 保健室で過ごしていることが多い
4. 精神的な不安定さがある 5. 身だしなみが整っていない 6. 学力が低下している
7. 宿題や持ち物の忘れ物が多い
8. 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い
9. 学校に必要なものを用意してもらえない 10. 部活を途中でやめてしまった
11. 修学旅行や宿泊行事を欠席する 12. 校納金が遅れる、未払い
13. その他() |
|---|

問7. 問6のケースについて、どのような体制で情報共有・対応の検討を行っていますか。
最も多いケースでご回答ください。(あてはまる番号1つを選択)

- | |
|---|
| 1. 不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している → 問8へ
2. 不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している → 問8へ
3. 個別に対応している(決まった検討体制はない) → 問9へ |
|---|

問8. 問7で「1. 不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」、「2. 不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」と回答した方にお伺いします。校内ではどのような体制で情報共有・対応を行っていますか。

(1) 情報共有・対応の検討の方法等(あてはまる番号すべてを選択)

- | |
|--|
| 1. スクリーニング会議(※) 2. ケース会議 3. 生徒指導部・委員会など
4. 児童生徒理解・支援シートなど共通様式による情報共有
5. 教育相談コーディネーターなど学校内・関係機関との連絡調整・会議開催など児童生徒の抱える課題の解決に向けて調整役として活動する教職員の配置・指名 6. その他 |
|--|

※すべての子どもを対象として、問題の未然防止のために、データに基づいて、潜在的に支援が必要な子どもや家庭を適切な支援につなぐための迅速な識別を行う会議。

(2) (1)で「1. スクリーニング会議」と回答した方にお伺いします。どの教職員が参加していますか。(あてはまる番号すべてを選択)

- | |
|--|
| 1. 校長 2. 副校長・教頭 3. 学年主任 4. 担当教諭 5. 生徒指導教諭 6. 養護教諭
7. SSW 8. SC 9. 外部の関係機関() 10. その他() |
|--|

(3) (1)で「1. スクリーニング会議」と回答した方にお伺いします。会議の頻度はどれくらいですか。(あてはまる番号1つを選択)

- | |
|---|
| 1. 2週間に1以上 2. 月に1回程度 3. 半年に1回程度 4. 年に1回程度 |
|---|

(4) (1)で「2. ケース会議」と回答した方にお伺いします。どの教職員が参加していますか。(あてはまる番号すべてを選択)

- | |
|--|
| 1. 校長 2. 副校長・教頭 3. 学年主任 4. 担当教諭 5. 生徒指導教諭 6. 養護教諭
7. SSW 8. SC 9. 外部の関係機関() 10. その他() |
|--|

(5) (1)で「2. ケース会議」と回答した方にお伺いします。会議の頻度はどれくらいですか。(あてはまる番号1つを選択)

- | |
|---|
| 1. 2週間に1以上 2. 月に1回程度 3. 半年に1回程度 4. 年に1回程度 |
|---|

(6) (1)で「3. 生徒指導部・委員会など」と回答した方にお伺いします。どの教職員が参加していますか。(あてはまる番号すべてを選択)

- | |
|--|
| 1. 校長 2. 副校長・教頭 3. 学年主任 4. 担当教諭 5. 生徒指導教諭 6. 養護教諭
7. SSW 8. SC 9. 外部の関係機関() 10. その他() |
|--|

(7) (1)で「3. 生徒指導部・委員会など」と回答した方にお伺いします。会議の頻度はどれくらいですか。(あてはまる番号1つを選択)

1. 2週間に1以上 2. 月に1回程度 3. 半年に1回程度 4. 年に1回程度

(8) (1)で「6. その他」と回答した方にお伺いします。「その他」の具体的な内容を入力してください。(自由記述)

(9) (1)で「6. その他」と回答した方にお伺いします。どの教職員が参加していますか。(あてはまる番号すべてを選択)

1. 校長 2. 副校長・教頭 3. 学年主任 4. 担当教諭 5. 生徒指導教諭 6. 養護教諭
7. SSW 8. SC 9. 外部の関係機関() 10. その他()

(10) (1)で「6. その他」と回答した方にお伺いします。会議の頻度はどれくらいですか。(あてはまる番号1つを選択)

1. 2週間に1以上 2. 月に1回程度 3. 半年に1回程度 4. 年に1回程度

問9. 問7で「3. 個別に対応している(決まった検討体制はない)」と回答した方にお伺いします。問6のケースについて貴校ではどのような体制・方法で情報共有・対応の検討を行っていますか。関わる教職員、情報共有や検討の方法、頻度等について、具体的にお教えください。(自由記述)

問10 問6のケースについて、学校以外の関係機関と連携して、必要に応じて情報共有や対応の検討を行うための体制がありますか。(A)～(C)のケースについてお教えください。

【A】要保護児童対策地域協議会の登録ケース

(1) 体制の有無をお教えください。(あてはまる番号1つを選択)

1. ある 2. ない

(2) (1)で体制が「ある」と回答した方にお伺いします。連携体制がある場合は、連携する関係機関を選択してください。(あてはまる番号すべてを選択)

1. 県教育委員会 2. 市町村教育委員会 3. 市町村の福祉部門(5を除く)
4. 市町村の保健部門 5. 市町村の要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門
6. 教育支援センター(適応指導教室) 7. フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設
8. 児童相談所 9. 民生委員 10. 病院 11. 警察や刑事司法関係機関
12. その他()

【B】不登校のケース

(1) 体制の有無をお教えください。(あてはまる番号1つを選択)

1. ある 2. ない

(2) (1)で体制が「ある」と回答した方にお伺いします。連携体制がある場合は、連携する関係機関を選択してください。(あてはまる番号すべてを選択)

1. 県教育委員会 2. 市町村教育委員会 3. 市町村の福祉部門(5を除く)
4. 市町村の保健部門 5. 市町村の要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門
6. 教育支援センター(適応指導教室) 7. フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設
8. 児童相談所 9. 民生委員 10. 病院 11. 警察や刑事司法関係機関
12. その他()

【C】それ以外のケース

(1) 体制の有無をお教えください。(あてはまる番号1つを選択)

1. ある 2. ない

(2) (1) で体制が「ある」と回答した方にお伺いします。連携体制がある場合は、連携する関係機関を選択してください。(あてはまる番号すべてを選択)

1. 県教育委員会 2. 市町村教育委員会 3. 市町村の福祉部門(5を除く)
 4. 市町村の保健部門 5. 市町村の要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門
 6. 教育支援センター(適応指導教室) 7. フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設
 8. 児童相談所 9. 民生委員 10. 病院 11. 警察や刑事司法関係機関
 12. その他()

Ⅲ. ヤングケアラーについてお伺いします。

問11. 貴校では「ヤングケアラー」という概念を認識していますか。(あてはまる番号1つを選択)

1. 言葉を知らない → 問14へ
 2. 言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない → 問14へ
 3. 言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない → 問14へ
 4. 言葉を知っており、学校として意識して対応している → 問12へ

問12. 問11で「4. 言葉を知っており、学校として意識して対応している」と回答した方にお伺いします。「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態を把握していますか。(あてはまる番号1つを選択)

1. 把握している → 問13へ
 2. 「ヤングケアラー」と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない → 問14へ
 3. 該当する子どもはいない(これまでいなかった) → 問14へ

問13. 問12で「1. 把握している」と回答した方にお伺いします。「ヤングケアラー」と思われる子どもをどのように把握していますか。(あてはまる番号1つを選択)

1. アセスメントシートやチェックリストなどのツールを用いている
 2. 特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を持って検討・対応している
 3. その他()

問14. ヤングケアラーを把握していない方も含め、全員にお伺いします。

下記のヤングケアラーの定義や状態像を踏まえて、以下の設問にお答えください。

※ヤングケアラーたちは、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っていることにより、学べない、やりたいことができないなど、「子どもの権利」が守られない可能性があり、適切な支援が必要です。

ヤングケアラーの定義を見て、現在、貴校にヤングケアラーと思われる(可能性も含めて)子どもはいますか。(あてはまる番号1つを選択)

1. いる → 問15へ 2. いない → 問17へ 3. わからない → 問16へ

問15. 問14で「1. いる」と回答した方にお伺いします。

- (1) ヤングケアラーと思われる子どもの状況は次のうちどれですか。(あてはまる番号すべてを選択)

- | |
|---|
| 1. 障がいや病気のある家族に代わり、家事(買い物、料理、洗濯、掃除など)をしている
2. 家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている
3. 家族の代わりに、障がいや病気のあるきょうだいの世話をしている
4. 目の離せない家族の見守りや声掛けをしている
5. 家族の通訳をしている(日本語や手話など)
6. 家計を支えるために、アルバイト等をしている
7. アルコール・薬物・ギャンブルなどの問題のある家族に対応している
8. 病気の家族の看病をしている 9. 障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている
10. 障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている 11. その他() |
|---|

- (2) ヤングケアラーと思われる子どもについて、具体的に学校以外の外部(教育委員会、役所、要保護児童対策地域協議会など)の支援につないだケースはありますか。(あてはまる番号すべてを選択)

- | |
|---|
| 1. 要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある → (3)へ
2. 要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある → (4)へ
3. 外部の支援にはつないでいない(学校内で対応している) → (5)へ |
|---|

- (3) 問14 (2) で「1. 要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある」と回答した方にお伺いします。該当する直近のケースについてお教えてください。

①性別

- | |
|--------------------|
| 1. 女性 2. 男性 3. その他 |
|--------------------|

②学年

- | |
|--|
| 1. 中学1年生 2. 中学2年生 3. 中学3年生 4. 高校1年生 5. 高校2年生
6. 高校3年生 7. 高校4年生 8. 中等教育1年生 9. 中等教育2年生
10. 中等教育3年生 11. 中等教育4年生 12. 中等教育5年生 13. 中等教育6年生 |
|--|

③学校生活の状況(あてはまる番号すべてを選択)

- | |
|---|
| 1. 学校を休みがちである 2. 遅刻や早退が多い 3. 保健室で過ごしていることが多い
4. 精神的な不安定さがある 5. 身だしなみが整っていない 6. 学力が低下している
7. 宿題や持ち物の忘れ物が多い
8. 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い
9. 学校に必要なものを用意してもらえない 10. 部活を途中でやめてしまった
11. 修学旅行や宿泊行事を欠席する 12. 校納金が遅れる、未払い
13. その他() |
|---|

④家族構成(あてはまる番号すべてを選択)

- | |
|--|
| 1. 母親 2. 父親 3. 祖母 4. 祖父 5. きょうだい 6. その他() |
|--|

⑤家庭でのケアの状況

◎ケアの状況を把握しているか。

1. はい → 「はい」の場合、ケアの具体的な内容 2. いいえ

a) ケアを必要としている人 (あてはまる番号すべてを選択)

1. 母親 2. 父親 3. 祖母 4. 祖父 5. きょうだい 6. その他()

b) ケアを必要としている人の状況 (あてはまる番号すべてを選択)

1. 高齢(65歳以上) 2. 若い 3. 要介護(介護が必要な状態) 4. 認知症
5. 身体障がい 6. 知的障がい 7. 精神疾患(疑い含む) 8. 依存症(疑い含む)
9. 7.8以外の病気 10. 日本語を第一言語としない 11. その他()
12. わからない

c) ケアの内容 (あてはまる番号すべてを選択)

1. 家事(食事の準備や掃除、洗濯) 2. きょうだいの世話や保育所等への送迎など
3. 身体的な介護(入浴やトイレのお世話など) 4. 外出の付き添い(買い物、散歩など)
5. 通院の付き添い 6. 感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど) 7. 見守り
8. 通訳(日本語や手話など) 9. 金銭管理 10. 薬の管理 11. その他()
12. わからない

⑥ヤングケアラーと気付いた理由・きっかけ (自由記述)

⑦要保護児童対策地域協議会への通告ルート

1. 市町村教育委員会経由 2. 学校から直接連絡 3. その他()

⑧学校が行った支援等 (要対協との連携も含めて) (自由記述)

⑨支援した結果、子どもへの変化 (自由記述)

(4) 問15 (2) で「2. 要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある」と回答した方にお伺いします。該当する直近のケースについてお教えください。

①性別

1. 女性 2. 男性 3. その他

②学年

1. 中学1年生 2. 中学2年生 3. 中学3年生 4. 高校1年生 5. 高校2年生
6. 高校3年生 7. 高校4年生 8. 中等教育1年生 9. 中等教育2年生
10. 中等教育3年生 11. 中等教育4年生 12. 中等教育5年生 13. 中等教育6年生

③学校生活の状況(あてはまる番号すべてを選択)

1. 学校を休みがちである 2. 遅刻や早退が多い 3. 保健室で過ごしていることが多い
4. 精神的な不安定さがある 5. 身だしなみが整っていない 6. 学力が低下している
7. 宿題や持ち物の忘れ物が多い
8. 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い
9. 学校に必要なものを用意してもらえない 10. 部活を途中でやめてしまった
11. 修学旅行や宿泊行事を欠席する 12. 校納金が遅れる、未払い
13. その他()

④家族構成(あてはまる番号すべてを選択)

1. 母親 2. 父親 3. 祖母 4. 祖父 5. きょうだい 6. その他()

⑤家庭でのケアの状況

◎ケアの状況を把握しているか。

1. はい → 「はい」の場合、ケアの具体的な内容 2. いいえ

a)ケアを必要としている人 (あてはまる番号すべてを選択)

1. 母親 2. 父親 3. 祖母 4. 祖父 5. きょうだい 6. その他()

b)ケアを必要としている人の状況 (あてはまる番号すべてを選択)

1. 高齢(65歳以上) 2. 幼い 3. 要介護(介護が必要な状態) 4. 認知症
5. 身体障がい 6. 知的障がい 7. 精神疾患(疑い含む) 8. 依存症(疑い含む)
9. 7.8以外の病気 10. 日本語を第一言語としない 11. その他()
12. わからない

c)ケアの内容 (あてはまる番号すべてを選択)

1. 家事(食事の準備や掃除、洗濯) 2. きょうだいの世話や保育所等への送迎など
3. 身体的な介護(入浴やトイレのお世話など) 4. 外出の付き添い(買い物、散歩など)
5. 通院の付き添い 6. 感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど) 7. 見守り
8. 通訳(日本語や手話など) 9. 金銭管理 10. 薬の管理 11. その他()
12. わからない

⑥ヤングケアラーと気付いた理由・きっかけ (自由記述)

⑦つないだ機関 (自由記述)

⑧外部機関へのつながり方

1. 市町村教育委員会経由 2. 学校から直接連絡 3. その他()

⑨学校が行った支援等 (つなぎ先との連携も含めて) (自由記述)

⑩支援した結果、子どもへの変化 (自由記述)

(5) 問15 (2) で「3. 外部の支援にはつないでいない(学校内で対応している)」と回答した方にお伺いします。外部の支援につながった理由を教えてください。また、どのように対応しているのか教えてください。

【理由】 【対応方法】 (自由記述)

(6) ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していること、気を付けていることはどのようなことですか。具体的にお答えください。(自由記述)

(7) ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じることはどのようなことですか。具体的にお答えください。(自由記述)

(8) 問6の選択肢は、「ヤングケアラー」と思われる子どもを把握するためのチェック項目として作成したのですが、追加すべき項目や、分かりにくい点や案があればお書きください。

【ご意見】【変更項目案】【追加項目案】（自由記述）

<参考：問6の選択肢>

1. 学校を休みがちである
2. 遅刻や早退が多い
3. 保健室で過ごしていることが多い
4. 精神的な不安定さがある
5. 身だしなみが整っていない
6. 学力が低下している
7. 宿題や持ち物の忘れ物が多い
8. 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い
9. 学校に必要なものを用意してもらえない
10. 部活を途中でやめてしまった
11. 修学旅行や宿泊行事を欠席する
12. 校納金が遅れる、未払い
13. その他()

問16 問14で「3. 分からない」と回答した方にお伺いします。その理由をお教えてください。

(あてはまる番号すべてを選択)

1. 学校において、「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している
2. 不登校やいじめなどに比べ緊急度が高くないため、「ヤングケアラー」に関する実態の把握が後回しになる
3. 家庭内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい
4. ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない
5. その他()

問17 全員にお伺いします。ヤングケアラーを支援するために、必要だと思うことはどのようなことですか。(あてはまる番号すべてを選択)

1. 子ども自身がヤングケアラーについて知ること
2. 教職員がヤングケアラーについて知ること
3. 学校にヤングケアラーが何人いるか把握すること
4. SSWやSCなどの専門職の配置が充実すること
5. 子どもが教員に相談しやすい関係をつくること
6. ヤングケアラーについて検討する組織を校内につくること
7. 学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること
8. 学校がヤングケアラーの支援について相談できる機関があること
9. ヤングケアラーを支援するNPOなどの団体が増えること
10. 福祉と教育の連携を進めること()
11. その他()
12. 特にない

問17ヤングケアラーに関してご自由に意見をお書きください。(自由記述)

★学校での取組についてヒアリングを予定しています。ヒアリングにご協力いただける場合は、次の項目を入力してください。別途、ご連絡させていただきます。

①所在地(住所) ②学校名 ③連絡先：電話番号 ④連絡先：メールアドレス

ヤングケアラーの子どもは、「宿題や忘れ物が多い」「授業中に疲れて眠ってしまう」といった普段とは違う様子が見られることに学校の先生が気づいたことで、支援につながる例が多くあります。

子どもがケアを担っている家庭には、それぞれ様々な事情があり、適切な支援を行うにはスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー、要保護児童対策地域協議会などに加え、医療や介護、福祉分野の関係機関との連携も必要となるかもしれません。

ヤングケアラーを支援するための仕組みづくりは多くの自治体で緒に就いたばかりかと思いますが、子どもたちの権利が守られるよう、ご支援賜りたくお願い申し上げます。

アンケートにご回答いただき、誠にありがとうございました。

(下の「回答」ボタンをクリックしてください。)

6.4 小学校におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート票

小学校におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート

I. 基本情報

問1. ご回答された方の役職をお教えてください。(あてはまる番号1つを選択)

- | |
|---|
| 1. 校長 2. 副校長・教頭 3. 主幹・主任教諭 4. 養護教諭
5. スクールソーシャルワーカー(SSW) 6. スクールカウンセラー(SC) 7. その他() |
|---|

問2. 貴校の所在地をお教えてください。(44市町村からプルダウンで選択)

問3. 貴校の6年生の在籍者数をお教えてください。(令和4年5月1日時点) (n人)

II. 支援が必要と思われる子どもへの対応についてお伺いします。

問4. SSW、SCの派遣・配置状況をお伺いします。

(1) SSWの派遣・配置状況 (あてはまる番号1つを選択)

- | |
|--|
| 1. 週に2～3回以上派遣・配置されている 2. 週に1回程度派遣・配置されている
3. 月に数回以下で派遣・配置されている 4. 要請に応じて派遣される 5. その他()
6. 派遣・配置されていない |
|--|

(2) SCの派遣・配置状況 (あてはまる番号1つを選択)

- | |
|--|
| 1. 週に2～3回以上派遣・配置されている 2. 週に1回程度派遣・配置されている
3. 月に数回以下で派遣・配置されている 4. 要請に応じて派遣される 5. その他()
6. 派遣・配置されていない |
|--|

問5. 下記の子どものついて校内で共有しているケースはありますか。
(あてはまる番号すべてを選択)

- | |
|--|
| 1. 学校を休みがちである 2. 遅刻や早退が多い 3. 保健室で過ごしていることが多い
4. 精神的な不安定さがある 5. 身だしなみが整っていない 6. 学力が低下している
7. 宿題や持ち物の忘れ物が多い
8. 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い
9. 学校に必要なものを用意してもらえない 10. 修学旅行や宿泊行事を欠席する
11. 校納金が遅れる、未払い 12. その他() |
|--|

問6. 問5のケースについて、どのような体制で情報共有・対応の検討を行っていますか。
最も多いケースでご回答ください。(あてはまる番号1つを選択)

- | |
|---|
| 1. 不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している → 問7へ
2. 不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している → 問7へ
3. 個別に対応している(決まった検討体制はない) → 問8へ |
|---|

問7. 問6で「1. 不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」、「2. 不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」と回答した方にお伺いします。校内ではどのような体制で情報共有・対応を行っていますか。

(1) 情報共有・対応の検討の方法等(あてはまる番号すべてを選択)

1. スクリーニング会議(※) 2. ケース会議 3. 生徒指導部・委員会など
4. 児童生徒理解・支援シートなど共通様式による情報共有
5. 教育相談コーディネーターなど学校内・関係機関との連絡調整・会議開催など児童生徒の抱える課題の解決に向けて調整役として活動する教職員の配置・指名 6. その他

※すべての子どもを対象として、問題の未然防止のために、データに基づいて、潜在的に支援の必要な子どもや家庭を適切な支援につなぐための迅速な識別を行う会議。

(2) (1)で「1. スクリーニング会議」と回答した方にお伺いします。どの教職員が参加していますか。(あてはまる番号すべてを選択)

1. 校長 2. 副校長・教頭 3. 学年主任 4. 担当教諭 5. 生徒指導教諭 6. 養護教諭
7. SSW 8. SC 9. 外部の関係機関() 10. その他()

(3) (1)で「1. スクリーニング会議」と回答した方にお伺いします。会議の頻度はどれくらいですか。(あてはまる番号1つを選択)

1. 2週間に1以上 2. 月に1回程度 3. 半年に1回程度 4. 年に1回程度

(4) (1)で「2. ケース会議」と回答した方にお伺いします。どの教職員が参加していますか。(あてはまる番号すべてを選択)

1. 校長 2. 副校長・教頭 3. 学年主任 4. 担当教諭 5. 生徒指導教諭 6. 養護教諭
7. SSW 8. SC 9. 外部の関係機関() 10. その他()

(5) (1)で「2. ケース会議」と回答した方にお伺いします。会議の頻度はどれくらいですか。(あてはまる番号1つを選択)

1. 2週間に1以上 2. 月に1回程度 3. 半年に1回程度 4. 年に1回程度

(6) (1)で「3. 生徒指導部・委員会など」と回答した方にお伺いします。どの教職員が参加していますか。(あてはまる番号すべてを選択)

1. 校長 2. 副校長・教頭 3. 学年主任 4. 担当教諭 5. 生徒指導教諭 6. 養護教諭
7. SSW 8. SC 9. 外部の関係機関() 10. その他()

(7) (1)で「3. 生徒指導部・委員会など」と回答した方にお伺いします。会議の頻度はどれくらいですか。(あてはまる番号1つを選択)

1. 2週間に1以上 2. 月に1回程度 3. 半年に1回程度 4. 年に1回程度

(8) (1)で「6. その他」と回答した方にお伺いします。「その他」の具体的な内容を入力してください。(自由記述)

(9) (1)で「6. その他」と回答した方にお伺いします。どの教職員が参加していますか。(あてはまる番号すべてを選択)

1. 校長 2. 副校長・教頭 3. 学年主任 4. 担当教諭 5. 生徒指導教諭 6. 養護教諭
7. SSW 8. SC 9. 外部の関係機関() 10. その他()

(10) (1)で「6. その他」と回答した方にお伺いします。会議の頻度はどれくらいですか。(あてはまる番号1つを選択)

1. 2週間に1以上 2. 月に1回程度 3. 半年に1回程度 4. 年に1回程度

問8. 問6で「3. 個別に対応している(決まった検討体制はない)」と回答した方にお伺いします。問5のケースについて貴校ではどのような体制・方法で情報共有・対応の検討を行っていますか。関わる教職員、情報共有や検討の方法、頻度等について、具体的にお教えください。(自由記述)

問9. 問5のケースについて、学校以外の関係機関と連携して、必要に応じて情報共有や対応の検討を行うための体制がありますか。(A)～(C)のケースについてお教えてください。

【A】要保護児童対策地域協議会の登録ケース

(1) 体制の有無をお教えてください。(あてはまる番号1つを選択)

1. ある 2. ない

(2) (1)で体制が「ある」と回答した方にお伺いします。連携体制がある場合は、連携する関係機関を選択してください。(あてはまる番号すべてを選択)

1. 市町村教育委員会 2. 市町村の福祉部門(4を除く) 3. 市町村の保健部門
4. 市町村の要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門
5. 教育支援センター(適応指導教室) 6. フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設
7. 児童相談所 8. 地域包括支援センター・居宅介護支援事業所
9. 障がい者相談支援事業所 10. 民生委員 11. 病院 12. 警察や刑事司法関係機関
13. その他()

【B】不登校のケース

(1) 体制の有無をお教えてください。(あてはまる番号1つを選択)

1. ある 2. ない

(2) (1)で体制が「ある」と回答した方にお伺いします。連携体制がある場合は、連携する関係機関を選択してください。(あてはまる番号すべてを選択)

1. 市町村教育委員会 2. 市町村の福祉部門(4を除く) 3. 市町村の保健部門
4. 市町村の要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門
5. 教育支援センター(適応指導教室) 6. フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設
7. 児童相談所 8. 地域包括支援センター・居宅介護支援事業所
9. 障がい者相談支援事業所 10. 民生委員 11. 病院 12. 警察や刑事司法関係機関
13. その他()

【C】それ以外のケース

(1) 体制の有無をお教えてください。(あてはまる番号1つを選択)

1. ある 2. ない

(2) (1)で体制が「ある」と回答した方にお伺いします。連携体制がある場合は、連携する関係機関を選択してください。(あてはまる番号すべてを選択)

1. 市町村教育委員会 2. 市町村の福祉部門(4を除く) 3. 市町村の保健部門
4. 市町村の要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門
5. 教育支援センター(適応指導教室) 6. フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設
7. 児童相談所 8. 地域包括支援センター・居宅介護支援事業所
9. 障がい者相談支援事業所 10. 民生委員 11. 病院 12. 警察や刑事司法関係機関
13. その他()

Ⅲ. ヤングケアラーについてお伺いします。

問10. 貴校では「ヤングケアラー」という概念を認識していますか。(あてはまる番号1つを選択)

1. 言葉を知らない → 問13へ
2. 言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない → 問13へ
3. 言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない → 問13へ
4. 言葉を知っており、学校として意識して対応している → 問11へ

問11. 問10で「4. 言葉を知っており、学校として意識して対応している」と回答した方にお伺いします。「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態を把握していますか。(あてはまる番号1つを選択)

1. 把握している → 問12へ
2. 「ヤングケアラー」と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない → 問13へ
3. 該当する子どもはいない(これまでもいなかった) → 問13へ

問12. 問11で「1. 把握している」と回答した方にお伺いします。「ヤングケアラー」と思われる子どもをどのように把握していますか。(あてはまる番号1つを選択)

1. アセスメントシートやチェックリストなどのツールを用いている
2. 特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を持って検討・対応している
3. その他()

問13. ヤングケアラーを把握していない方も含め、全員にお伺いします。

下記のヤングケアラーの定義や状態像を踏まえて、以下の設問にお答えください。

※ヤングケアラーたちは、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っていることにより、学べない、やりたいことができないなど、「子どもの権利」が守られない可能性があり、適切な支援が必要です。

ヤングケアラーの定義を見て、現在、貴校にヤングケアラーと思われる(可能性も含めて)子どもはいますか。(あてはまる番号1つを選択)

1. いる → 問14へ
2. いない → 問16へ
3. わからない → 問15へ

問14. 問13で「1. いる」と回答した方にお伺いします。

(1) ヤングケアラーと思われる子どもの状況は次のうちどれですか。(あてはまる番号すべてを選択)

1. 障がいや病気のある家族に代わり、家事(買い物、料理、洗濯、掃除など)をしている
2. 家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている
3. 家族の代わりに、障がいや病気のあるきょうだいの世話をしている
4. 目の離せない家族の見守りや声掛けをしている
5. 家族の通訳をしている(日本語や手話など)
6. アルコール・薬物・ギャンブルなどの問題のある家族に対応している
7. 病気の家族の看病をしている
8. 障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている
9. 障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている
10. その他()

- (2) ヤングケアラーと思われる子どもについて、具体的に学校以外の外部(教育委員会、役所、要保護児童対策地域協議会など)の支援につないだケースはありますか。(あてはまる番号すべてを選択)

- | |
|---|
| 1. 要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある → (3)へ
2. 要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある → (4)へ
3. 外部の支援にはつないでいない(学校内で対応している) → (5)へ |
|---|

- (3) 問14 (2) で「1. 要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある」と回答した方にお伺いします。該当する直近のケースについてお教えてください。

①性別

- | |
|--------------------|
| 1. 女性 2. 男性 3. その他 |
|--------------------|

②学年

- | |
|--|
| 1. 小学1年生 2. 小学2年生 3. 小学3年生
4. 小学4年生 5. 小学5年生 6. 小学6年生 |
|--|

③学校生活の状況(あてはまる番号すべてを選択)

- | |
|--|
| 1. 学校を休みがちである 2. 遅刻や早退が多い 3. 保健室で過ごしていることが多い
4. 精神的な不安定さがある 5. 身だしなみが整っていない 6. 学力が低下している
7. 宿題や持ち物の忘れ物が多い
8. 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い
9. 学校に必要なものを用意してもらえない 10. 修学旅行や宿泊行事を欠席する
11. 校納金が遅れる、未払い 12. その他() |
|--|

④家族構成(あてはまる番号すべてを選択)

- | |
|--|
| 1. 母親 2. 父親 3. 祖母 4. 祖父 5. きょうだい 6. その他() |
|--|

⑤家庭でのケアの状況

◎ケアの状況を把握しているか。

- | |
|----------------------------------|
| 1. はい → 「はい」の場合、ケアの具体的な内容 2. いいえ |
|----------------------------------|

a) ケアを必要としている人 (あてはまる番号すべてを選択)

- | |
|--|
| 1. 母親 2. 父親 3. 祖母 4. 祖父 5. きょうだい 6. その他() |
|--|

b) ケアを必要としている人の状況 (あてはまる番号すべてを選択)

- | |
|--|
| 1. 高齢(65歳以上) 2. 幼い 3. 要介護(介護が必要な状態) 4. 認知症
5. 身体障がい 6. 知的障がい 7. 精神疾患(疑い含む) 8. 依存症(疑い含む)
9. 7,8以外の病気 10. 日本語を第一言語としない 11. その他()
12. わからない |
|--|

c) ケアの内容 (あてはまる番号すべてを選択)

- | |
|---|
| 1. 家事(食事の準備や掃除、洗濯) 2. きょうだいの世話や保育所等への送迎など
3. 身体的な介護(入浴やトイレのお世話など) 4. 外出の付き添い(買い物、散歩など)
5. 病院の付き添い 6. 感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど) 7. 見守り
8. 通訳(日本語や手話など) 9. 金銭管理 10. 薬の管理 11. その他()
12. わからない |
|---|

⑥ヤングケアラーと気付いた理由・きっかけ（自由記述）

⑦つないだ機関（自由記述）

⑧外部機関へのつなぎ方

1. 市町村教育委員会経由 2. 学校から直接連絡 3. その他()

⑨学校が行った支援等（つなぎ先との連携も含めて）（自由記述）

⑩支援した結果、子どもへの変化

(5) 問14(2)で「3. 外部の支援にはつないでいない(学校内で対応している)」と回答した方にお伺いします。外部の支援につながった理由を教えてください。また、どのように対応しているのか教えてください。

【理由】（自由記述）

【対応方法】（自由記述）

(6) ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していること、気を付けていることはどのようなことですか。具体的にお答えください。（自由記述）

(7) ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じることはどのようなことですか。具体的にお答えください。（自由記述）

(8) 問5の選択肢は、「ヤングケアラー」と思われる子どもを把握するためのチェック項目として作成したのですが、追加すべき項目や、分かりにくい点や案があればお書きください。

【ご意見】【変更項目案】【追加項目案】（自由記述）

<参考：問5の選択肢>

1. 学校を休みがちである
2. 遅刻や早退が多い
3. 保健室で過ごしていることが多い
4. 精神的な不安定さがある
5. 身だしなみが整っていない
6. 学力が低下している
7. 宿題や持ち物の忘れ物が多い
8. 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い
9. 学校に必要なものを用意してもらえない
10. 修学旅行や宿泊行事を欠席する
11. 校納金が遅れる、未払い
12. その他()

問15問13で「3. 分からない」と回答した方にお伺いします。その理由をお教えてください。

(あてはまる番号すべてを選択)

1. 学校において、「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している
2. 不登校やいじめなどに比べ緊急度が高くないため、「ヤングケアラー」に関する実態の把握が後回しになる
3. 家庭内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい
4. ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない
5. その他()

問16全員にお伺いします。ヤングケアラーを支援するために、必要だと思うことはどのようなことですか。(あてはまる番号すべてを選択)

- | |
|--|
| 1. 子ども自身がヤングケアラーについて知ること
2. 教職員がヤングケアラーについて知ること
3. 学校にヤングケアラーが何人いるか把握すること
4. SSWやSCなどの専門職の配置が充実すること
5. 子どもが教員に相談しやすい関係をつくること
6. ヤングケアラーについて検討する組織を校内につくること
7. 学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること
8. 学校がヤングケアラーの支援について相談できる機関があること
9. ヤングケアラーを支援するNPOなどの団体が増えること
10. 福祉と教育の連携を進めること()
11. その他() 12. 特にない |
|--|

問17ヤングケアラーに関してご自由に意見をお書きください。(自由記述)

★学校での取組についてヒアリングを予定しています。ヒアリングにご協力いただける場合は、次の項目を入力してください。別途、ご連絡させていただきます。

- ①所在地(住所) ②学校名 ③連絡先:電話番号 ④連絡先:メールアドレス

ヤングケアラーの子どもは、「宿題や忘れ物が多い」「授業中に疲れて眠ってしまう」といった普段とは違う様子が見られることに学校の先生が気づいたことで、支援につながる例が多くあります。

子どもがケアを担っている家庭には、それぞれ様々な事情があり、適切な支援を行うにはスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー、要保護児童対策地域協議会などに加え、医療や介護、福祉分野の関係機関との連携も必要となるかもしれません。

ヤングケアラーを支援するための仕組みづくりは多くの自治体で緒に就いたばかりかと思いますが、子どもたちの権利が守られるよう、ご支援賜りたくお願い申し上げます。

アンケートにご回答いただき、誠にありがとうございました。

(下の「回答」ボタンをクリックしてください。)

6.5 要保護児童対策地域協議会におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート票

要保護児童対策地域協議会における ヤングケアラーへの対応に関するアンケート

貴地域協議会の活動状況や「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応についてお伺いします。

問1. 令和3年度の貴地域協議会におけるケース登録数をお教えください。

※登録種別ごとのヤングケアラーの内訳がわからない場合は、要保護・要支援児童ケース登録数全体の中で「ヤングケアラー」と思われる子どもの総数だけでも教えてください

(1) 要保護児童ケース登録数

○登録件数(令和3年度) 件 →うち「ヤングケアラー」と思われる子どもの件数 件

(2) 要支援児童ケース登録数

○登録件数(令和3年度) 件 →うち「ヤングケアラー」と思われる子どもの件数 件

(3) 特定妊婦ケース登録数

○登録件数(令和3年度) 件 →うち「ヤングケアラー」と思われる子どもの件数 件

問2. 貴地域協議会では、「ヤングケアラー」という概念を認識していますか。(あてはまる番号1つを選択)

1. 認識している 2. 昨年までは認識していなかったが、認識するようになった
3. 認識していない → 問6へ

問3. 問2で「1. 認識している」「2. 昨年までは認識していなかったが、認識するようになった」と回答された地域協議会にお伺いします。貴地域協議会では、「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態を把握していますか。(あてはまる番号1つを選択)

1. 把握している → 問4へ
2. 「ヤングケアラー」と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない → 問5へ
3. 該当する子どもがない → 問6へ

問4. 問3で「1. 把握している」と回答された地域協議会にお伺いします。貴地域協議会では「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態をどのように把握していますか。(あてはまる番号すべてを選択)

1. アセスメントシートやチェックリストなどのツールを用いている
→「確認を行う時期」をお教えください。(自由記述)
2. 特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を持って検討・対応している
→「確認を行う時期」をお教えください。(自由記述)
3. 関係機関や関係団体からの報告・指摘があった際に、「ヤングケアラー」として対応している
4. その他()

問5. 問3で「2.「ヤングケアラー」と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない」と回答した地域協議会にお伺いします。その理由をお教えてください。(あてはまる番号すべてを選択)

- | |
|--|
| 1. 地域協議会の構成職員において、「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している
2. 既存のアセスメント項目では該当する子どもを見つけにくい
3. 虐待などに比べ緊急度が低いいため、「ヤングケアラー」に関する実態の把握が後回しになる
4. 学校などでの様子を迅速に確認、把握することが難しい
5. 介護や障害等の課題に関して、各関係機関や団体などとの情報共有が不足している
6. 家庭内のことで課題が表に出にくく、実態の把握が難しい
7. ケアマネやCW、学校の先生などに「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している
8. ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない
9. その他() |
|--|

すべての要保護児童対策地域協議会にお伺いします。

問6. 貴地域協議会において、要保護(要支援)登録児童への対応方針の検討や進捗管理はどのように実施されていますか。

(1) 要保護(要支援)児童への具体的な対応方針の検討の場合

- | |
|---------------------------------------|
| 1. 実務者会議で検討 2. 個別ケース検討会議で検討 3. その他() |
|---------------------------------------|

(2) 要保護(要支援)児童への対応に関する進捗管理の場合

- | |
|---------------------------------------|
| 1. 実務者会議で検討 2. 個別ケース検討会議で検討 3. その他() |
|---------------------------------------|

問7. 貴地域協議会では、要保護(要支援)児童の中に「ヤングケアラー」と思われる子どもがいた場合、下記のようなことについてどのように対応されていますか(対応することを決めていますか)。

(1) 「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応方針を決定する部署(機関)

(あてはまる番号1つを選択) ※ここでは進行管理の責任主体のことを指します。

- | |
|---|
| 1. 他の要保護(要支援)児童と同じ対応
2. 他の要保護(要支援)児童とは別に決めている()
3. その他() 4. 特に決まっていない |
|---|

(2) 「ヤングケアラー」と思われる子どもに対して、今後の対応等に関して意向把握をする人(部署・機関) (あてはまる番号1つを選択)

- | |
|---|
| 1. 他の要保護(要支援)児童と同じ対応
2. 他の要保護(要支援)児童とは別に決めている()
3. その他() 4. 特に決まっていない |
|---|

(3) 「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応のため、学校との連携で工夫されていることがありますか。(あてはまる番号1つを選択)

- | |
|--------------------------|
| 1. ある() 2. ない 3. その他() |
|--------------------------|

(4) 「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応のため、医療機関(※)との連携で工夫されていることがありますか。(あてはまる番号1つを選択)

※ここでの医療機関とは、ケアの対象者が、医療的ケアが必要(精神疾患、依存症等)などで、ケア対象者自身が通っている医療機関のことを指し、子供本人が通っている医療機関ではありません。

- | |
|----------------------------|
| 1. ある() 2. 特にない 3. その他() |
|----------------------------|

- (5) 「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応のため、通訳など日本語ができない保護者等への支援を行う関係機関との連携で工夫されていることはありますか。(あてはまる番号1つを選択)

1. ある() 2. 特にない 3. その他()

貴地域協議会や自治体におけるヤングケアラーに対する取組みについてお伺いします。

問8. 「ヤングケアラー」と思われる子どもの有無にかかわらず、貴地域協議会を設置している市町村で、ヤングケアラーに関する取組みを行っていますか。1～8を選択された場合は、それぞれ実施時期と具体的内容をお教えてください。(あてはまる番号すべてを選択)

※1～8の各選択肢を選択した場合、以下の内容を選択もしくは記載

【実施時期】 1. 実施中 2. 今年度以降、新たに実施予定 【具体的内容】 (自由記述)

1. 広報誌やパンフレット、ポスターなどによる啓発
2. 一般市民向けのヤングケアラーに関する講演会の開催
3. 教育委員会等でのヤングケアラーの実態把握・調査
4. 関係機関・団体とのネットワーク・連携体制の強化
5. 関係機関・団体とのヤングケアラーに関する勉強会や研修の実施
6. ヤングケアラー(元ヤングケアラー含む)への相談支援の実施
7. ヤングケアラー(元ヤングケアラー含む)同士の交流の場の提供
8. その他 9. 特にしていない

貴地域協議会におけるヤングケアラーの早期発見や支援などについてお伺いします。

問9. 貴地域協議会において、相談、通告のあった子どもや登録されている子どもが「ヤングケアラー」である可能性を早期に確認する上で、課題に感じることは何ですか。(あてはまる番号すべてを選択)

1. 地域協議会の構成職員において、「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している
2. 既存のアセスメント項目では、学校での様子について踏み込んだ把握ができない
3. 既存のアセスメント項目では、日常生活の様子について踏み込んだ確認ができない
4. 介護や障害等の課題に関して、各関係機関や団体などとの情報共有が不足している
5. 虐待などに比べ緊急度が低いいため、「ヤングケアラー」に関する実態の把握が後回しになる
6. 家族内のことで問題が表に出にくく、子どもの「ヤングケアラー」としての状況の把握が難しい
7. ケアマネやCW、学校の先生など関係機関や団体の職員等において「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している
8. ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない
9. その他()

問10. 貴地域協議会において、「ヤングケアラー」と思われる子どもに対して支援をする際に、課題として考えられることは何ですか。(あてはまる番号すべてを選択)

1. 子ども自身がやりがいを感じていたり、自身の状況を問題と認識しておらず、支援を求めない
2. 家族や周囲の大人に子どもが「ヤングケアラー」である認識がない
3. 保護者が子どもへの支援に同意しない
4. 地域協議会の関係機関・団体において、ヤングケアラーに関する知識が不足している
5. 学校など関係機関との情報提供などネットワークの構築が不十分
6. 福祉分野や教育分野など複数の機関にまたがる支援が必要となるが、そうした支援のコーディネートができる人材が地域協議会にいない
7. 既存の公約サービスやインフォーマルサービスでは、利用できるものがなく、具体的な支援方を検討しにくい
8. その他()

問11. 貴地域協議会では、「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応として、学校やケアが必要な家族の関係機関等に期待することは何ですか。自由に入力してください。

- (1) 学校に対して期待すること (自由記述)
- (2) ケアが必要な家族に関わっている機関に対して期待すること
 - ① うち、保育所・幼稚園などに対して期待すること(きょうだいの世話をしているヤングケアラー) (自由記述)
 - ② うち、保健センターに対して期待すること(兄弟の世話、精神疾患の家族の世話をしているヤングケアラー等の支援) (自由記述)
 - ③ うち、ケアマネなどに対して期待すること(高齢や認知症の家族介護等をしているヤングケアラー等の支援) (自由記述)
 - ④ うち、医療機関などに対して期待すること(精神疾患等の家族の世話をしているヤングケアラー等の支援) (自由記述)

厚生労働省が作成している『「ヤングケアラー」の早期発見のためのアセスメントシート』についてお伺いします。

問12. 現在、貴地域協議会において、「『ヤングケアラー』の早期発見のためのアセスメントシート」を使用されていますか。(あてはまる番号1つを選択)

1. 使用している
2. 使用していない

問13. 問12で「1. 使用している」と回答された協議会にお伺いします。どのように使用していますか。(あてはまる番号1つを選択)

1. そのまま使用している
2. 貴協議会の状況に合わせて項目をアレンジして使用している

※問13が「2. 貴協議会の状況に合わせて項目をアレンジして使用している」の場合には、貴協議会が使用しているアセスメントシートを提供ください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。最後に、「回答者情報」を入力のうち、「回答」ボタンをクリックしてください。

【回答者情報】

貴地域協議会の正式名称、事務局となる団体名(市町村名)、部署名、電話番号